



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PREMIO



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	33
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	42
子供専用シート	43
チャイルドシートの 取り付け	52
排気ガスに対する注意	59
1-3. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	60

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーション ディスプレイ	70

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	78
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア (フロントドア・リヤドア) ...	82
トランク	87
スマートエントリー& スタートシステム	91
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	100
ヘッドレスト	104
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	106
インナーミラー	108
ドアミラー	109
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	113

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	118
荷物を積むときの注意	129

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）	
スイッチ	
（スマートエントリー	
&スタートシステム	
非装着車）	131
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	
（スマートエントリー	
&スタートシステム	
装着車）	134
オートマチック	
トランスミッション	139
方向指示レバー	142
パーキングブレーキ	143

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	144
フロントフォグランプ	
スイッチ	149
ワイパー & ウォッシャー	
（フロント）	150
ワイパー & ウォッシャー	
（リヤ）	153

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	155
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C...	159
PCS（プリクラッシュ	
セーフティシステム）	164
LDA（レーンディパーチャー	
アラート／	
車線逸脱警報）	177
オートマチックハイビーム...	183

4-6. 運転支援装置について

先行車発進告知機能	187
クルーズコントロール	189
クリアランスソナー	193
インテリジェント	
クリアランスソナー	201
Stop & Start System	213
運転を補助する装置	224

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	232
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方

マニュアルエアコン	236
オートエアコン	242
シートヒーター	251

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	254
・フロント パーソナルランプ	255
・リヤ読書灯	255

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	257
・グローブボックス	258
・コンソールボックス	259
・カップホルダー	260
・ボトルホルダー	261
・小物入れ	262
トランク内装備	264
・三角表示板 収納スペース	264

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	265
・サンバイザー	265
・バニティミラー	265
・時計	266
・アクセサリソケット	267
・リヤセンター アームレスト	268
・アシストグリップ	268
・コートフック	269
・オーディオスイッチ	269

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	272
内装の手入れ	275

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	280
ガレージジャッキ	282
ウォッシャー液の補充	283
タイヤについて	285
タイヤ空気圧について	288
エアコンフィルターの交換	290
キーの電池交換	292
ヒューズの点検・交換	295
電球（バルブ）の交換	298

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	310
非常点滅灯 (ハザードランプ)	311
発炎筒	312
車両を緊急停止するには	314

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	316
フューエルポンプ シャットオフシステム	323
警告灯がついたときは	324
警告メッセージが 表示されたときは	328
パンクしたときは	332
エンジンが かからないときは	344
電子キーが正常に 働かないときは (スマートエントリー& スタートシステム装着車) ...	346
バッテリーが あがったときは	348
オーバーヒートした ときは	354
スタックしたときは	357

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	360
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	367
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	371
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	374
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	378
アルファベット順さくいん	380
五十音順さくいん	381

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

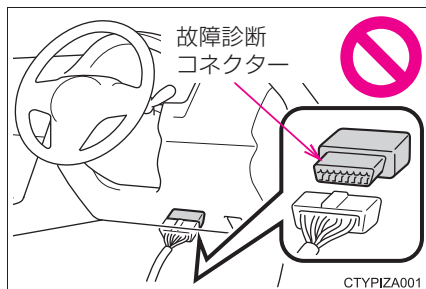
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の実装については、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせで使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。

トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense C

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



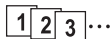
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

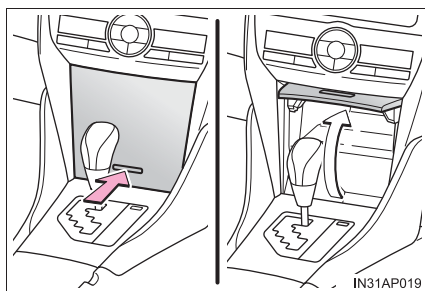
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

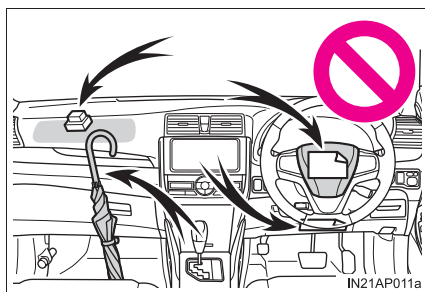
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

❌ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



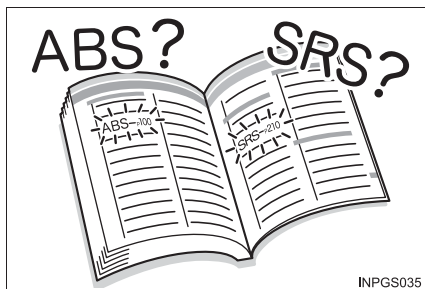
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

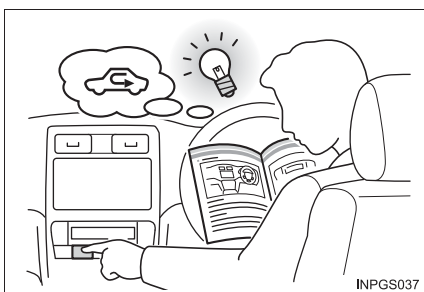
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん381
- ・ アルファベット順
さくいん380



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



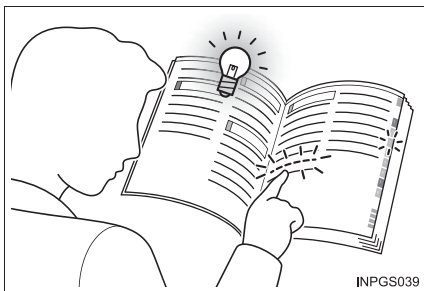
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)374
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)378



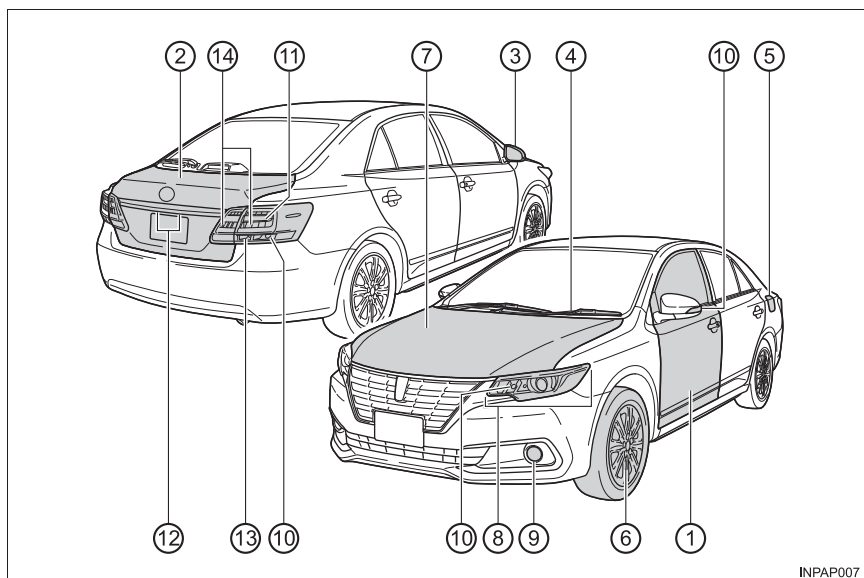
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状はグレード等により異なります。

- ① ドアP. 82
 - 施錠／解錠P. 82
 - ドアガラスの開閉P. 113
 - メカニカルキーでの施錠／解錠★P. 346
 - 警告メッセージP. 328
- ② トランクP. 87
 - 車外から開けるP. 87
 - 車内から開けるP. 87
- ③ ドアミラーP. 109
 - 鏡面の角度調整P. 109
 - ミラーの格納P. 109
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★P. 111

- ④ **ワイパー**.....P. 150
 冬季の注意P. 232
 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★P. 238, 245
- ⑤ **給油口**.....P. 155
 給油方法P. 155
 燃料の種類・燃料タンク容量P. 360
- ⑥ **タイヤ**.....P. 285
 サイズ・空気圧P. 286
 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 232
 点検・ローテーションP. 285
 パンク時の対処P. 332
- ⑦ **ボンネット**P. 280
 開け方P. 280
 エンジンオイルP. 360
 オーバーヒート時の対処P. 354

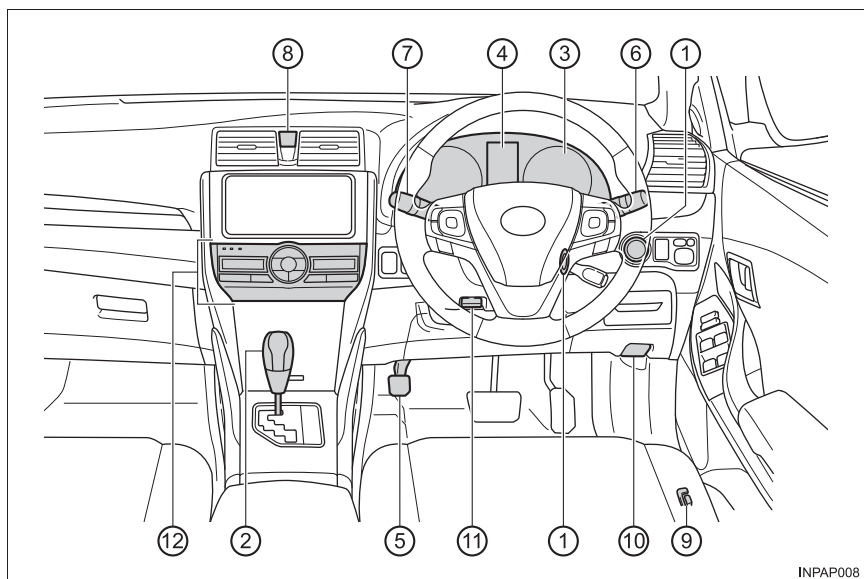
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 298, ワット数：P. 365)

- ⑧ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 144
- ⑨ **フロントフォグランプ★**P. 149
- ⑩ **方向指示灯**P. 142
- ⑪ **制動灯**
- ⑫ **番号灯**.....P. 144
- ⑬ **後退灯**
 シフトポジションを R にするP. 139
- ⑭ **尾灯**P. 144

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

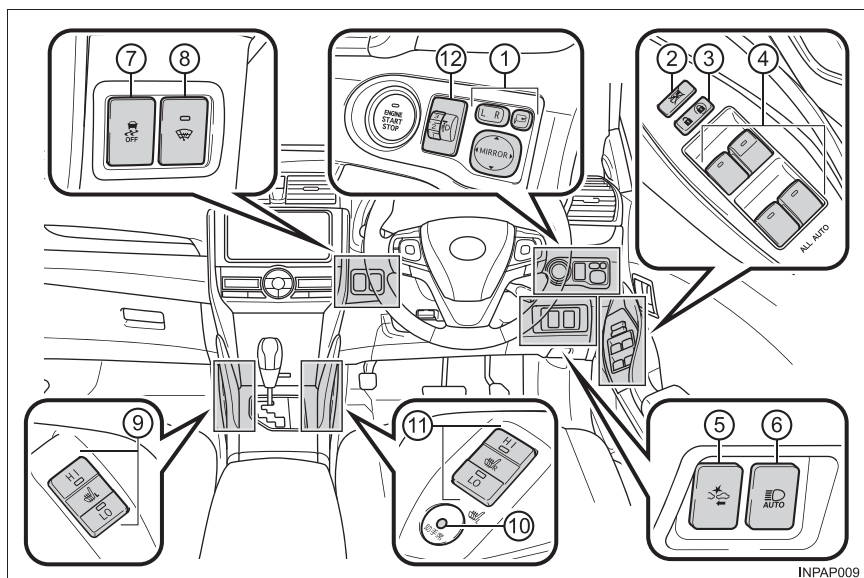


INPAP008

- ① エンジンスイッチ P. 131, 134
 エンジンの始動・モード切りかえ P. 131, 134
 エンジンの緊急停止 P. 314
 エンジンが始動できないときの対処 P. 344
 警告メッセージ P. 328
- ② シフトレバー P. 139
 シフトポジションの切りかえ P. 139
 けん引時の注意 P. 316
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 140
- ③ メーター P. 62
 見方・明るさの調整 P. 66
 警告灯／表示灯 P. 62, 64
 警告灯点灯時の対処 P. 324

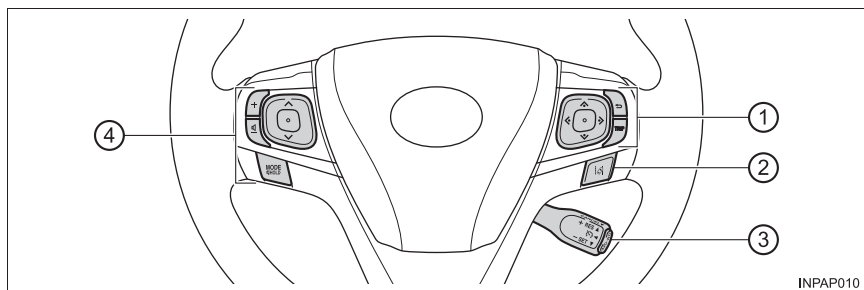
④ マルチインフォメーションディスプレイ	P. 70
表示内容	P. 70
警告メッセージ表示時の対処	P. 328
⑤ パーキングブレーキ	P. 143
かける・解除する	P. 143
冬季の注意	P. 233
警告ブザー・警告メッセージ	P. 324, 328
⑥ 方向指示レバー	P. 142
ランプスイッチ	P. 144
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯	P. 144
フロントフォグランプ★	P. 149
⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 150, 153
リヤワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 153
使い方	P. 150
ウォッシャー液の補充	P. 283
⑧ 非常点滅灯スイッチ	P. 311
⑨ 給油口オープナー	P. 155
トランクオープナー	P. 87
⑩ ボンネット解除レバー	P. 280
⑪ ハンドル位置調整レバー	P. 106
⑫ マニュアルエアコン／オートエアコン	P. 236, 242
操作方法	P. 236, 242
リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー)	P. 237, 244

■ スイッチ類



INPAP009

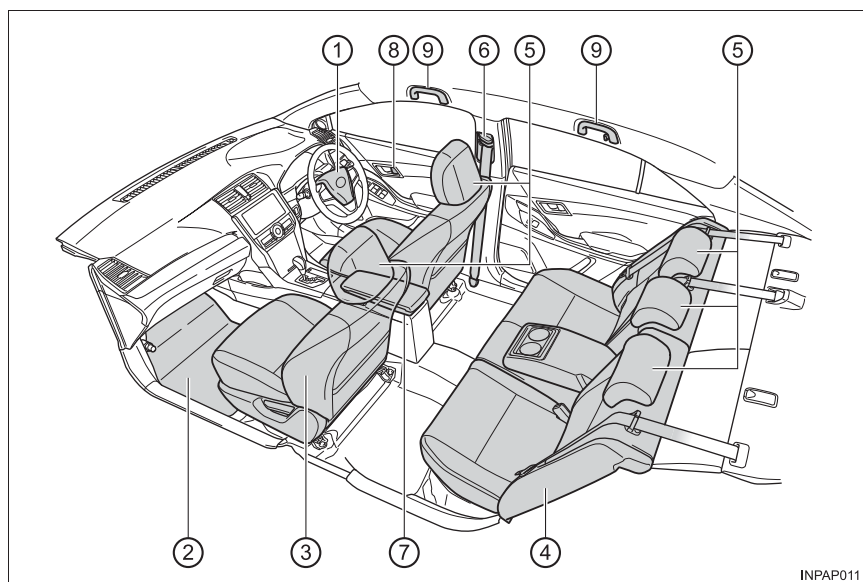
- ① ドアミラースイッチP. 109
- ② ウィンドウロックスイッチP. 113
- ③ ドアロックスイッチP. 84
- ④ パワーウィンドウスイッチP. 113
- ⑤ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) スイッチ★P. 164
- ⑥ オートマチックハイビームスイッチ★P. 183
- ⑦ VSC OFF スイッチP. 226
- ⑧ フロントワイパーデアイザースイッチ★P. 238, 245
- ⑨ シートヒータースイッチ (助手席側) ★P. 251
- ⑩ 助手席シートヒーター作動表示灯★P. 251
- ⑪ シートヒータースイッチ (運転席側) ★P. 251
- Stop & Start キャンセルスイッチ★P. 214
- ⑫ 手動光軸調整ダイヤル★P. 146



- ① メーター操作スイッチ.....P. 71
- ② LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★.....P. 177
- ③ クルーズコントロールスイッチ★.....P. 189
- ④ オーディオスイッチP. 269

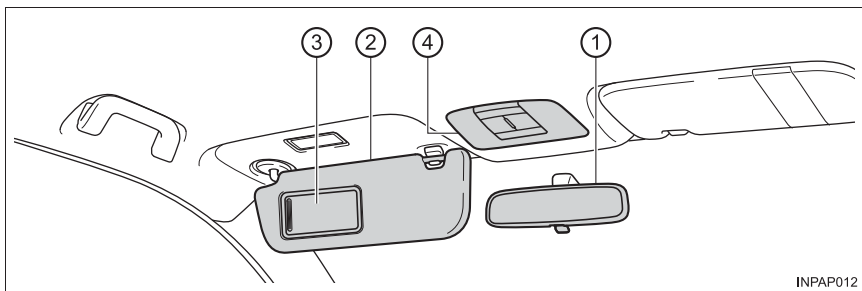
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



INPAP011

- | | |
|-------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 33 |
| ② フロアマット | P. 22 |
| ③ フロントシート | P. 97 |
| ④ リヤシート | P. 100 |
| ⑤ ヘッドレスト | P. 104 |
| ⑥ シートベルト | P. 26 |
| ⑦ コンソールボックス | P. 259 |
| ⑧ ロックレバー | P. 84 |
| ⑨ アシストグリップ | P. 268 |



INPAP012

- ① インナーミラーP. 108
- ② サンバイザー※¹P. 265
- ③ バニティミラーP. 265
- ④ フロントパーソナルランプ※²P. 255

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 57)

※² : 図はフロントですが、リヤにも装着されています。



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	33
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	42
子供専用シート.....	43
チャイルドシートの 取り付け.....	52
排気ガスに対する注意	59
1-3. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム.....	60

運転する前に

点検整備

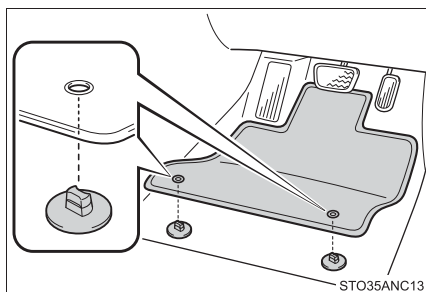
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

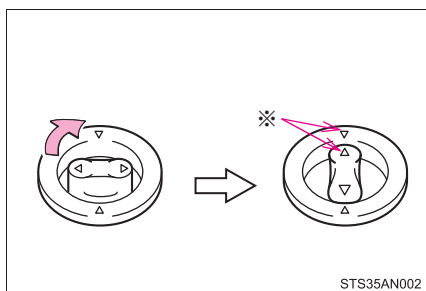
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

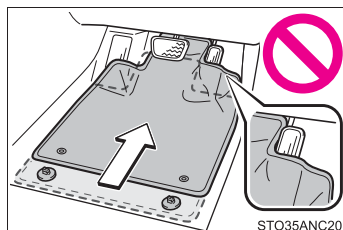
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

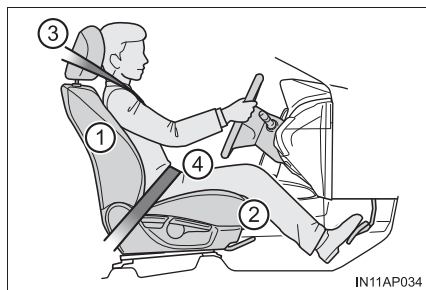


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 97）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 97）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 104）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意下さい。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 108, 109）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

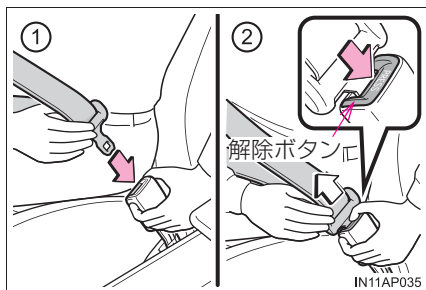
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはすれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（フロント席・リヤ左右席）

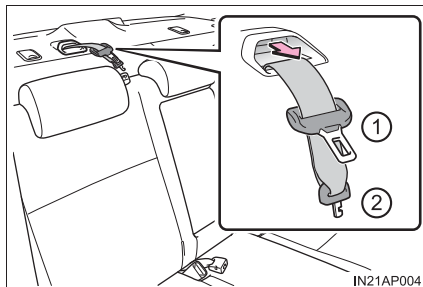
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートがバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



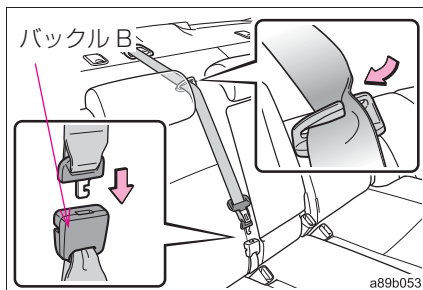
着け方・はずし方（リヤ中央席）

1 プレートを取り出す

- ① プレート A
- ② プレート B



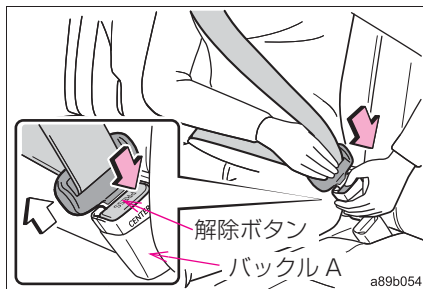
2 シートベルトをガイドに通し、プレート B をバックル B に挿し込む “カチッ”と音がするまで挿し込みます。



3 プレート A をバックル A に挿し込む

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

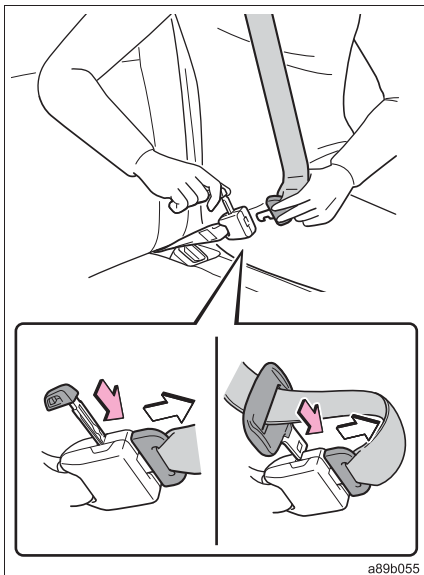
ベルトを解除するには、解除ボタンを押します。



分離・格納のしかた（リヤ中央席）

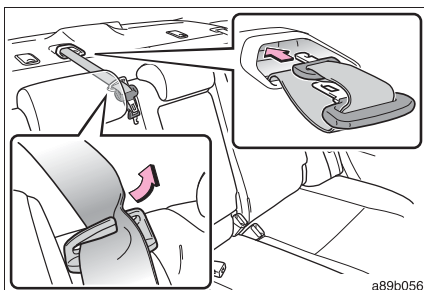
- 1** メカニカルキー（→ P. 78）またはプレート A をバックルに挿し込む

シートベルトを分離・分割するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻き戻します。



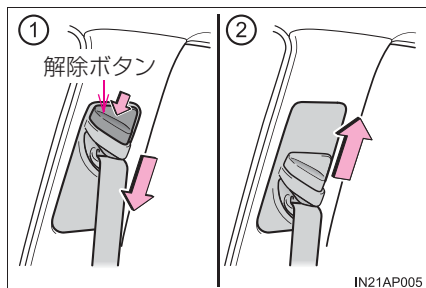
- 2** シートベルトをガイドからはずし、プレート A、B を重ねて格納する

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。



シートベルトの高さ調節（フロント席）

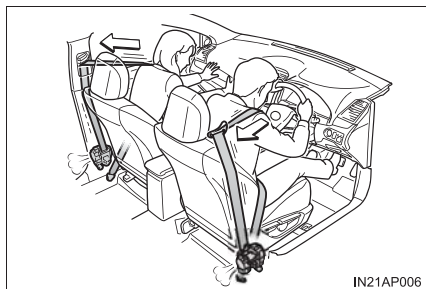
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 52）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

！ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイド（→ P. 103）に通っていることを確認する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレートBとバックルBを結合する

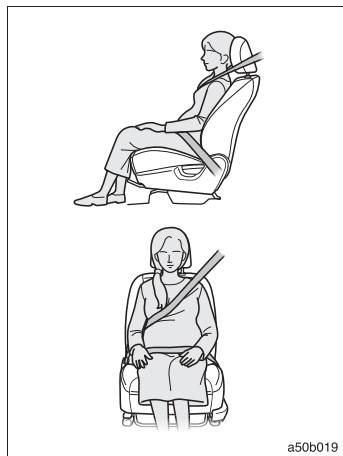


警告**■ 妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

 警告**■ プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

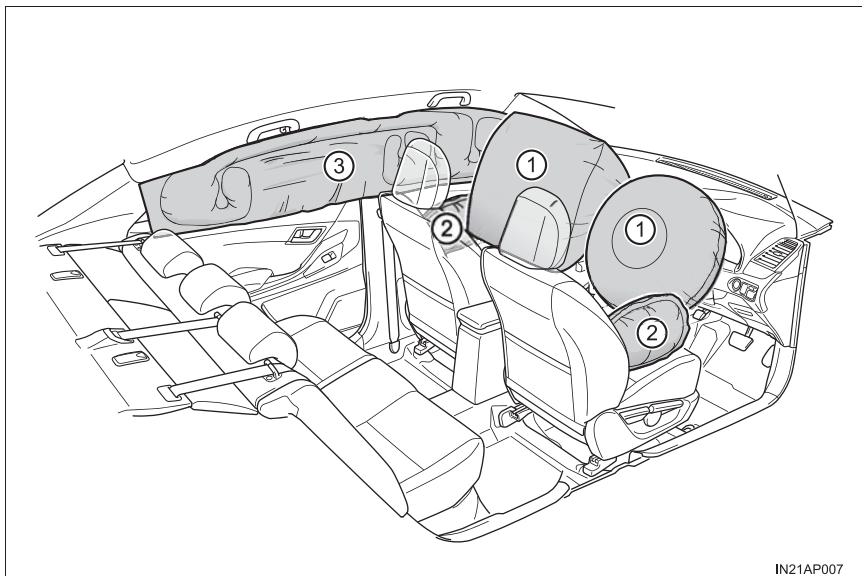
- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 注意**■ リヤ中央席のシートベルトについて**

運転席側リヤシートの背もたれを前倒しするとき以外は、ベルトを分離しないでください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ★

- ② SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

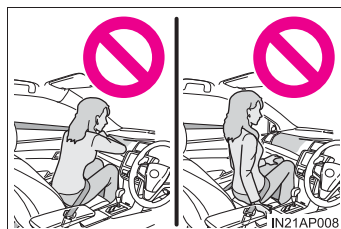
警告

■ SRS エアバッグについて

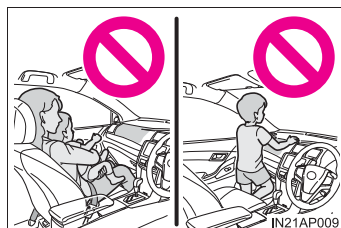
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 52)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



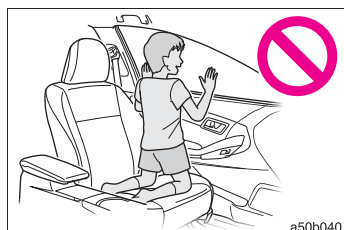
警告

■ SRS エアバッグについて

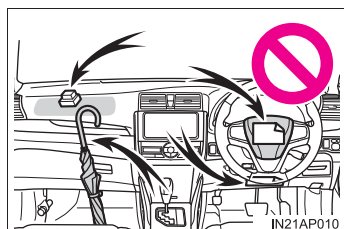
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



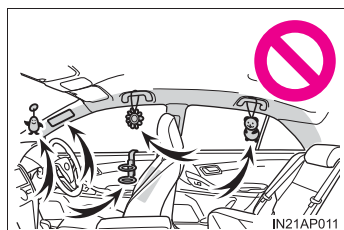
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



 警告**■ SRS エアバッグについて**

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告**■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：
エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：
フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★）

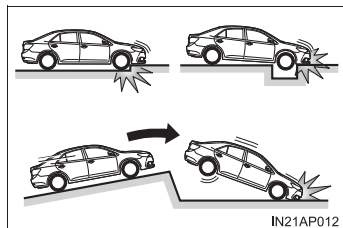
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

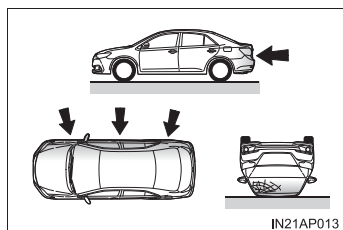
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

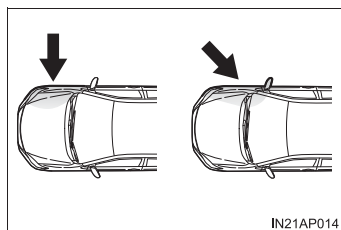
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★)

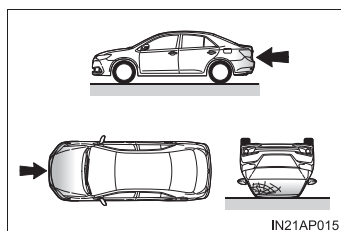
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

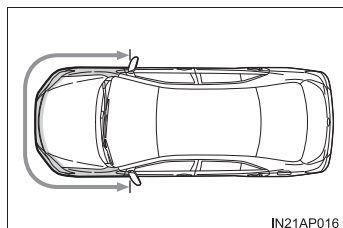


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

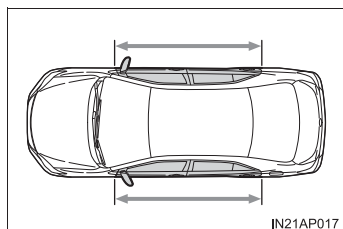
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

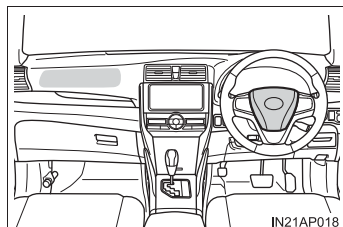
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



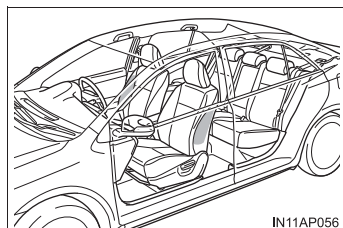
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



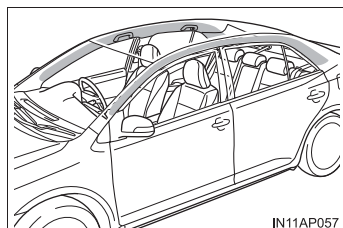
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 85)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 113) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 52)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0 : 10kg まで

グループ 0⁺ : 13kg まで

グループ I : 9 ~ 18kg

グループ II : 15 ~ 25kg

グループ III : 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

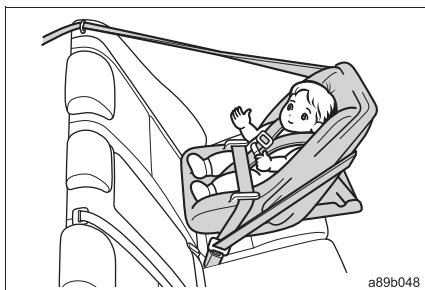
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとりなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

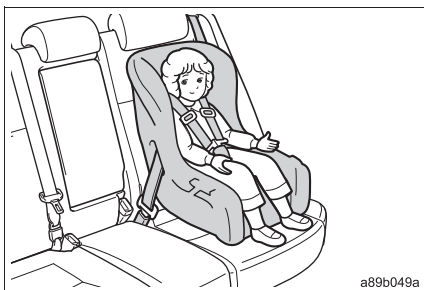
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺
に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、
I に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、III
に相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
O（10kg まで）	×	L1 ※ 1	L2 ※ 1
O ⁺ （13kg まで）	×	L1 ※ 1	L2 ※ 1
I（9 ～ 18kg）	後ろ向き ×	L1 ※ 1	L2 ※ 1
	前向き UF ※ 1		
II（15 ～ 25kg）	UF ※ 1、※ 2	U ※ 1、※ 2	L3 ※ 1、※ 2
III（22 ～ 36kg）			

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向き子供専用シートに適しています。

L1：このグループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」、「トヨタ純正 NEO G-Child baby」に適しています。

L2：このグループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L3：このグループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 1 子供専用シートを取り付ける際は背もたれの角度を最前段位置にしてください。

- ※² 子供専用シートを取り付ける際はヘッドレストをはずしてください。
(取りはずしたヘッドレストは車両からはずして保管するか、トランク内に
容易に動かないように収納してください)

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者
または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
O (10kg まで)	E	ISO/R1	IL1 ※1
O ⁺ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL1 ※1
	D	ISO/R2	IL1 ※1
	C	ISO/R3	IL1 ※1
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※1、※2、IL1 ※1
	B1	ISO/F2X	IUF ※1、※2、IL1 ※1
	A	ISO/F3	IUF ※1、※2、IL1 ※1
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-child ISO leg」に適合しています。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適合しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 子供専用シートを取り付ける際は背もたれの角度を最前段位置にしてください。

※2 ISOFIX 子供専用シートを取り付ける際はヘッドレストを最上段位置にする、またははずしてください。

(取りはずしたヘッドレストは車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください)

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 45)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 47)を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

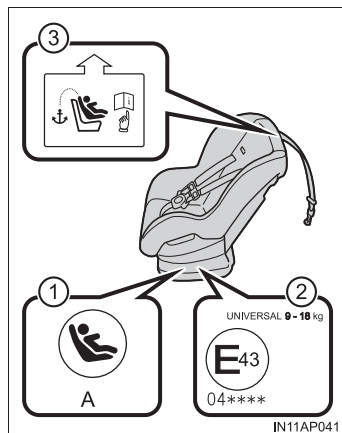
(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

- ③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- ① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

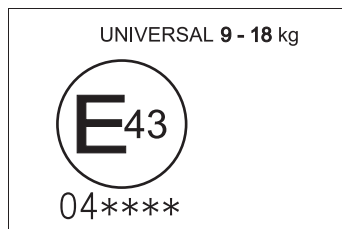
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

② で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

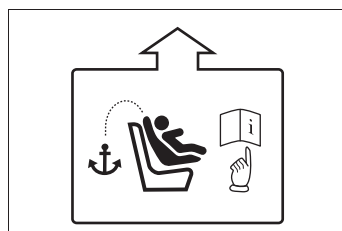


- ② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- ③ トップテザー（→ P. 52）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれの角度を最前段位置にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる
- 質量グループⅡ、Ⅲの子供専用シートを取り付ける場合は、ヘッドレストを取りはずす（取りはずしたヘッドレストは車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください）



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

 警告**■ 子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

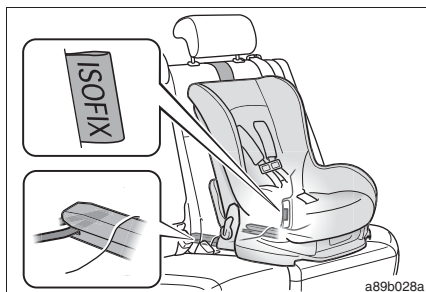
取り付け方法は、必ず商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 53)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定
専用バー (→ P. 54)

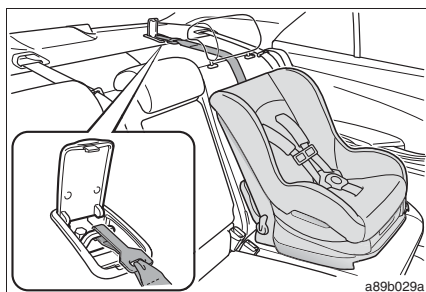
リヤ外側シートに装備されています。
(固定専用バーが装備されていること
を示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→ P. 54)

テザーベルトを固定するときに使いま
す。

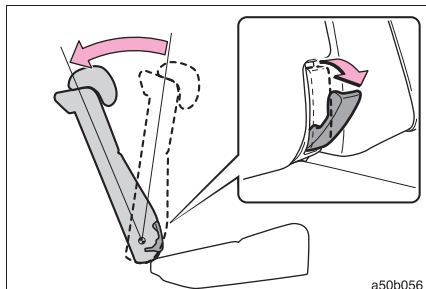
トップテザーアンカーはリヤシート外
側の座席後方のパッケージトレイに装
備されています。



シートベルトで固定する

1 背もたれの角度を調整する

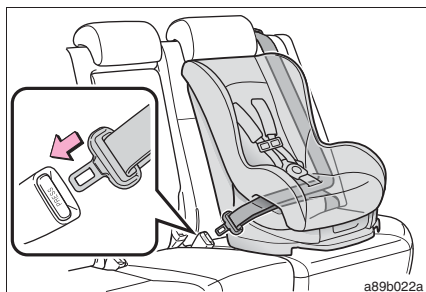
レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 100)



a50b056

2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

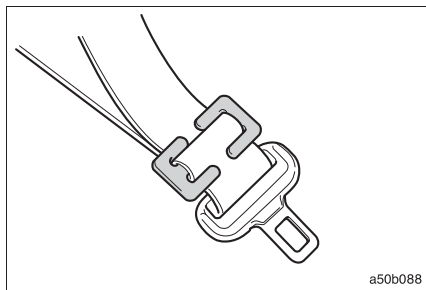
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



a89b022a

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
(ロッキングクリップ品番：
73119-22010)

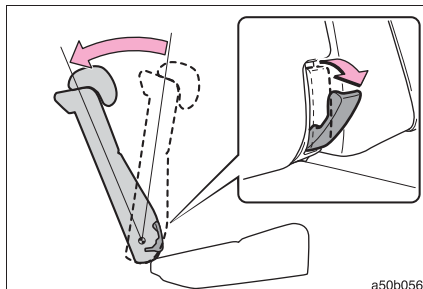


a50b088

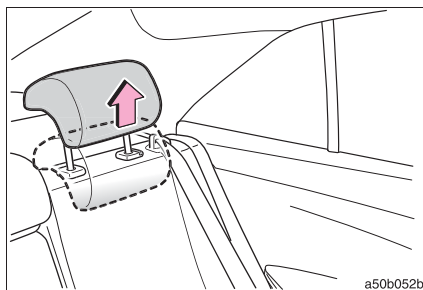
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する**1 背もたれの角度を調整する**

レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 100)

**2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる、またははずす**

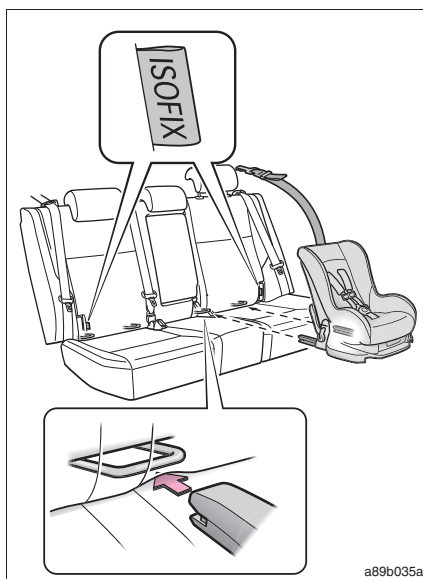
取りはずしたヘッドレストは車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

**3 固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける**

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

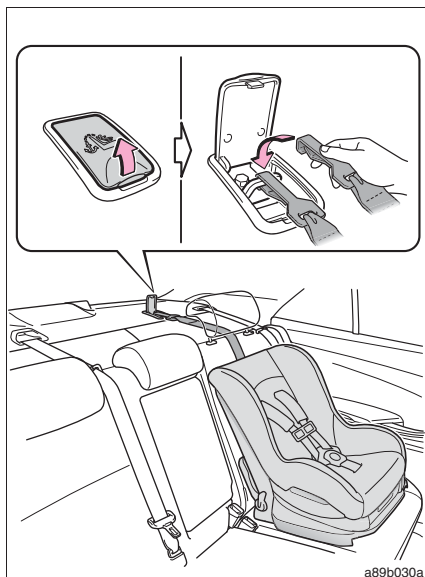
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

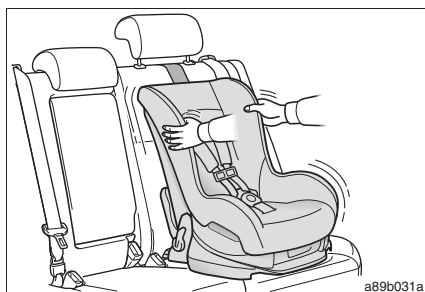


- 4 フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



- 5 取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する



 警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

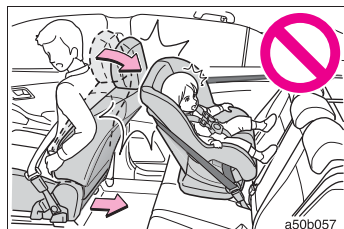
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



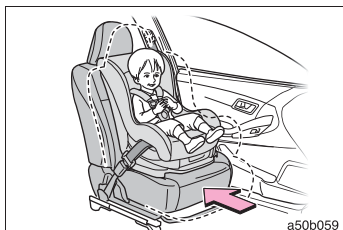
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないとき

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 53, 54）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

注意**■トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム★

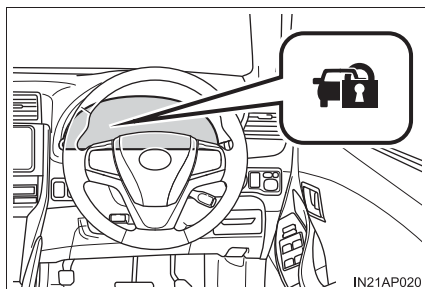
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しない場合

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

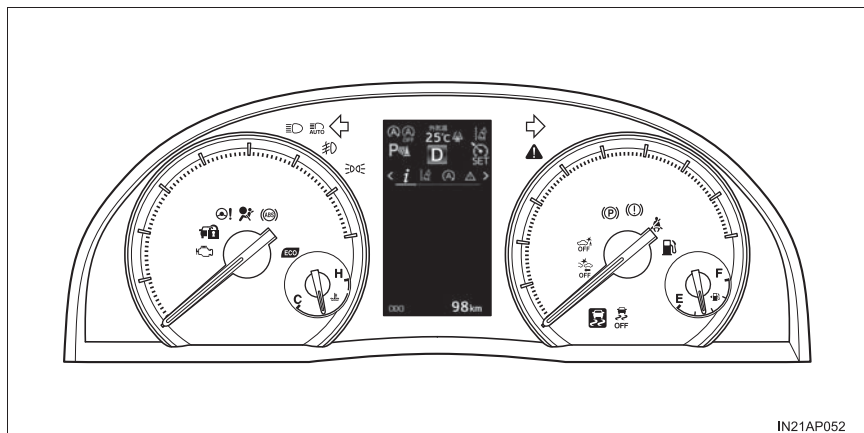
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーション ディスプレイ	70

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 324)



燃料残量警告灯
(→ P. 325)



エンジン警告灯
(→ P. 324)



油圧警告灯 (→ P. 325)



SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
(→ P. 324)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 325)



ABS& ブレーキアシスト警
告灯 (→ P. 324)



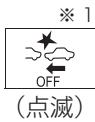
マスターウォーニング
(→ P. 325)



充電警告灯 (→ P. 325)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 324)



PCS 警告灯★
(→ P. 325)



パーキングブレーキ
表示灯 (→ P. 326)



スリップ表示灯
(→ P. 326)



ICS OFF 表示灯★
(→ P. 326)



Stop & Start キャンセル
表示灯★ (→ P. 214)



ブレーキオーバーライドシ
ステム／ドライブスタート
コントロール／インテリ
ジェントクリアランスソ
ナー★警告灯 (→ P. 326)

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチ“ON”★またはイグニッションON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 142)		※ 1 スリップ表示灯 (→ P. 226)
	尾灯表示灯 (→ P. 144)		※ 1、3 VSC OFF 表示灯 (→ P. 226)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 144)		※ 1、3 PCS 警告灯★ (→ P. 167)
	※ 1 オートマチックハイビーム 表示灯★ (→ P. 183)		※ 2 クルーズコントロール 表示灯★ (→ P. 189)
	フロントフォグランプ 表示灯★ (→ P. 149)		セキュリティ表示灯★ (→ P. 60)
	エコドライブ インジケータランプ (→ P. 75)		※ 2、4 低温表示灯 (→ P. 66)
	※ 2 クリアランスソナー表示灯★ (→ P. 193)		パーキングブレーキ 表示灯 (→ P. 143)
	※ 1、3 ICS OFF 表示灯★ (→ P. 203)		※ 2 Stop & Start キャンセル 表示灯★ (→ P. 214)
	※ 2 Stop & Start 表示灯★ (→ P. 213)		※ 2 LDA (レーン ディパーチャーアラート) ★ 表示灯 (→ P. 178)
	※ 2 クルーズコントロール セット表示灯★ (→ P. 189)		オートマチックハイビーム 表示灯★ (→ P. 183)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます
- ※³ システムが OFF のときに点灯します。
- ※⁴ 外気温が約 3℃以下のとき、10 回点滅後に点灯します。

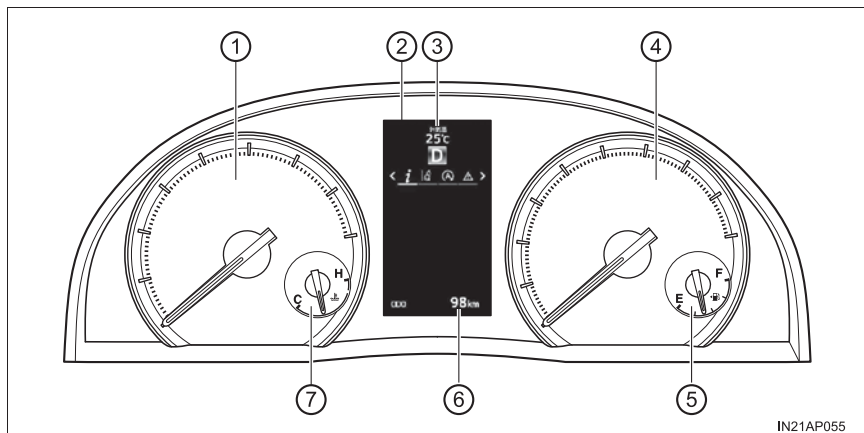
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



IN21AP055

① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 70)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 328)

③ 外気温表示

外気温を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下になると、低温表示灯(→ P. 64)が点灯し、 5°C 以上になると消灯します。

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油(約 5 L 以下)を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

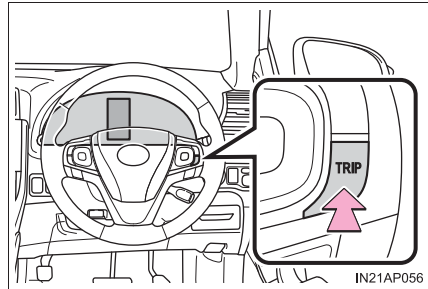
⑦ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が ODO → TRIP A → TRIP B → メータ照度調整 → 非表示の順に切りかわります。

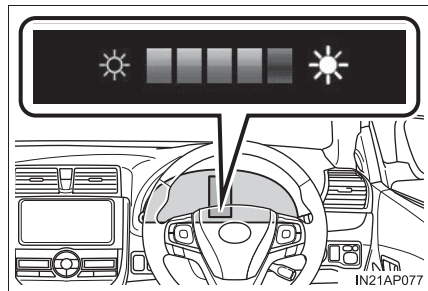
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



■ メータ照度調整

メータ照度調整を表示中に TRIP スイッチを押し続けることでメータ照度が調整できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさレベルを調整することができる



 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **メーター照度の切りかえについて**

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■ **メーター照度調整について**

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■ **外気温表示について**

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- ・ “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ 外気温が 0℃ 以下のとき  を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■ **液晶ディスプレイについて**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 警告**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 354）

マルチインフォメーションディスプレイ

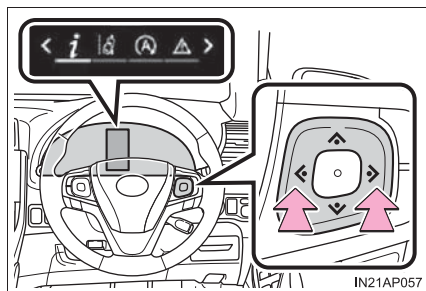
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 71)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 72)



LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示★

LDAの作動状況を表示します。(→ P. 177)



Stop & Start システム情報★

Stop & Start システムの作動状態を表示できます。(→ P. 213)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 328)



設定

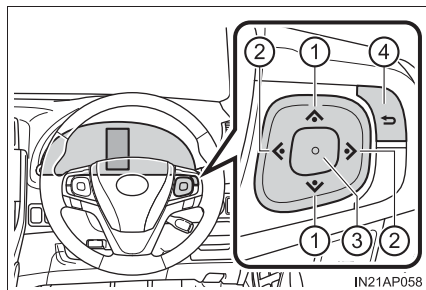
メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→ P. 74)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① ページ送り、カーソル移動
- ② メニューの切り替え
- ③ 決定 / 設定
- ④ ひとつ前の画面にもどる



ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチを操作することで項目を選択できます。

■ ドライブインフォメーション

下記の項目の中から、登録した画面を表示できます。

登録は設定画面から行えます。(→ P. 74)

項目		表示内容
瞬間燃費	バー表示	現在の瞬間燃費をバーグラフで表示
平均燃費※ ¹	リセット間※ ²	リセット後の平均燃費を表示
	始動後	エンジン始動後の平均燃費を表示
	給油後	給油後の平均燃費を表示
平均車速	リセット間※ ²	リセット後の平均車速を表示
	始動後	エンジン始動後の平均車速を表示
走行時間	リセット間※ ²	リセット後の経過時間を表示
	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示
距離	航続可能距離※ ^{3, 4, 5}	燃料残量による走行可能な距離を表示
	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示
その他	ブランク	表示なし

※¹ 表示される平均燃費は参考として利用してください。

※² リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの決定ボタン(→ P. 71)を長押しします。

※³ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

※⁴ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※⁵ 「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。この場合は、すみやかに給油してください。

■ 非表示

ドライブインフォメーションの表示をなしにします。

 知識

■ バッテリーの脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■ 画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ 割り込み表示について

次の機能の作動状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイには、一時的に割り込み画面が表示されます。

- ・ Stop&Start システム作動時間★
- ・ Stop&Start システム状態通知★

割り込み表示の ON / OFF を設定できます。（→ P. 71）

■ 液晶ディスプレイについて

→ P. 68

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定

各装備の機能の ON / OFF や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  にカーソルを合わせる。
- 2 設定変更したい項目をメーター操作スイッチで選択する。

項目		設定内容	設定結果
 ★		On	クリアランスソナーを ON / OFF できます。(→ P. 193)
		Off	
		On	インテリジェントクリアランスソナーを ON / OFF できます。(→ P. 203)
		Off	
 車線逸脱警報★		高い	LDA (レーンディパーチャーアラート) の警報感度を切替できます。
		普通	
先行車 発進★	告知設定	On	先行車発進告知の ON/OFF と告知タイミングを調整できます。
		Off	
	告知 タイミング	早い	
		普通	
		LONG	エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間を切替できます。(→ P. 219)
		NORMAL	
		On	エコドライブインジケータランプ (→ P. 75) を ON / OFF できます。
		Off	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
ドライブインフォ 1		ドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 にそれぞれ 2 項目ずつお好みの画面を登録できます。
ドライブインフォ 2		
割込表示	 作動時間★	選択した機能の割り込み表示 (→ P. 73) を ON / OFF できます。
	 状態通知★	
表示設定初期化	はい	メーターの表示設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。
	いいえ	

知識

■ エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

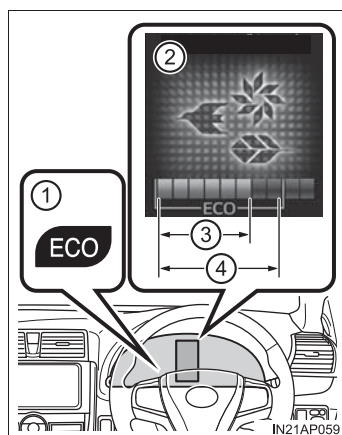
③ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 走行中の警告**

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかった状態で実施してください。

各部の操作**3**

3-1. キー	
キー	78
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア (フロントドア・リヤドア)	82
トランク	87
スマートエントリー& スタートシステム	91
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	100
ヘッドレスト	104
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	106
インナーミラー	108
ドアミラー	109
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	113

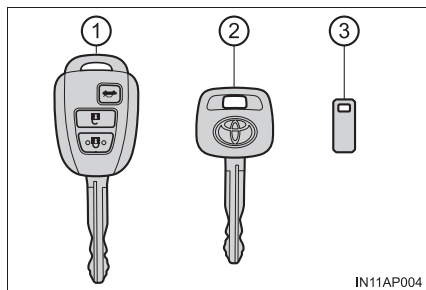
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

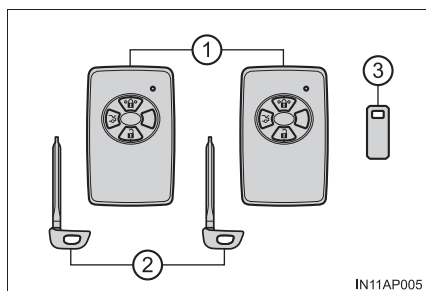
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① キー（ワイヤレス機能装着）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 79）
- ② キー（ワイヤレス機能非装着）
- ③ キーナンバープレート



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

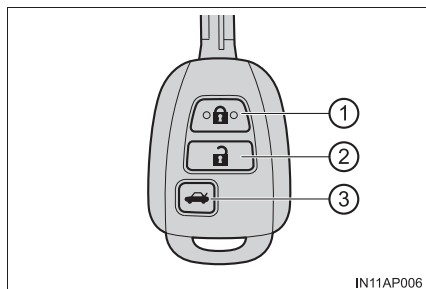
- ① 電子キー
・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 82）
・ ワイヤレス機能の作動（→ P. 79）
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

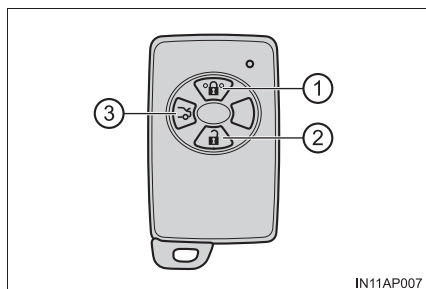
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する
- ③ トランクを解錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

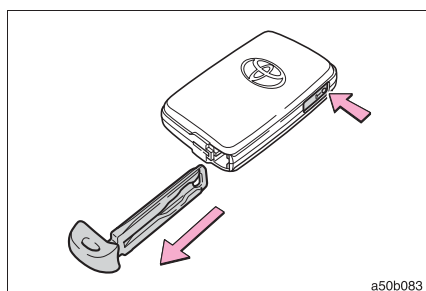
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する
- ③ トランクを解錠する



メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 346）



 知識**■ キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を紛失したとき**

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーまたはメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。

また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について**▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車**

電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です（ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します）

ワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→ P. 292）

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です（電子キーを使用しなくても電池は消耗します）。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 292）

● 電池残量が少なくなると、マルチインフォメーションディスプレイに「キーバッテリー残りわずか」と表示されます。新しい電池と交換してください。（→ P. 292）

● 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の約 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ スマートエントリー&スタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠／解錠

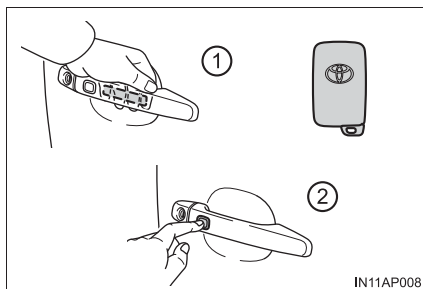
◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。

- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後、約 3 秒間は、解錠できません。

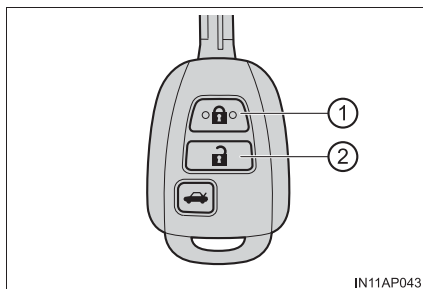


- ② フロント席のドアハンドル表面のロックスイッチを押して施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

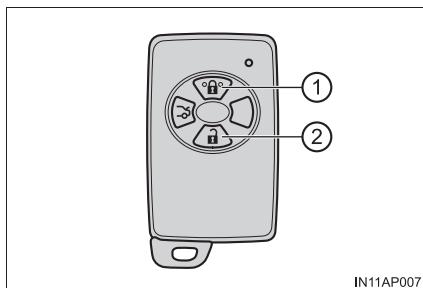
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する

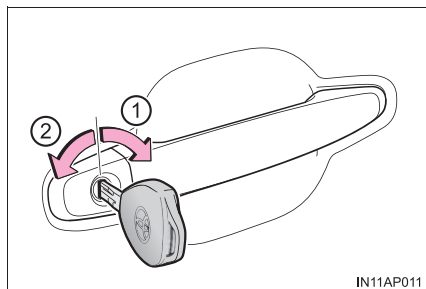


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー（運転席）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→ P. 346）

□ 知識

■ 作動の合図

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅（施錠は 1 回、解錠は 2 回）で知らせます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ 解錠操作のセキュリティ機能（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

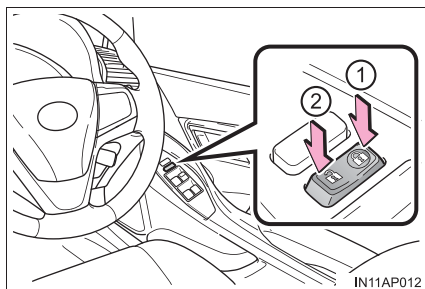
■ 半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

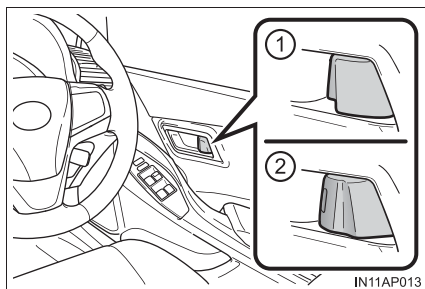
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

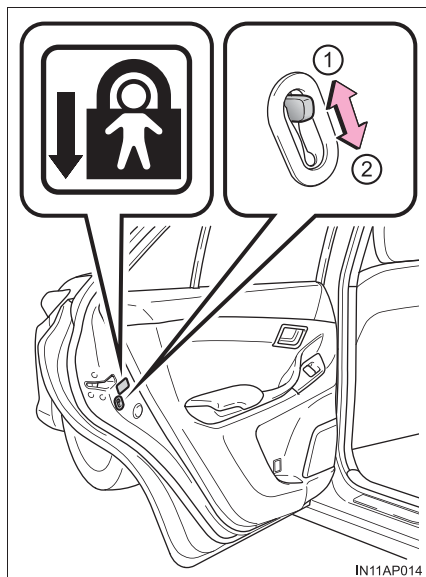
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など、強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
- ▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→ P. 94

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアまたはトランクがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

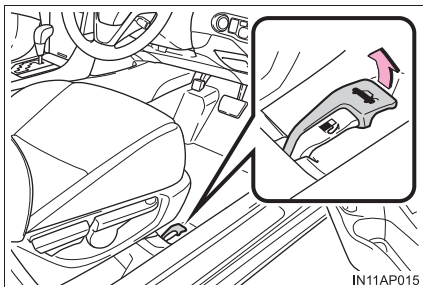
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開けるに

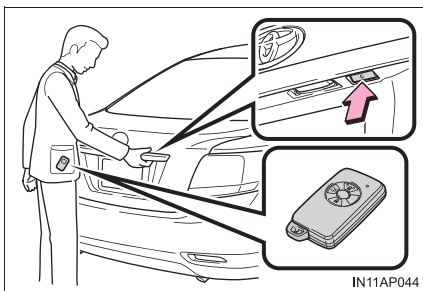
トランクオープナーを引き上げて、
トランクのロックを解除する



車外からトランクを開けるに

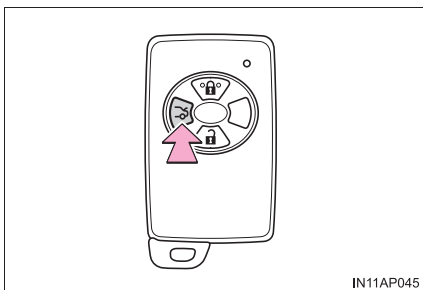
◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯し、トランクオープンスイッチを押して解錠する



◆ ワイヤレスリモコン (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

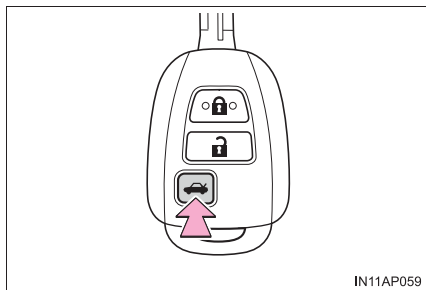
スイッチを押し続ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ワイヤレスリモコン（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

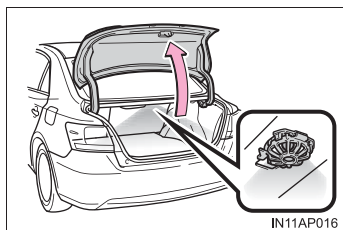
スイッチを押し続ける



■ 知識

■ ラゲージルームランプ

トランクを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。



■ トランク内キー閉じ込み防止機能について （スマートエントリー&スタートシステム装着車）

全ドアが施錠されている状態で、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はスマートエントリー & スタートシステム機能で開けることができます。

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の警告

- 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクリッドが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

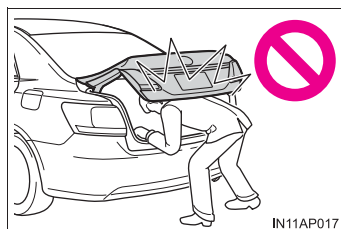
警告**■ トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

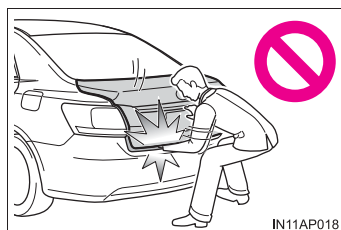
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。



- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム★

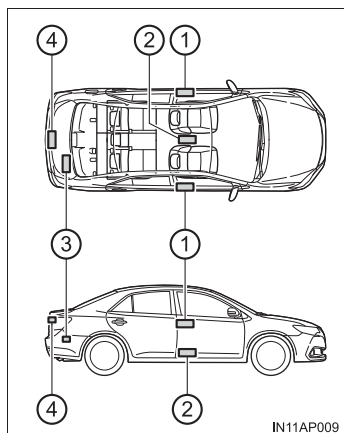
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

- ドアを解錠・施錠する (→ P. 82)
- トランクを解錠する (→ P. 87)
- エンジンを始動する (→ P. 134)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ
- ③ トランク内アンテナ
- ④ トランク外アンテナ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

- : ドアの施錠・解錠時

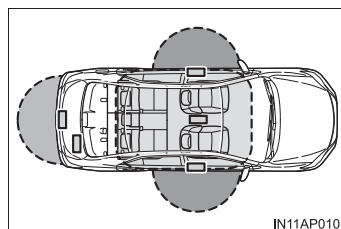
フロント席ドアハンドルから周囲約70 cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

- : トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

- : エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■ 節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 2週間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

- 車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→ P. 79）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→ P. 346）

■警告音と警告灯、警告メッセージについて

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したりマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したりマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。

(→ P. 328)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と約 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じてください。(→ P. 88)
車外から“ピー”と約 60 秒間鳴る	エンジンスイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアをスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	エンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と約 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。(→ P. 292)
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、運転席ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPにしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステム★が正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 346)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを次のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
 - ・他の車の電子キー
 - ・電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警告音が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・エンジン始動時またはモード切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）
- 車外アンテナの作動範囲（→ P. 92）内への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、解錠されないことがあります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないとき

盗難防止のため、電子キーを車両から2 m以上離しておいてください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 346
- モードの切りかえ・エンジンの始動：→ P. 346

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 367）

 警告**■電波がおよぼす影響について**

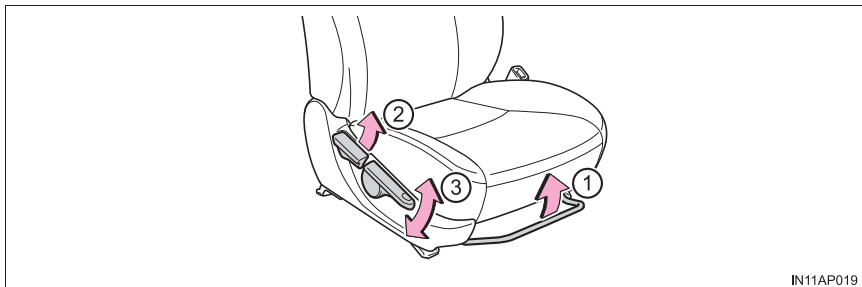
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 91）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

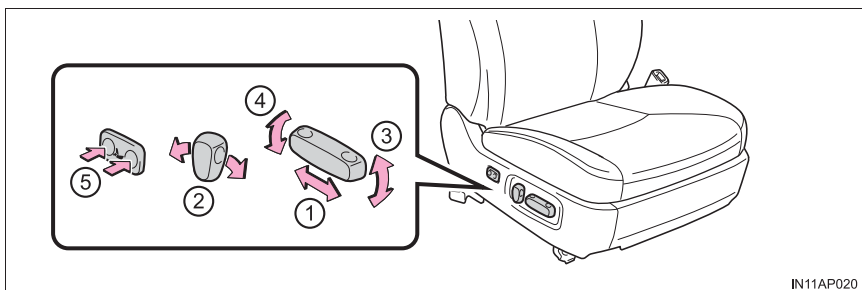
調整のしかた

▶ マニュアルシート



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ 運転席パワーシート★

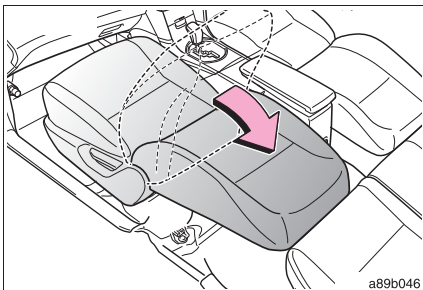


- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端的上下調整
- ④ シート全体の上下調整
- ⑤ 腰部硬さ調整（ランバーサポート）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フラットシート※にするには

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 フロントシートのヘッドレストをはずす (→ P. 104)
- 3 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→ P. 97)
- 4 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→ P. 97)



- 5 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

※ 運転席パワーシートは、フラットにすることはできません。

 知識

■ シートヒーター★

→ P. 251

 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシートの調整後は、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■ フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

 注意

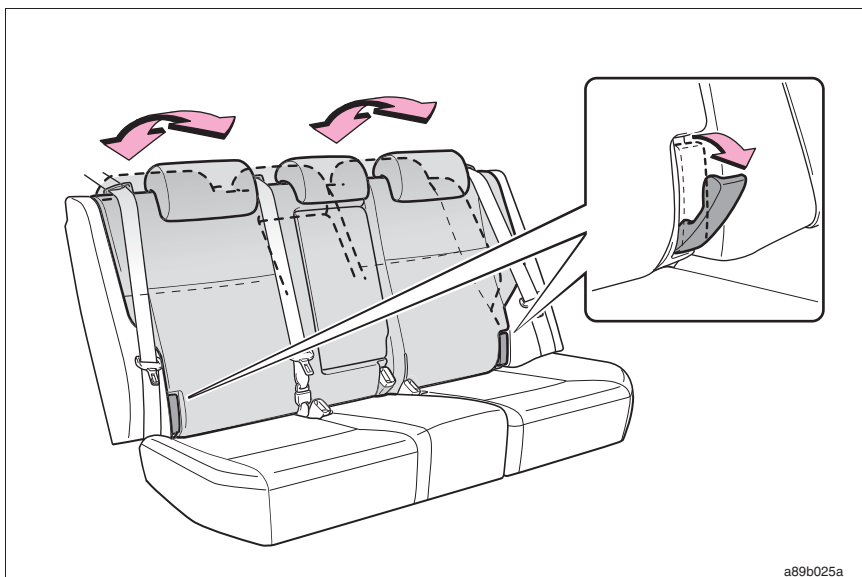
■ フラットシートについて

- マニュアルシートの背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

調整のしかた



ロックが確実に解除されるまでレバーを引いてください。

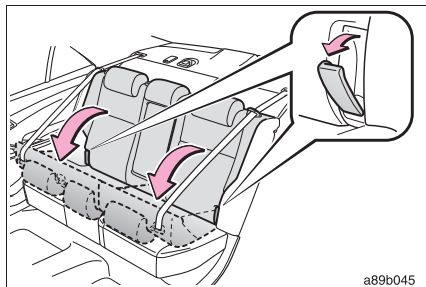
リヤシートの前倒し・折りたたみをする前に

- 1 フロントシートを前方に移動する (→ P. 97)
- 2 リヤ中央席用シートベルトを分離・格納する (→ P. 27)
助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。
- 3 ヘッドレストをいちばん下に下げる (→ P. 104)
- 4 リヤセンターアームレストを格納する (→ P. 268)
助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

リヤシートの前倒し

レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

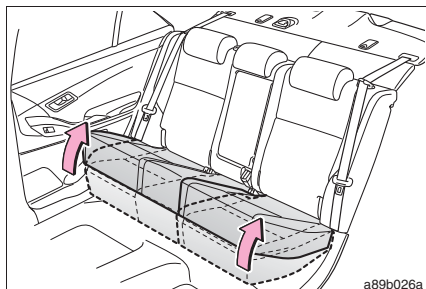
もどすときは背もたれを起こし、固定してください。



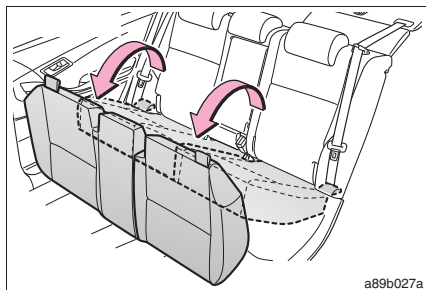
リヤシートの折りたたみ

■ 折りたたむとき

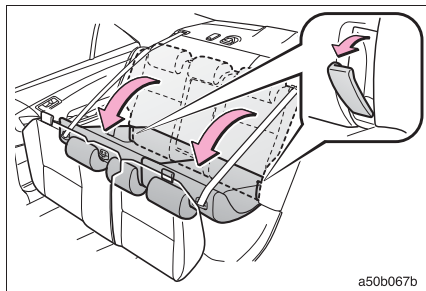
- 1 シートクッション前端の外側部分を持ち上げて、ロックを解除する



- 2 シートクッションを引き起こす

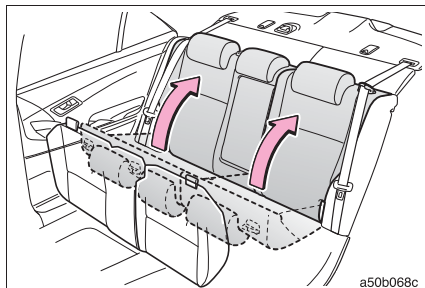


- 3 レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す



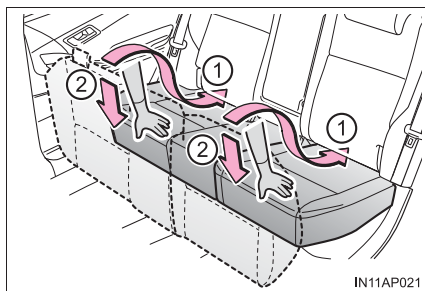
■ もどすとき

1 背もたれを起こし、固定する



2 シートクッション後部を背もたれの下端に挿し込み (①)、シートクッション前端を押さえ付けてロックする (②)

シートベルト・バックルがシートクッションの下に挟み込まれていないことを確認してください。



⚠ 警告

■ リヤシートを操作する

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に背もたれの前倒しや折りたたみなどの操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作中は、パッケージトレイとまわりの部品とのあいだに指や腕などを入れない
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。

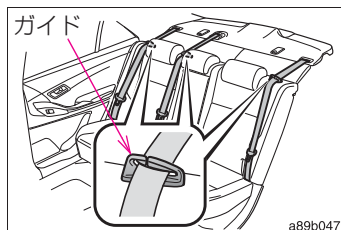
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトが挟み込まれていないか確認する
- 中央席用シートベルトを分離したときは、もとどおりに結合する (→ P. 27)
- シートベルトがガイドに通っていることを確認する

**注意****■ シートを操作する**

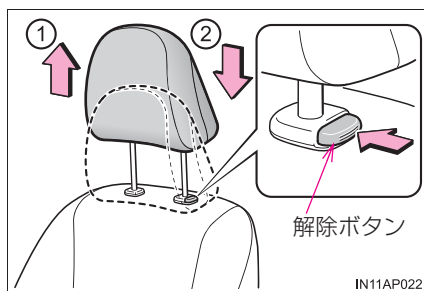
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ヘッドレスト

① 上げる

② 下げる

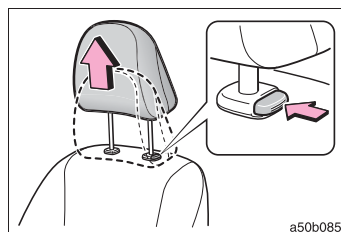
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

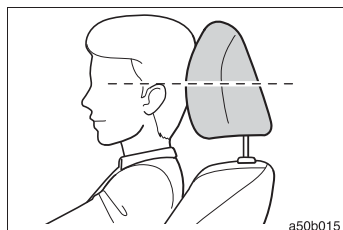
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。



■フロント席のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

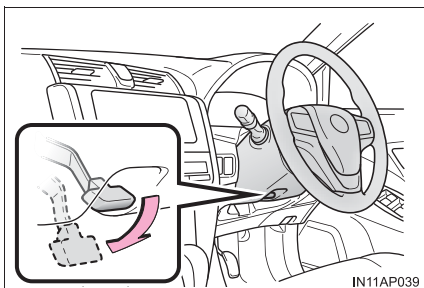
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

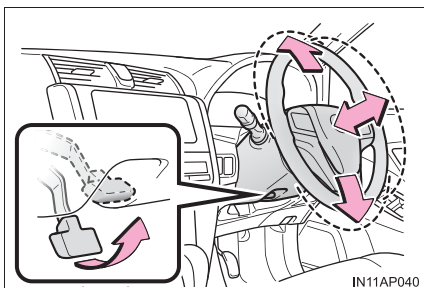
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



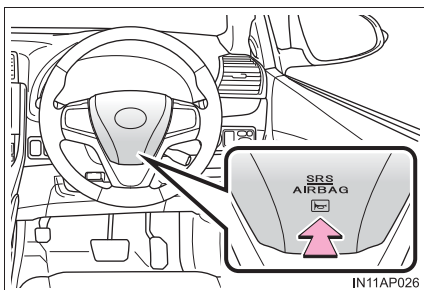
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音機）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

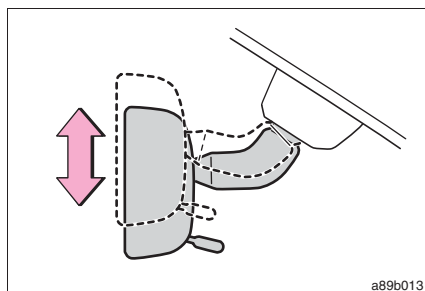
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

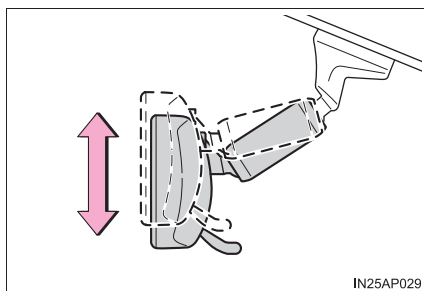
上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

▶ タイプ A



▶ タイプ B

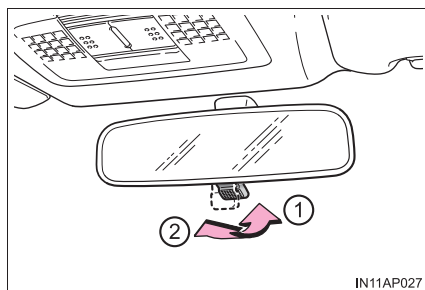


インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

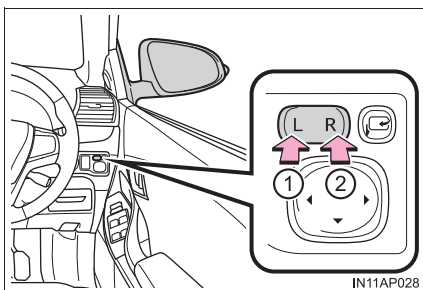
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

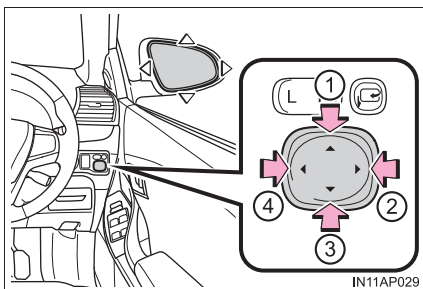
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

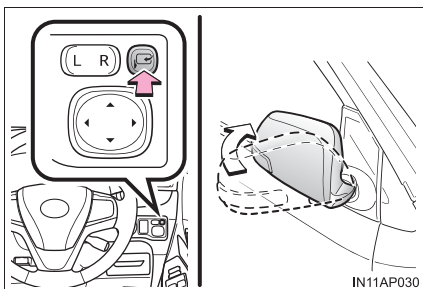
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

スイッチを押して、ドアミラーを格納する

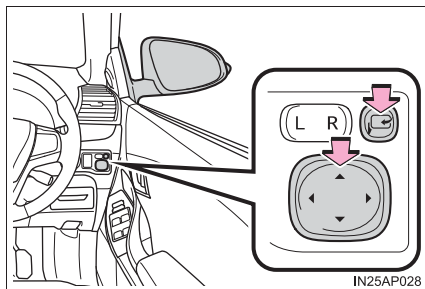
もう一度押すと、もとの位置にもどります。



オート作動

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰します。次の手順でオート作動を停止できます。

- 1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする
- 2 電動格納スイッチと鏡面調整スイッチの上側を、同時に約 2 秒以上押す
もう一度同じ操作をすると、オート作動が復帰します



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー調整スイッチを中立の位置（L・R とも選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するとき

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

 知識

■ 作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ON の状態にもどります。機能を OFF にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→ P. 237, 244）

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ レインクリアリングミラー（寒冷地仕様車）

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 273）を行ってください。

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーター★が作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

 注意**■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて（寒冷地仕様車）**

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウィンドウ

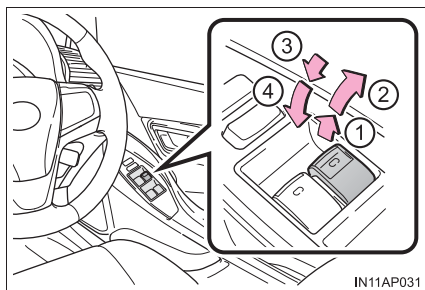
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

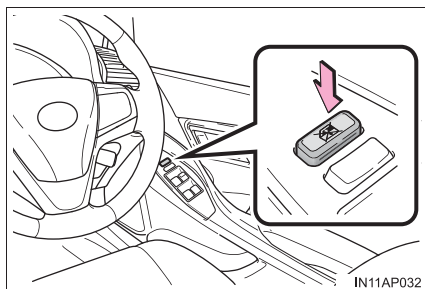
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー & スタートシステム装着車）の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① エンジンスイッチを ON またはイグニッション ON モードにする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを全開にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチ“LOCK”（エンジンスイッチ OFF）後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

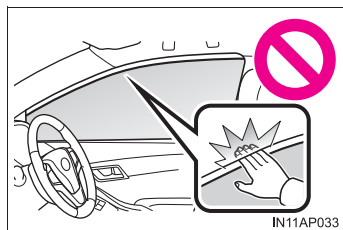
■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 113)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。



 警告**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	118
荷物を積むときの注意	129

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー & スタートシステム 非装着車）	131
エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー & スタートシステム 装着車）	134
オートマチック トランスミッション	139
方向指示レバー	142
パーキングブレーキ	143

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	144
フロントフォグランプ スイッチ	149
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	150
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	153

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	155
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C ...	159
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	164
LDA（レーンディパーチャー アラート/ 車線逸脱警報）	177
オートマチックハイビーム ...	183

4-6. 運転支援装置について

先行車発進告知機能	187
クルーズコントロール	189
クリアランスソナー	193
インテリジェント クリアランスソナー	201
Stop & Start System	213
運転を補助する装置	224

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	232
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 131, 134

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 139)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 143)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 139)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 143) シフトレバーを P にする (→ P. 139)
- 3 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを “LOCK” にしてエンジンを停止する
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 224)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキオーバーライドシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

● 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルを戻してください」が表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

● ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 226）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ドライブスタートコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなりハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような非常時は、P. 314を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 140)

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ **停車するとき**

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうす。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 332 を参照してください。

 注意**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード

 警告

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランク内に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

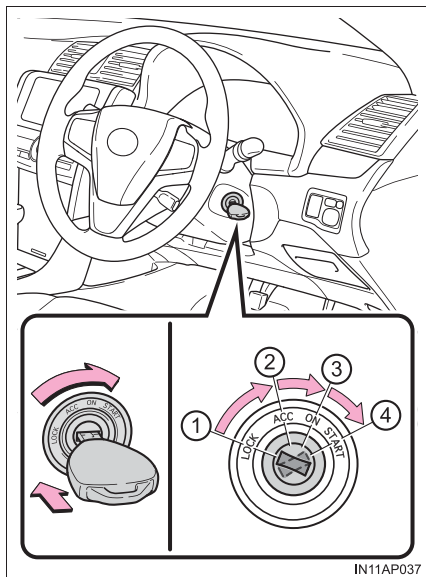
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- ③ ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ④ エンジン スイッチを“START”の位置にまわす

エンジン スイッチの位置の切りかえ

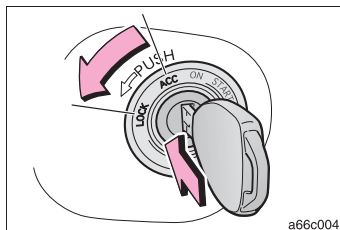
- ① “LOCK”（OFF）
 - ・ ステアリングロックがかかります。
 - ・ シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しすることができます。
- ② “ACC”
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
エンジンが始動できます。



 知識

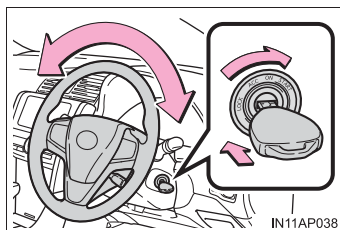
■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

 警告**■ エンジンを開始するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを “ LOCK ” にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には “ ACC ” にしてください。
走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ ON ” にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを開始するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

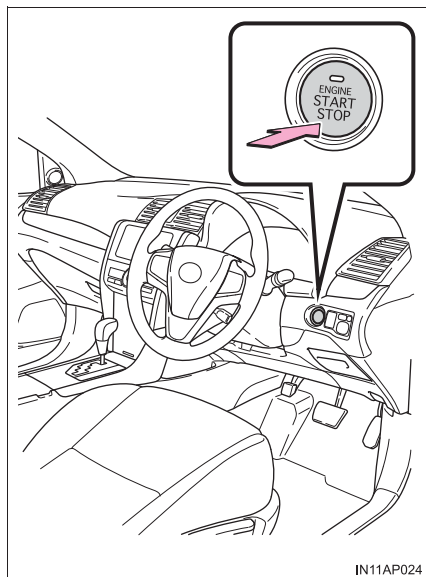
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間
スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



IN11AP024

エンジン停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて (→ P. 143) シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジンスイッチを押す
- ④ ブレーキペダルから足を離した状態にしてエンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。

(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

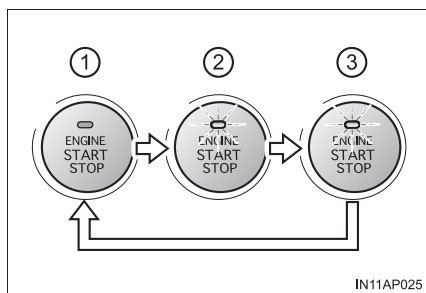
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 スイッチ上のインジケーターが緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを1回押す
- 4 スイッチ上のインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、1時間以上アクセサリモードのままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 80

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 94

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 95

■ エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステム★が解除されていない可能性があります。(→ P. 60) トヨタ販売店へご連絡ください。

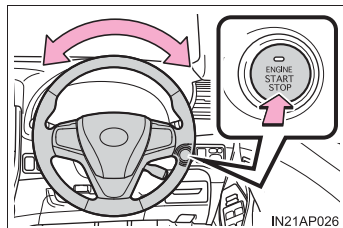
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、エンジンスイッチ上のインジケータが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら、再操作してください。



■マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロックシステムチェック」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチ上のインジケータが橙色に点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 292

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

→ P. 346

 警告**■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上エンジンスイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、スイッチ上のインジケーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。
エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

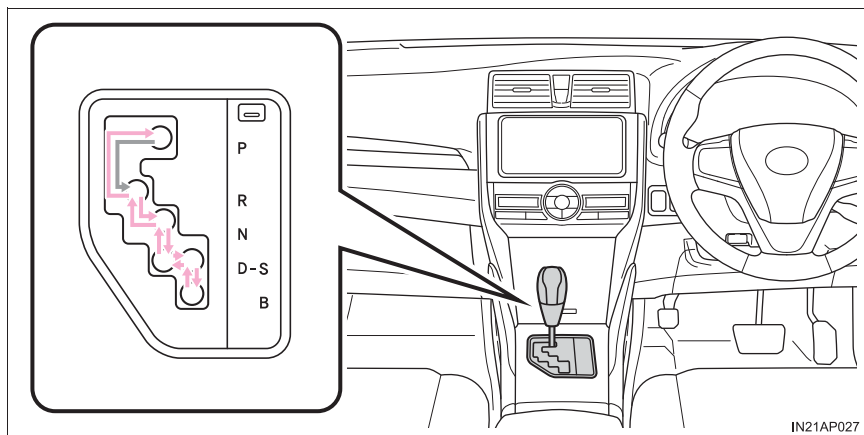
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

← エンジン スイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ON”（スマートエントリースタートシステム非装着車）または、イグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

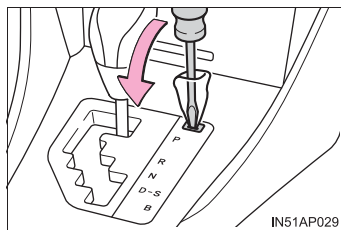
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

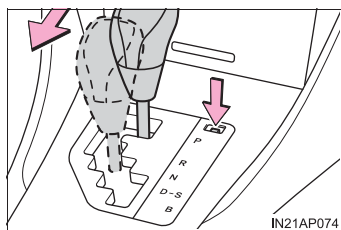
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを “LOCK” にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

**5 シフトロック解除ボタンを押す**

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

**警告****■ すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

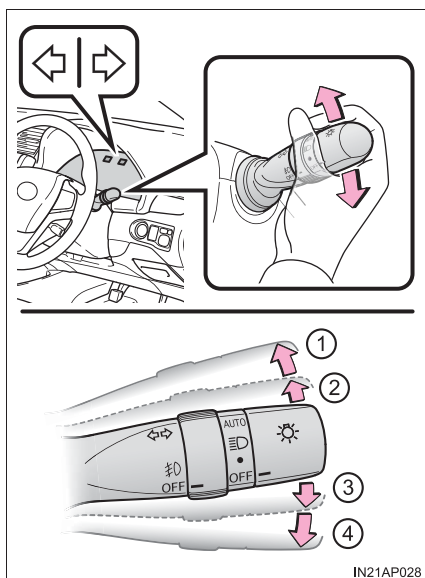
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



IN21AP028

知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

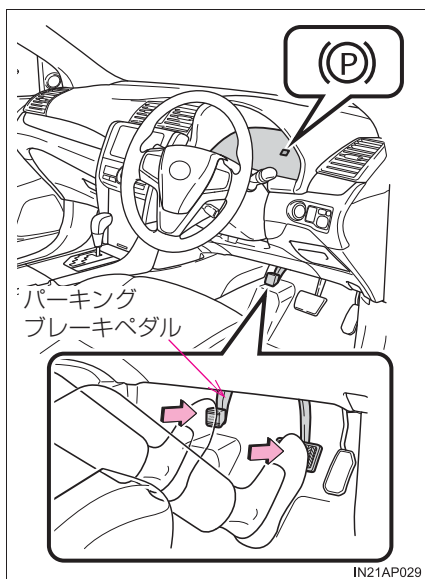
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 118

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→ P. 233）の記載を参照してください。

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴ります。

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

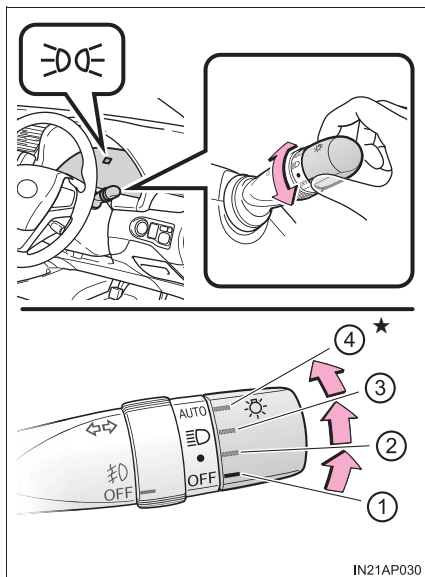
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動★または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

- ① **OFF** 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ **AUTO** ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★
(エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームにする

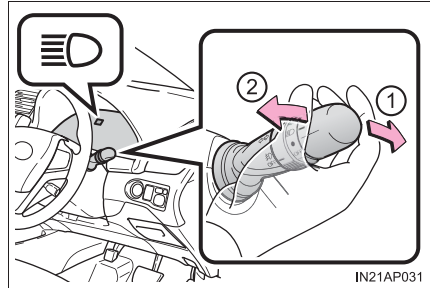
- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。

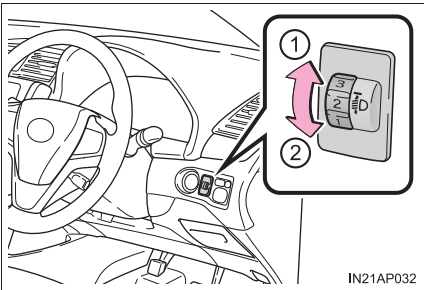
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



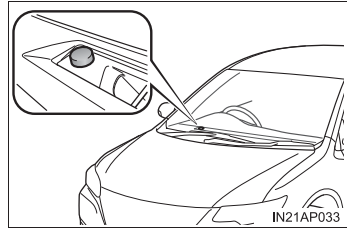
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

 知識

■ ライトセンサー（コンライト装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能（コンライト装着車）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、ランプスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

- ランプスイッチを OFF にしないまま、エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。
- 再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

● エンジン スイッチが “ LOCK ” のときに働きます。

● ランプスイッチが ● または  の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（“ ピー ” という連続音）が鳴ります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

● エンジンスイッチが OFF のときに働きます。

● ランプスイッチが ● または  の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（“ ピー ” という連続音）が鳴ります。

■ オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムの故障が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

コンライト装着車は、ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 367）

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

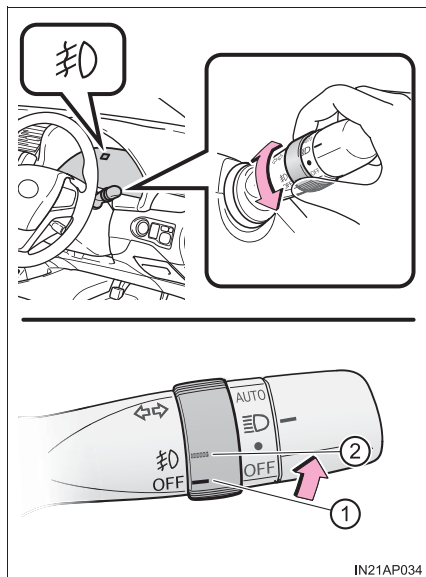
エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フロントフォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

- ① 消灯する
- ② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

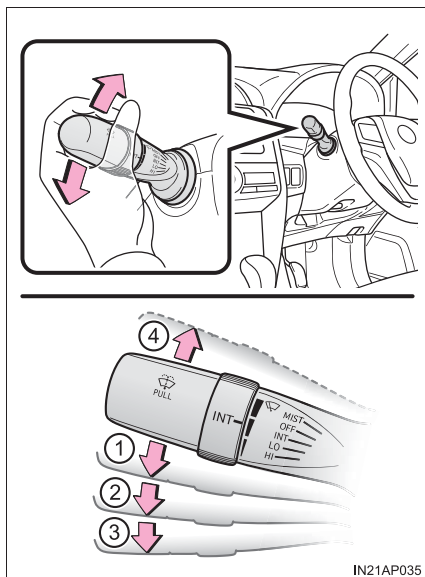
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

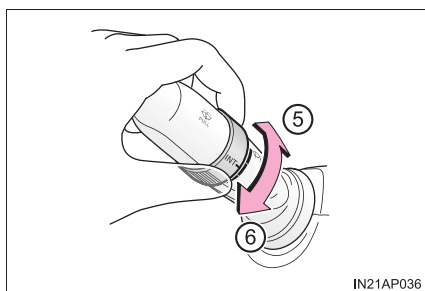
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

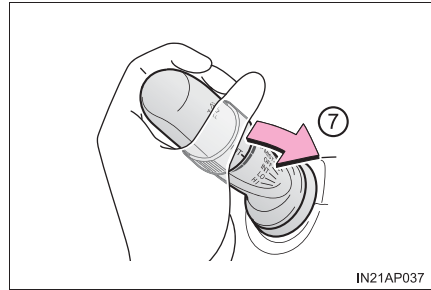


間欠作動が選択されているときは、次のようにツマミをまわして間欠時間を調整できます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

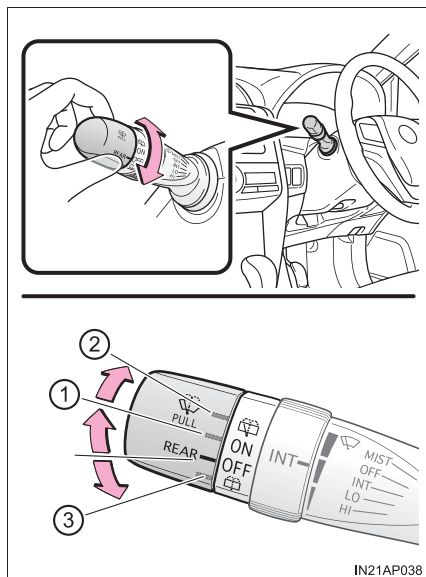
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー (リヤ) ★

操作のしかた

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① 通常作動
- ② ウォッシャー液を出す
(ワイパー作動中)
- ③ ウォッシャー液を出す
(ワイパー停止中)



知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
 - 燃料の種類を確認してください。
 - ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを “ LOCK ” にしてください。
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
 - 燃料の種類を確認してください。
 - ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

 警告**■ 給油するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

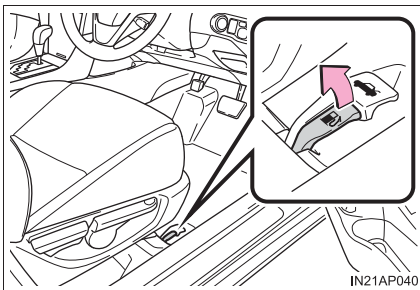
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

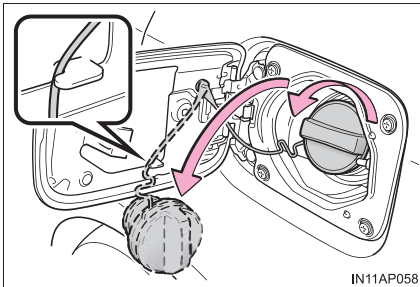
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1** オープナーを上げて、給油扉を開ける



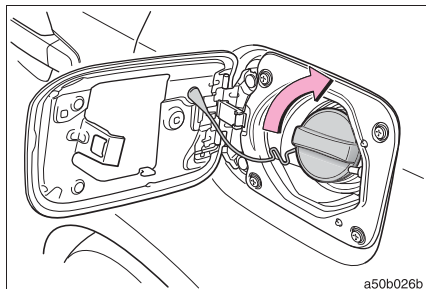
- 2** キャップをゆっくりまわして開け、キャップをハンガーにかける



給油口のキャップを閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 164

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 177

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 183

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 187

警告

■ Toyota Safety Sense C について

Toyota Safety Sense C は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

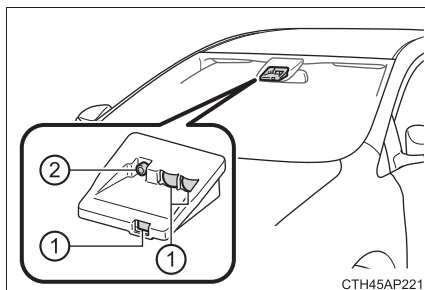
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 単眼カメラ



警告

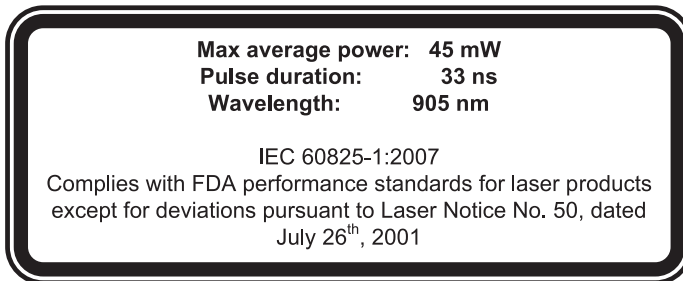
前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル



レーザー説明ラベル



レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平×垂直）：28° × 12°

⚠ 注意

■ 前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

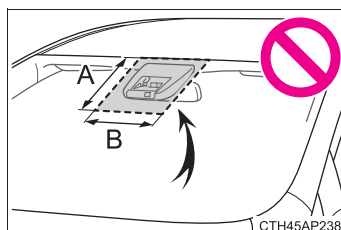
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

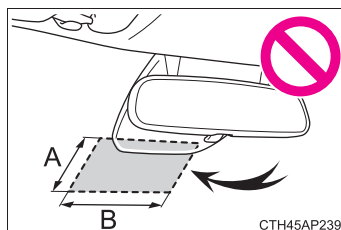
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅しマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（→ P. 237, 244）

 注意

- 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
- フロントウインドウガラスの前方センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず
に交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ、傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃や力を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラー・サンバイザーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには、何も取り付けたり置いたりしない

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 167）

◆ 衝突警報

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

先行車と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突の回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 169
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 173
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約2秒後に解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、以下の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 168）
 - ・ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする（→ P. 167）

 警告**■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、
最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

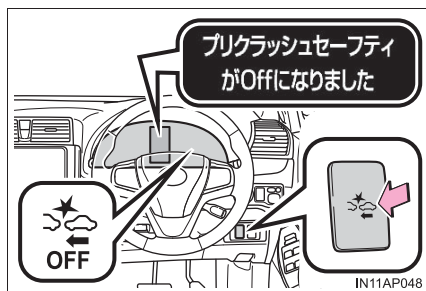
■ プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF を変更する

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティシステムは ON になります。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

いったん警報タイミングを変更すると、次回エンジンを始動したときにも、そのまゝの状態が続きます。

① 遠い

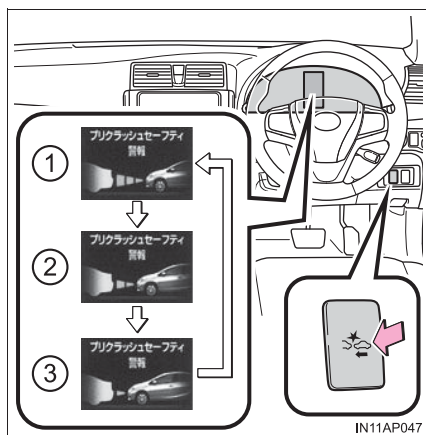
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



 知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、先行車と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 15km/h ～ 140km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 ～ 80km/h
- ・ 自車から見た先行車との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

● バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

● シフトレバーが R のとき

● VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

● PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■ プリクラッシュブレーキの作動解除

● プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む※
- ・ ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

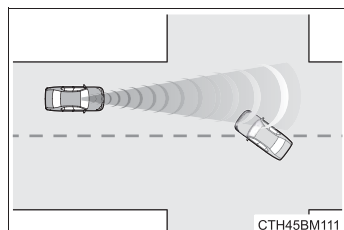
※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

● プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

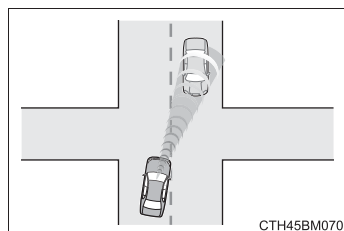
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

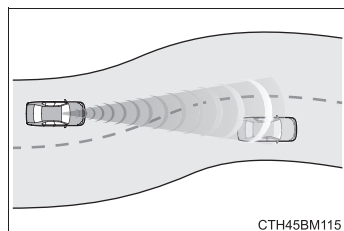
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



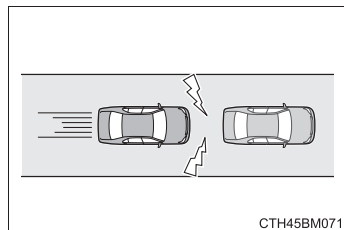
- ・ 右左折時に対向車とすれ違ったとき



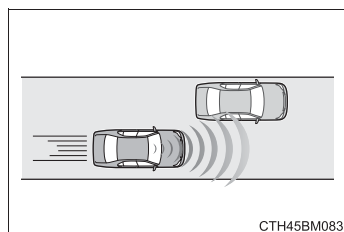
- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道(曲がりくねった道など)を走行するとき



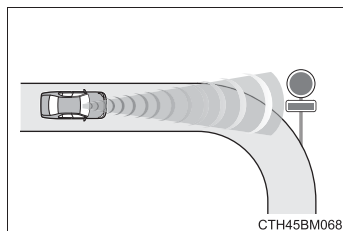
- ・ 先行車に急速に接近したとき



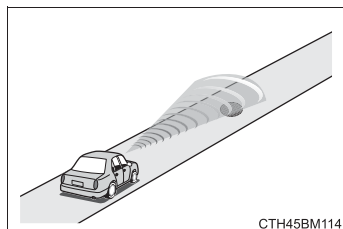
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 車両や構造物のすぐそばを通過するとき



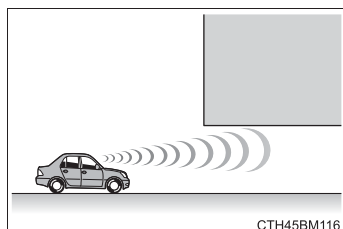
- ・カーブの入り口の道路脇に車両・構造物が存在するとき



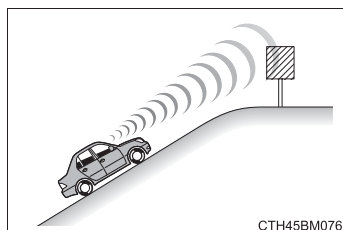
- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に反射物（マンホール・鉄板など）・段差・くぼみ・突起物があるとき



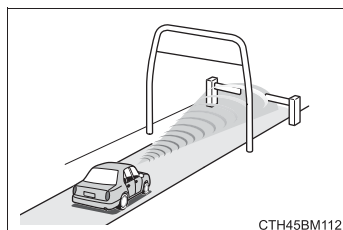
- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



- ・上り坂で進行方向の道路上方に構造物（立体交差・道路標識・看板・街灯など）があるとき

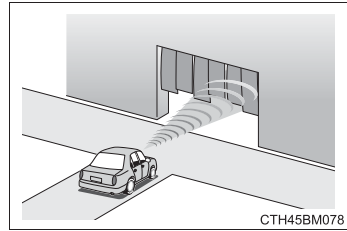


- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき

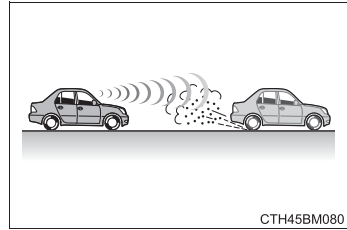


- ・洗車機を使用するとき

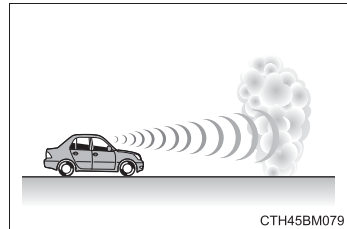
- ・ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝・生い茂った草など）がある場所を走行するとき



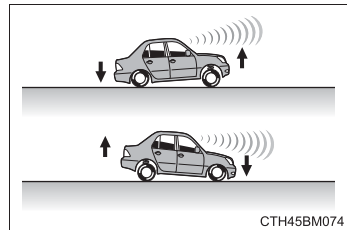
- ・ 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき



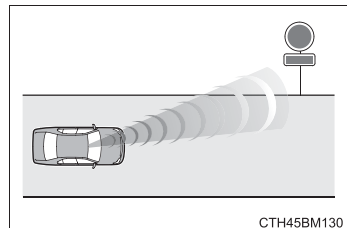
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき



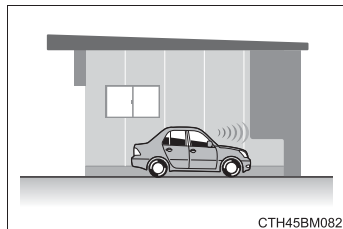
- ・ 路面または壁面に車両との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



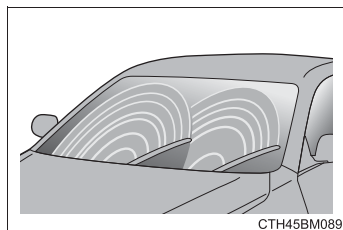
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



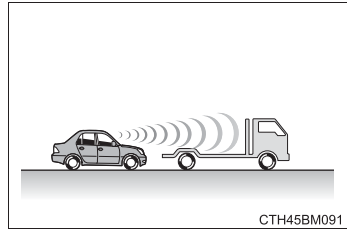
- ・ フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



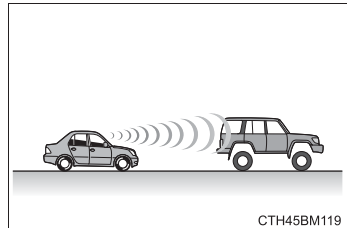
■システムが正常に作動しないおそれのあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

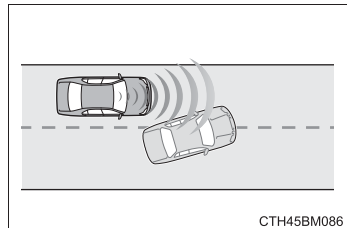
- ・前方から自車に向かって車両が近づいてくるとき
- ・前方車両が横向き、自車向きするとき
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

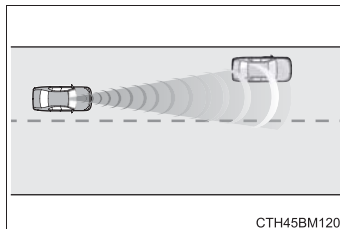


- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

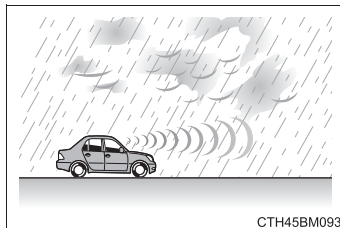


- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき

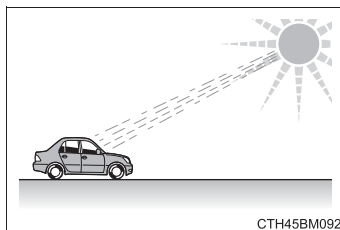
- ・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



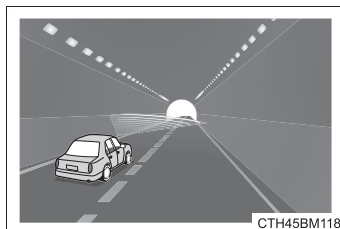
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



- ・ 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 水蒸気や煙などで前方車両が見えないとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

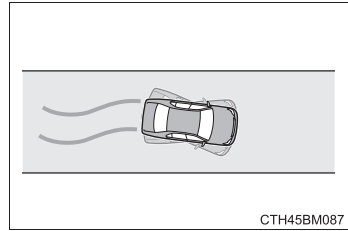


- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内

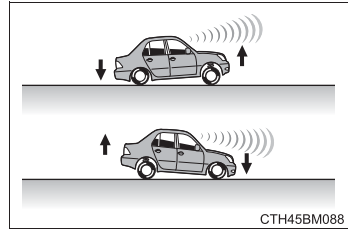


- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間

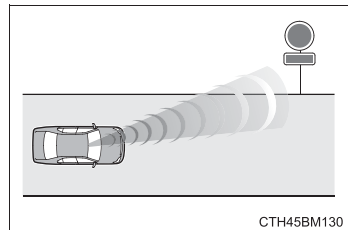
- ・ 自車が横すべりしているとき



- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方センサーの視界をさえぎっているとき
- ・ ふらつき運転をしているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 先行車がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・濡れているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

■ **PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されたとき**

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

● 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

- ・ 炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
- ・ フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（→ P. 238, 245）
- ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方センサー付近にシールが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき

● PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「プリクラッシュセーフティ故障 販売店で点検してください」が表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **VSC を停止したとき**

● TRC と VSC の作動を停止（→ P. 226）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

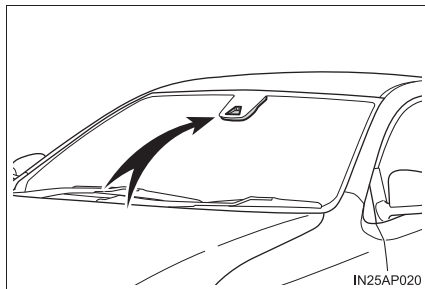
● PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

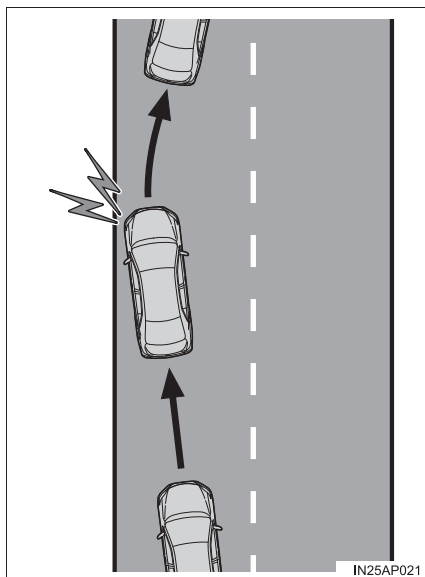
LDA は、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

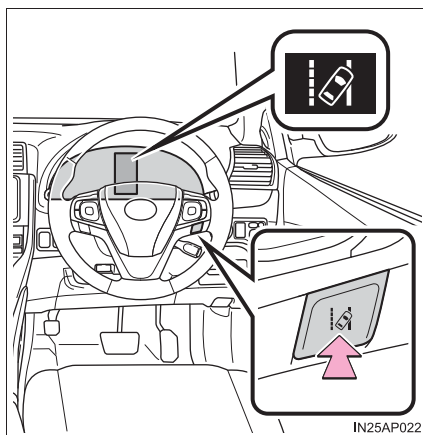
設定のしかた

LDA を使用するにはLDAスイッチを押す

メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFF するには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

IN25AP024

白線表示の内側が白いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。



IN25AP025

白線表示の内側が黒いとき：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 182）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 180）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 160）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→P. 182）

警告メッセージが表示されても、通常の走行に支障はありません。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示された場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 LDA 故障 販売店で点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある 警告ブザーが鳴り、マスターウォーニングが点灯します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
 LDA 約 50km/h 以下で使用できません	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h 以上で走行してください。
 LDA 現在の車速では使用できません	車速が LDA の作動可能範囲を超えたため、使用できない → 車速を落として走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度

設定変更のしかたは、P. 74 を参照してください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両や街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

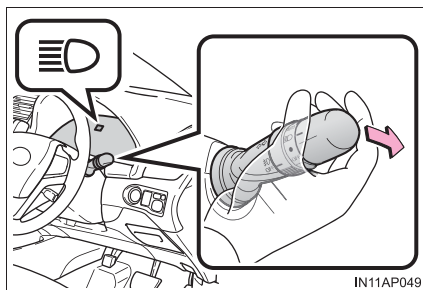
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

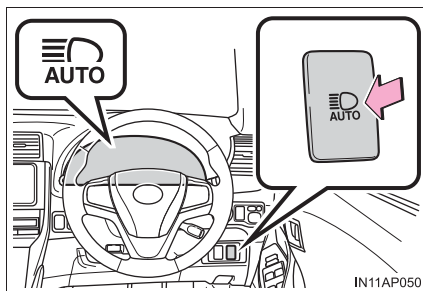
荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチをAUTO★または
 にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す
 オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

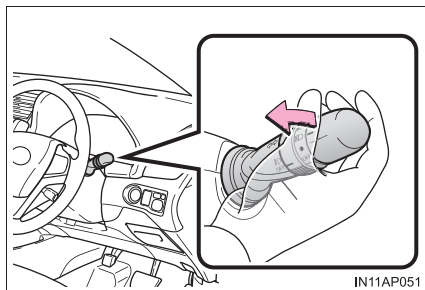
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

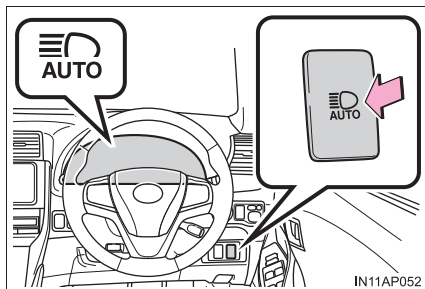


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
ときは、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方センサーについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
- ・ 対向車または先行車の動きや向き
- ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

- マルチインフォメーションディスプレイに「AHB はハイビーム点灯が必要です」のメッセージが表示されたとき

ハイビームに切りかえてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合にマルチインフォメーションディスプレイに告知します。



知識

■ 作動条件

シフトレバーが P、R 以外の位置でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき

■ 先行車が発進したのに告知されない可能性があるとき

次の状況では先行車発進告知機能による告知がされない場合があります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）により、先行車を正しく認識できないとき
- 前方センサー視界上のフロントガラスに泥、雪、氷、ステッカー等が付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ハンドルを大きくきっているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車が発進していても告知する可能性があるとき

次の状況では告知されない状況でも告知がされるおそれがあります。
システムを過信せずに、先行車の動きを確認してから発進してください。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、他の車両や歩行者などが割りこんだり通過したとき

■ 先行車発進告知機能を ON / OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 74）により、先行車発進告知機能を ON / OFF にできます。

- 1 メーター操作スイッチを押し、設定画面から「先行車発進」を選択し決定ボタンを押す
- 2 先行車発進画面の「告知設定」を選択し、決定ボタンを押す
- 3 ON / OFF を選択し、決定ボタンを押す
 - ① ON（告知機能有）
 - ② OFF（告知機能なし）



■ 先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 74）により、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチを押し、設定画面から「先行車発進」を選択し決定ボタンを押す
- 2 先行車発進画面の「告知タイミング」を選択し、決定ボタンを押す
- 3 告知タイミングを選択し、決定ボタンを押す
 - ① 早い
 - ② 普通
 - ③ 遅い

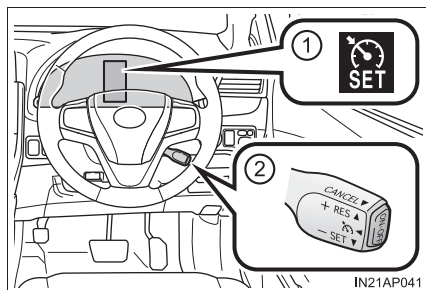


クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行できます。

- ① クルーズコントロール表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

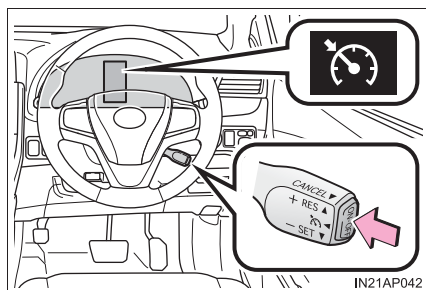


速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

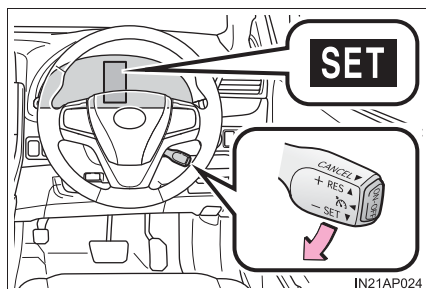
OFF にするには、再度スイッチを押します。



- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

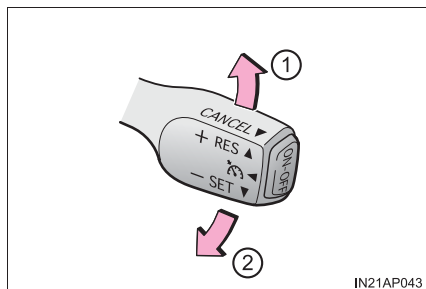
② 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作することにより約 1.6km/h

調整：レバーを保持する間



IN21AP043

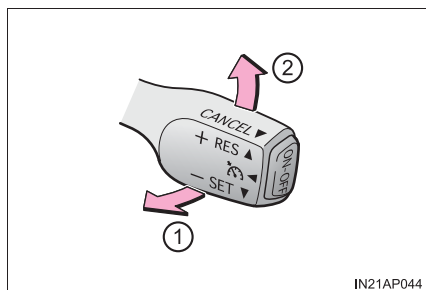
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消失されるため、復帰しません。



IN21AP044

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S のとき設定できます。
- 速度は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

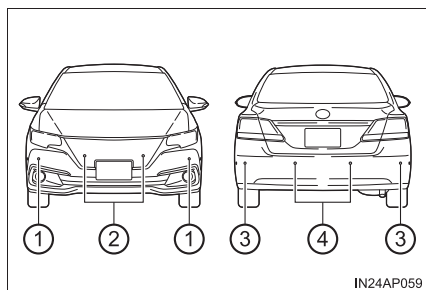
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



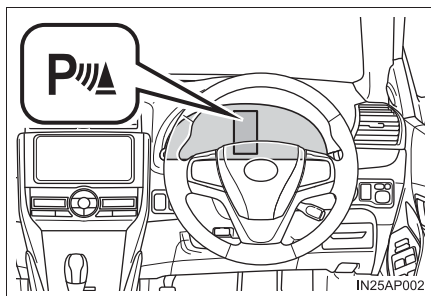
4

運
転

クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの  画面（→ P. 74）から、クリアランスソナーの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

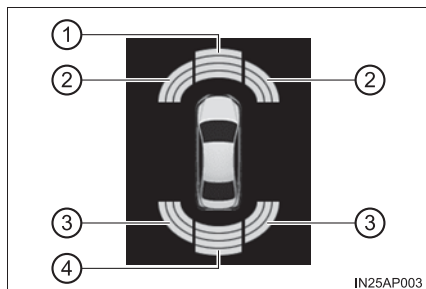


OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

- ① フロントセンサー作動表示
- ② フロントコーナーセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示



ブザーについて

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

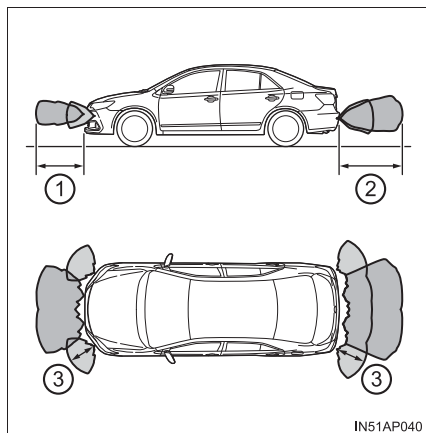
- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナースエンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ リヤコーナースエンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

障害物を感知できる範囲

- ① 約 100cm (約 1.0m)
- ② 約 150cm (約 1.5m)
- ③ 約 60cm (約 0.6m)
 - ・ 感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
 - ・ 障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON または ON モードのとき

- フロントコーナースセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- フロントセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナースセンサー／バックセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物まで、約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知なくなることがあります。
- オーディオ（装着車のみ）・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

 警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けしないでください

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- 自車付近にクリアランスソナーを装備している別の車両があるとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 警告**■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

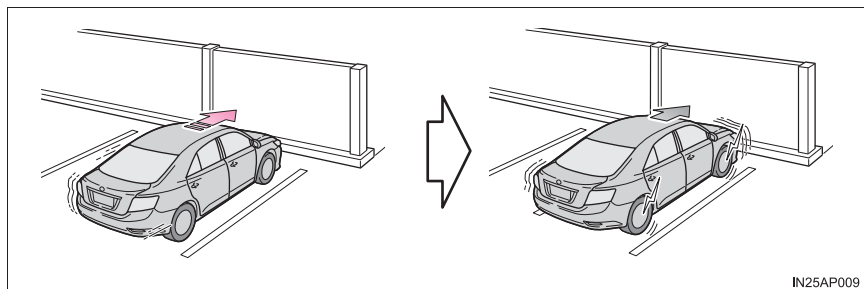
インテリジェントクリアランスソナー★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

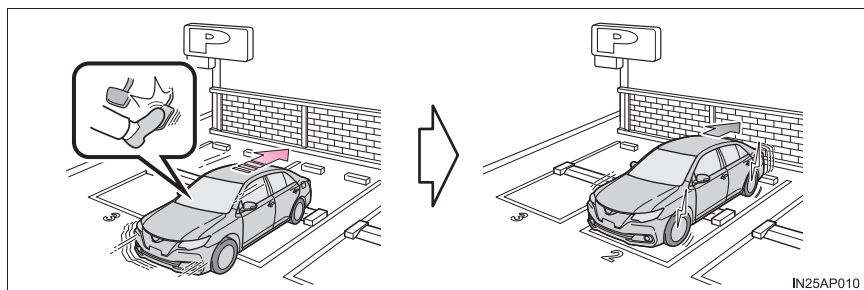
システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

- ◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

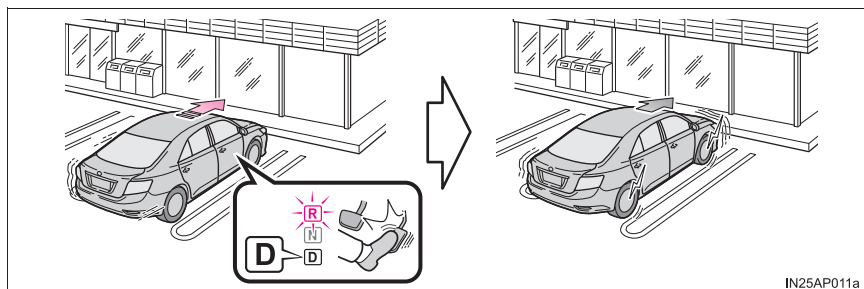


- ◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



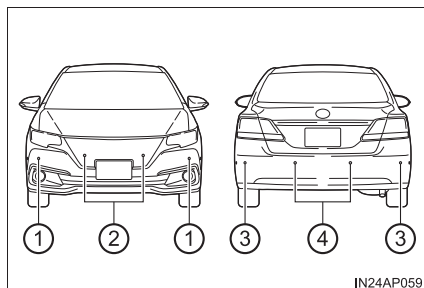
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの種類

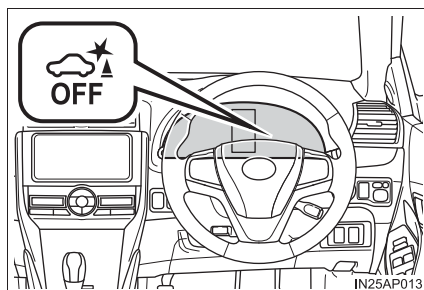
- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



インテリジェントクリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 74）から、インテリジェントクリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

インテリジェントクリアランスソナーが OFF（非作動）になっているときは、ICS OFF 表示灯が点灯します。

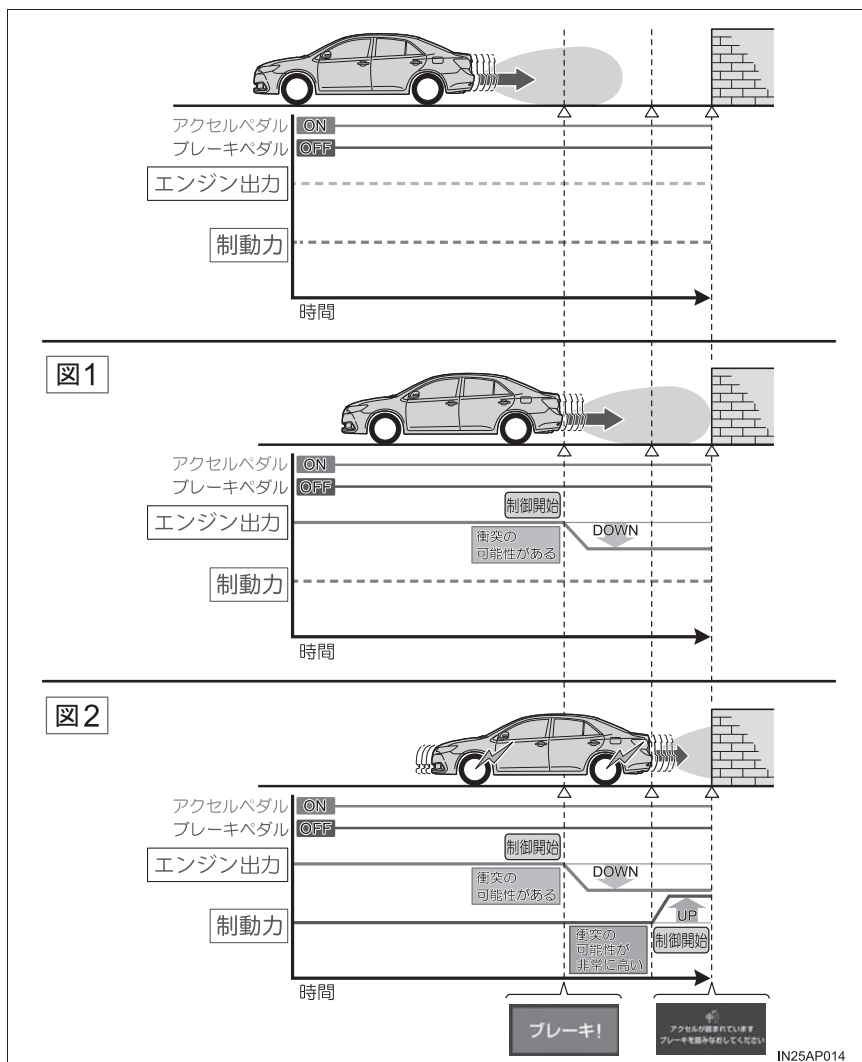


OFF（非作動）に切りかえて、インテリジェントクリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

作動について

インテリジェントクリアランスソナーは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 1）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

ICS OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 203, 210）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ インテリジェントクリアランスソナーを ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ インテリジェントクリアランスソナーを OFF（停止）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ インテリジェントクリアランスソナーを OFF（停止）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチ インフォメーション ディスプレイ表示	ICS OFF 表示灯	ブザー
エンジン出力 抑制制御作動中 （加速制限 制御）	一定以上の加速 ができない状況		消灯の まま	“ポーン” （単発音）
エンジン出力 抑制制御作動中 （出力最大抑制 制御）	通常よりやや強 めのブレーキ操 作が必要な状況		消灯の まま	
ブレーキ制御 作動中	急ブレーキが 必要な状況			
システム作動 により車両停止	ブレーキ制御作 動後に車両が 停止した状況		点灯	

 知識**■ センサーの感知範囲について**

インテリジェントクリアランスソナーの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 197）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、インテリジェントクリアランスソナーは作動を開始していない場合があります。

■ システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、インテリジェントクリアランスソナーが停止して、ICS OFF 表示灯が点灯します。

■ システムの復帰について

システム作動によりインテリジェントクリアランスソナーが停止したときに、インテリジェントクリアランスソナーを復帰させたい場合は、再度、インテリジェントクリアランスソナーを ON にし停止を解除（→ P. 203）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。

また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
（特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■ クリアランスソナーのブザーについて

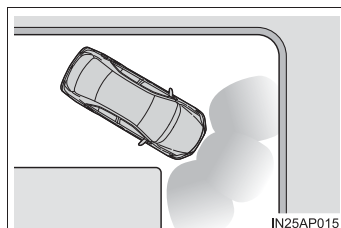
クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく（→ P. 193）、インテリジェントクリアランスソナーを停止させていなければ（→ P. 203）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

- ・狭い道路を走行するとき



- ・砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- ・縦列駐車時
- ・地面にわだちや穴がある場合
- ・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・急な登坂路を走行するとき
- ・冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

- ・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動したとき

万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

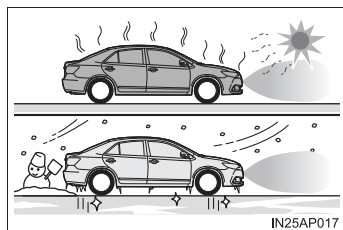
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

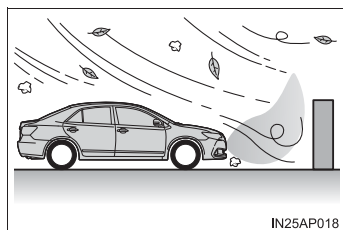
- ・ 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
- ・ 車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

- ・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



- ・ 風が強いとき



- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。

約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS 現在使用できません」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅したとき

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS故障 販売店で点検してください」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検してください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。インテリジェントクリアランスソナーは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- インテリジェントクリアランスソナーは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 203）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

 注意**■ センサーの故障を防ぐために**

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 不要な作動を防ぐために

次のときは、インテリジェントクリアランスソナーを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合

Stop & Start System ★

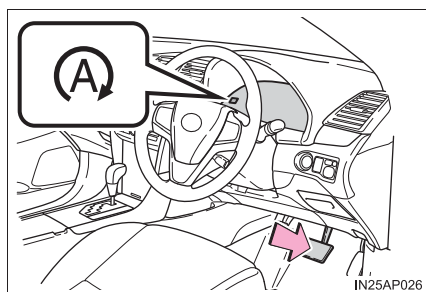
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

D・S・Bレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

シフトレバーをD・S・Bで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯がマルチインフォメーションディスプレイに点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

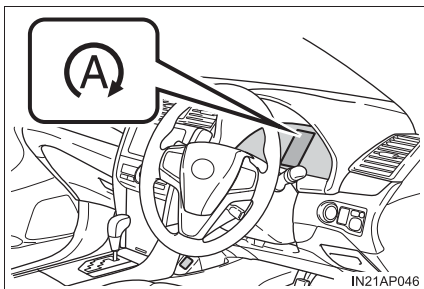
P・Nレンジアイドリングストップ

■ エンジンが停止する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーをNにすると、エンジンが自動的に停止します。
(→ P. 139)

エンジンが停止し Stop & Start 表示灯がマルチインフォメーションディスプレイに点灯します

D・S・Bレンジアイドリングストップ状態で、シフトレバーをPまたはNにしても、エンジンの停止状態は継続されます。



■ エンジンが再始動する

シフトレバーをD・S・B・Rのいずれかにすると、エンジンが再始動します。(→ P. 139)

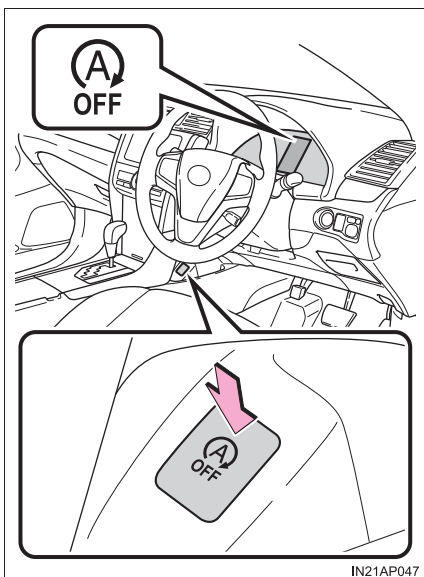
シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。
エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯がマルチインフォメーションディスプレイに点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしてから、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

 知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ シフトレバーが R 以外のとき
 - ・  が OFF のとき（オートエアコン装着車）
 - ・ ボンネットが閉まっているとき（→ P. 280）
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー温度が低い、バッテリー劣化など）、および定期的な充電中のとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)

- ・ エアコンを ON にしたとき

- ・  を ON にしたとき (オートエアコン装着車)

- ・ ハンドルを操作したとき

- ・ シフトレバーが P・N で、アイドリングストップ中、シフトレバーを D・S・B・R に操作したとき

- ・ 運転席シートベルトをはずしたとき

- ・ 運転席ドアを開けたとき

- ・ アクセルペダルを踏んだとき

- ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- ・ 坂道などで車両が動き出したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)

- ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき

- ・ エアコンを使用しているとき

- ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ ボンネットを開けたときは

- シフトレバーが D・S・B でアイドリングストップ中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作 (→ P. 131, 134) でエンジンを始動させてください。

- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを“LOCK” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または OFF (スマートエントリー&スタートシステム装着車) にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。(→ P. 220)
- アイドリングストップ中にエンジンスイッチを押してもエンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動してください。

▶ マニュアルエアコン装着車

 を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を  に切りかえてください。

▶ オートエアコン装着車

 を押してください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop&Start システムによるエンジン停止中、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

▶ マニュアルエアコン装着車

アイドリングストップ時間の「LONG (長め)」を選択しているときは「NORMAL (通常)」を選択してください。

「NORMAL (通常)」を選択して臭いが発生したときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

▶ オートエアコン装着車

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

- オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房の温度低下を抑えるためファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。
- 空調の効きをより良くしたいときは、Stop&Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の切りかえについて

次のそれぞれの操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間は切りかえできません)

▶ Stop & Start キャンセルスイッチ長押しによる設定

Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに、「NORMAL」(通常)・「LONG」(長め) が切りかわります。(マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面、または「設定」画面で確認できます)

▶ 「設定」画面からの設定

→ P. 74

■ Stop & Start システム保護機能（販売店装着オプションのオーディオ装着車）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを“LOCK”にして 3 秒以上待ってから“ACC”または“ON”にし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを“LOCK”にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジンスイッチを“ON”にし、再度エンジンスイッチを“LOCK”する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 351

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」(→ P. 70) で Stop & Start システムの作動状態を表示します。

現在	現在のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。
始動後	エンジン始動後のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を通算で表示します。
リセット間	リセット後のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を通算で表示します。
始動後節約燃料	エンジン始動後のアイドリングストップで節約した燃料 (参考) を表示します。
リセット間節約燃料	リセット後のアイドリングストップで節約した燃料 (参考) を表示します。

「リセット間」と「リセット間節約燃料」をリセットできます。

→ P. 72

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

Stop & Start システムによるエンジン停止が行われなかったときや、Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したときにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。

● Stop & Start システムによるエンジン停止が行われなかったとき

メッセージ	状況
 ブレーキをもう少し踏み込んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない → 車両停止後、ブレーキペダルを少し踏み足すと作動開始します
 エアコン優先	・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している → 設定温度と室内温度の差が小さくなると作動しやすくなります ・  を押している (オートエアコン装着車)

メッセージ	状況
 バッテリー充電中	・ バッテリーの充電量が低下している可能性があります → バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ リフレッシュ充電中の可能性があります（参考シーン：定期的な充電中のときバッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくの期間など） → 約 5 ～ 60 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・ ボンネットが開いている状態でエンジン始動した可能性があります → ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください ・ バッテリーが冷えている可能性があります → エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度上昇に伴い回復します ・ バッテリーが非常に熱くなっている可能性があります → エンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。 ● 長期間にわたって継続的に表示される場合バッテリー劣化の可能性がありますのでトヨタ販売店に相談してください。
 ブレーキシステム	・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ・ 標高が高い → ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態に戻ります
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずしている
 ボンネット開	ボンネットが開いている
 専用バッテリー非装着	・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性があります → Stop & Start システムが作動しません。 トヨタ販売店で点検を受けてください。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
 エアコン優先	・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・  を ON にした（オートエアコン装着車）
 ブレーキシステム	・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをした → 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態に戻ります
 バッテリー充電中	・ バッテリーの充電量が低下している可能性があります → バッテリーの充電を優先させるため、エンジンを再始動しました。エンジンをしばらく作動させると回復します
 ハンドル操作	ハンドル操作をした
 シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした
 ボンネット開	ボンネットが開いている

■ システムに異常があるおそれについて

次のときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示された
- Stop & Start キャンセル表示灯が点滅している

 警告**■ Stop & Start システムが作動しているとき**

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはフロントパーソナルランプスイッチがドアポジションのときにフロントパーソナルランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはフロントパーソナルランプスイッチがドアポジションのときにフロントパーソナルランプが点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や、すべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面での発進する時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ アクティブトルクコントロール 4WD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

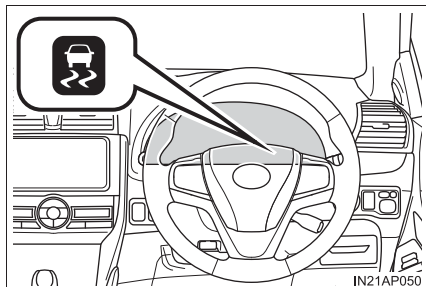
◆ 坂道発進補助機能★

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 215）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

VSC・TRC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難

な場合があります。このようなときに



スイッチを押すことによ

り、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには



を押

す

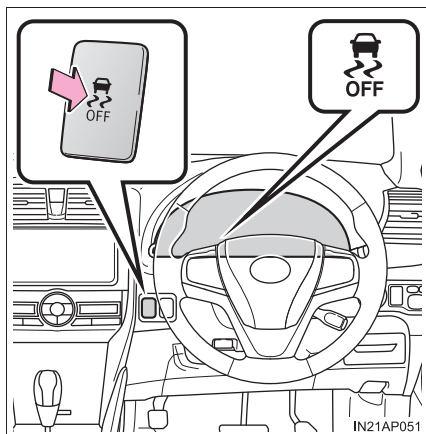
VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます

もう一度



を押すと、システム作

動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し、3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→ P. 176)

■ VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチが “ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
但し、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発信時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■ マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたときは（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

メッセージ	状況	対処方法
4WD システム高温 2WD 走行に 切りかわりました	過熱のため4WDシステムが一時解除され、 2WD 走行に切りかわりました。	しばらくのあいだ停車する、または車速10km/h以上で走行することで、 4WD システムの負荷を低減してください。警告メッセージが消えれば、問題ありません。
4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検	システムの異常により、4WD システムが停止し、2WD 走行に切りかわりました。	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告**■ ヒルスタートアシストコントロールについて**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら、特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 364）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC・アクティブトルクコントロール 4WD ★など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

 警告**■ タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ アクティブトルクコントロール 4WD について（4WD 車）

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性への寄与を目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。
- 滑りやすい路面での走行は慎重に行ってください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 285）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。※

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

※ 195/65R15 および、195/55R16 タイヤ装着車は、必ずプレミオ指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコン・デフォグガーの
使い方**

マニュアルエアコン.....	236
オートエアコン	242
シートヒーター	251

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	254
・フロント パーソナルランプ	255
・リヤ読書灯	255

5-3. 収納装備の使い方

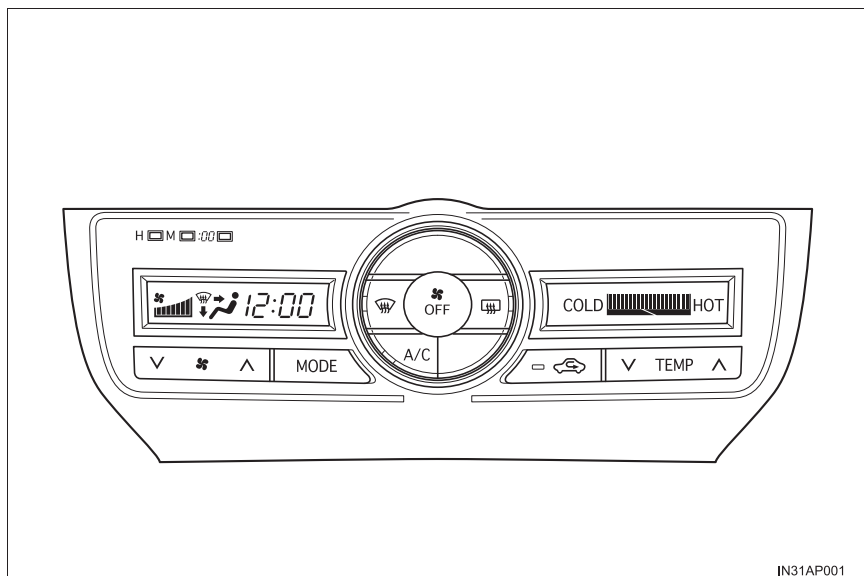
収納装備一覧.....	257
・グローブボックス.....	258
・コンソールボックス.....	259
・カップホルダー.....	260
・ボトルホルダー.....	261
・小物入れ.....	262
トランク内装備.....	264
・三角表示板 収納スペース	264

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	265
・サンバイザー	265
・バニティミラー.....	265
・時計	266
・アクセサリーソケット.....	267
・リヤセンター アームレスト	268
・アシストグリップ.....	268
・コートフック	269
・オーディオスイッチ.....	269

マニュアルエアコン★

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

温度を上げるときは **TEMP** の“**△**”側を、下げるときは“**V**”側を押す

押すたびに設定温度が 1 段階ずつかわります。

■ 風量を切りかえる

風量を調整するには、**V * △** の“**△**”（増）側か“**V**”（減）側を押す
送風停止状態でスイッチを押すと、ファンが作動します。

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは **OFF** を押します。

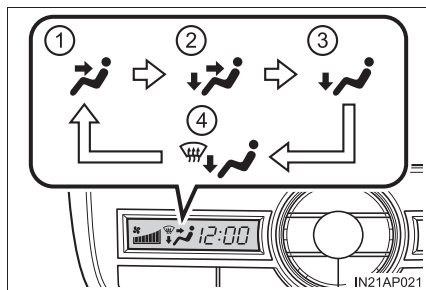
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る

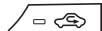


その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

 を押して吹き出し口を  に切りかえる

ファンが作動していないときは、 を押します。

 を押し、エアコン（冷房・除湿機能）を作動させると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るとき（ミラーヒーター設定車）にご使用ください。

 を押す

リヤウインドウデフォグターとミラーヒーター★は、約 15 分で自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

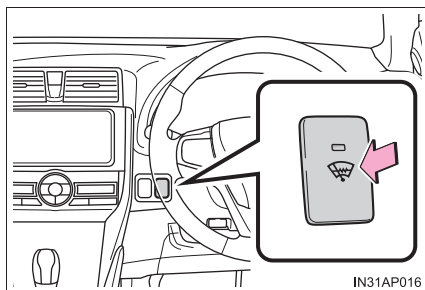
■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。



を押す

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

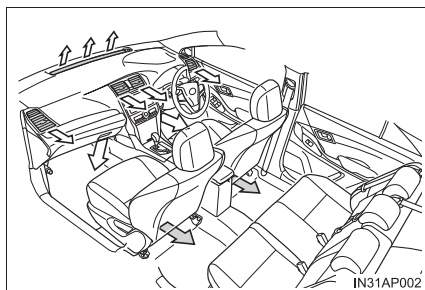


吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

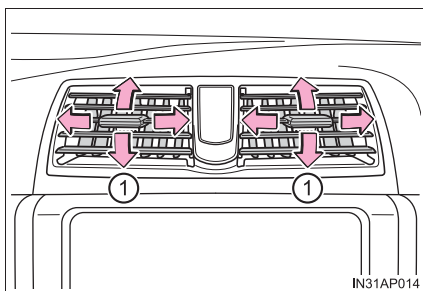
← : 寒冷地仕様車のみ



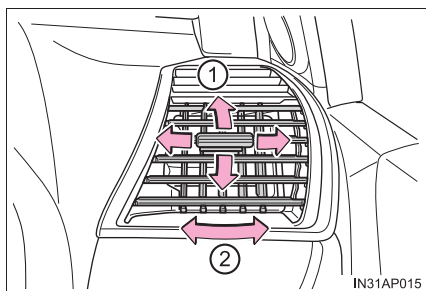
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



▶ 左右吹き出し口



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

吹き出し口を閉じるときは、ノブを車両外側へ“カチッ”と音がするまで動かします。

□ 知識

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気温が 0℃以下のとき

 を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口であり、温度調整の設定によっては、足元には、上半身に送風される風よりも暖められた風が送風されます。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

- **Stop & Start システム★によるエンジン停止中、ウインドウガラスが曇ったとき**
Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動してください。



を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切りかえ、曇りを取ってください。

断続的にウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- **Stop & Start システム★によるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したときは**

アイドリングストップ時間の切りかえで「LONG」を選択している場合は、「NORMAL」を選択してください。「NORMAL」を選択して臭いが発生したときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- **リヤウインドウデフォグガー、ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★の作動条件**

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが ON のとき

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

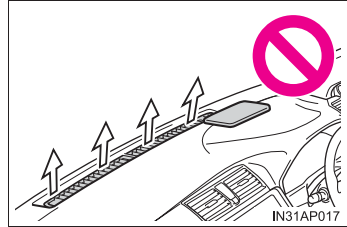
■ フロントガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■ リヤウインドウデフォグター&ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(ミラーヒーター装着車)
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

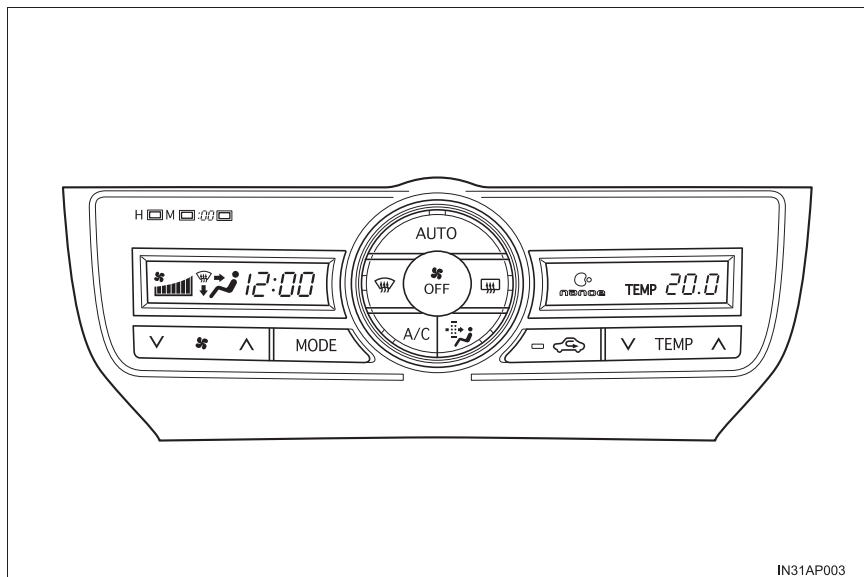
エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

温度を上げるときは **▽ TEMP ▲** の “▲” 側を、下げるときは “▽” 側を押す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風量を切りかえる

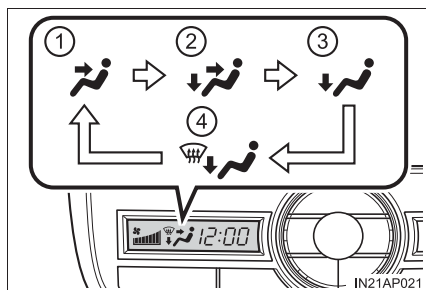
風量をかえるには、 の“^”（増）側か“V”（減）側を押す
風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは  を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口を切りかえるには、 を押す
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

- 1  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには  を押します。
（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

- 2 設定温度を上げるときは  の“^”側を、下げるときは“V”側を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スwitchの作動表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度  を押すと、前のモードにもどります。

■ 花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に

 を押す前のモードにもどります。

途中で作動を止めるときは、再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るとき（ミラーヒーター設定車）にご使用してください。

 を押す

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーター★は、約 15 分で自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロントワイパーデアイサー★

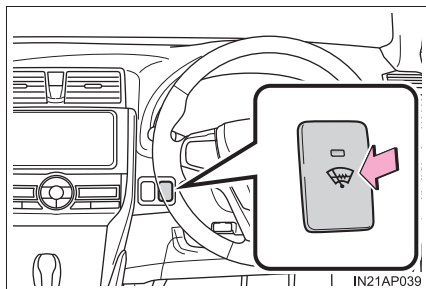
フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



を押す

途中で動作を止めるときは再度を押すと前のモードにもどります。

フロントワイパーデアイサーは、約15分で自動的にOFFになります。



「ナノイー※」を使うには★

 か  、または  を押してファンを作動させる

ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動し、表示部に「nanoe」が表示されます。

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

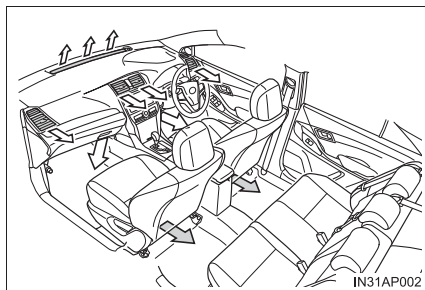
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

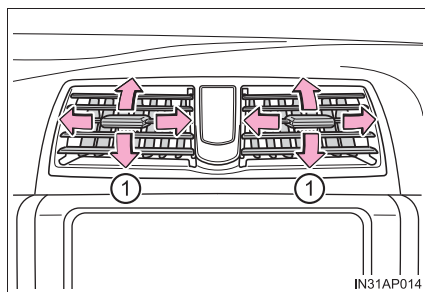
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

← : 寒冷地仕様車のみ

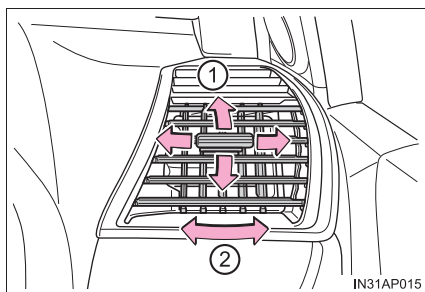


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



▶ 左右吹き出し口



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

吹き出し口を閉じるときは、ノブを車両外側へ“カチッ”と音がするまで動かします。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■ 花粉除去モードについて

- 外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。
 - ・ 内気循環に切りかわらない
 - ・ エアコンの電源が自動的に入る
 - ・ 1 分後作動が停止する
- 雨天時は窓が曇るため、 を押してください。
- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去モードが OFF のときも、花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席右側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※。

- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が 、、 のとき

・ 運転席の吹き出し口が開いているとき

- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

※ 車室内の環境（温度、湿度）、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ Stop & Start システム★によるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風または無風になります。エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システム★によるエンジン停止中、ウィンドウガラスが曇ったとき



を押しエンジンを再始動させて曇りを取ってください。

断続的にウィンドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システム★によるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ リヤウィンドウデフォグガー、ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★の作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが ON のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン スイッチがイグニッション ON モードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

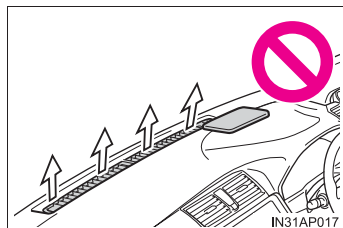
■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグガー、フロントワイパーデアイサー★、ミラーヒーター★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(ミラーヒーター装着車)
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

■ 「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために（「ナノイー」装着車）

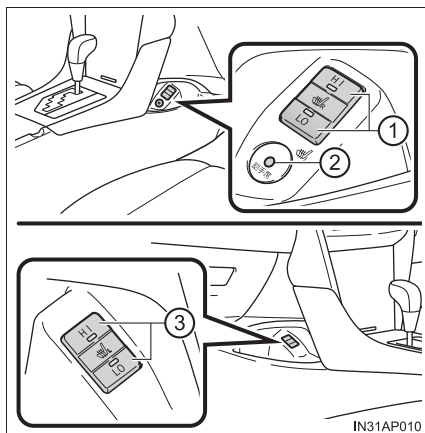
運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

運転席・助手席をそれぞれ温めることができます。

- ① 運転席側スイッチ
- ② 助手席シートヒーター作動表示灯
- ③ 助手席側スイッチ

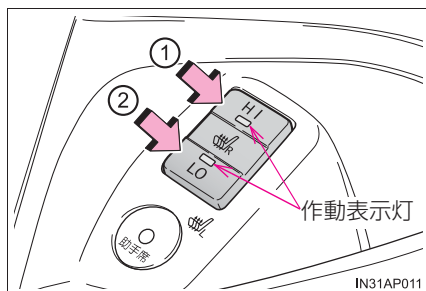


■ 操作のしかた

- ① 使用するときは、スイッチのいずれかの側を押す

- ① HI（強）
- ② LO（弱）

押した側の作動表示灯が点灯します。助手席側シートヒーターの作動中は、助手席シートヒーター作動表示灯も点灯します
(→ P. 252)



- ② 作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押す
スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

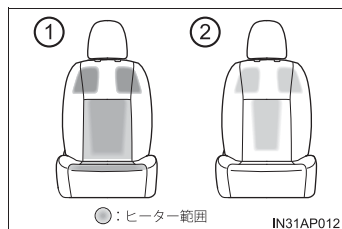
■ HI（強）・LO（弱）の作動の違いについて

① HI（強）での作動時

シートの肩部分・背もたれ全体・クッション部を温めます。

② LO（弱）での作動時

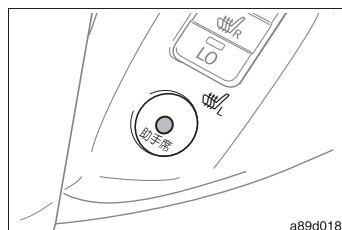
シートの肩部分・背もたれ中央部を温めます。



■ 助手席シートヒーター作動表示灯

助手席側のシートヒーターが作動しているとき点灯します。

運転席側から、助手席シートヒーターの作動状態を確認することができます。



 警告**■ やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因となります。
- 仮眠するときは使用しないでください。
シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

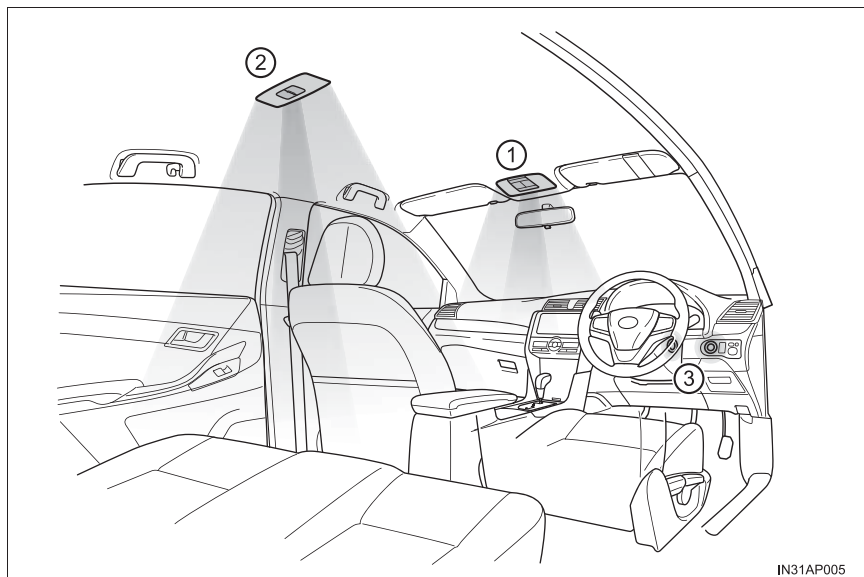
 注意**■ シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときは、スイッチを中立の位置にもどし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

室内灯一覧



- ① フロントパーソナルランプ (→ P. 255)
- ② リヤ読書灯★ (→ P. 255)
- ③ エンジン スイッチ照明

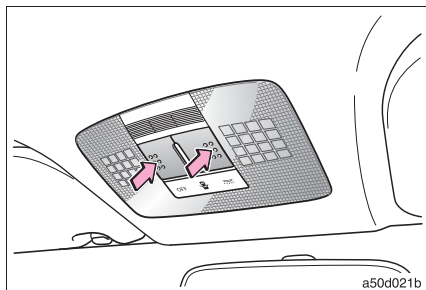
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ

■ 独立スイッチでの操作

ランプを点灯・消灯する

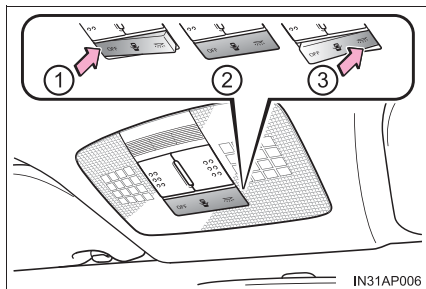
ドア連動スイッチによって点灯しているときは、独立スイッチを押しても消灯しません。



■ ドア連動スイッチでの操作

スイッチを操作すると、連動してリヤ読書灯も作動します。

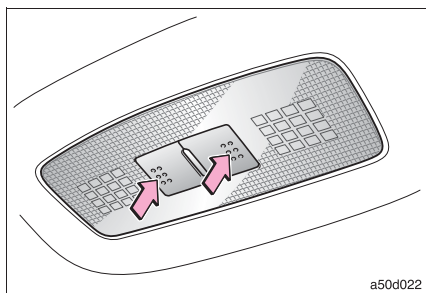
- ① ランプを消灯する
- ② ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる (ドアポジション)
- ③ ランプを点灯する



リヤ読書灯★

ランプを点灯・消灯する

フロントパーソナルランプのドア連動スイッチによって点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 自動消灯機能について

フロントパーソナルランプのドア連動スイッチがドアポジションのときに、ドア開状態でフロントパーソナルランプ／リヤ読書灯★とエンジンスイッチ照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ イルミネーテッドエントリーシステム

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※ フロントパーソナルランプ／リヤ読書灯★は、フロントパーソナルランプのドア連動スイッチがドアポジションのとき、イルミネーテッドエントリーシステムの制御に従って作動します。

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 367)

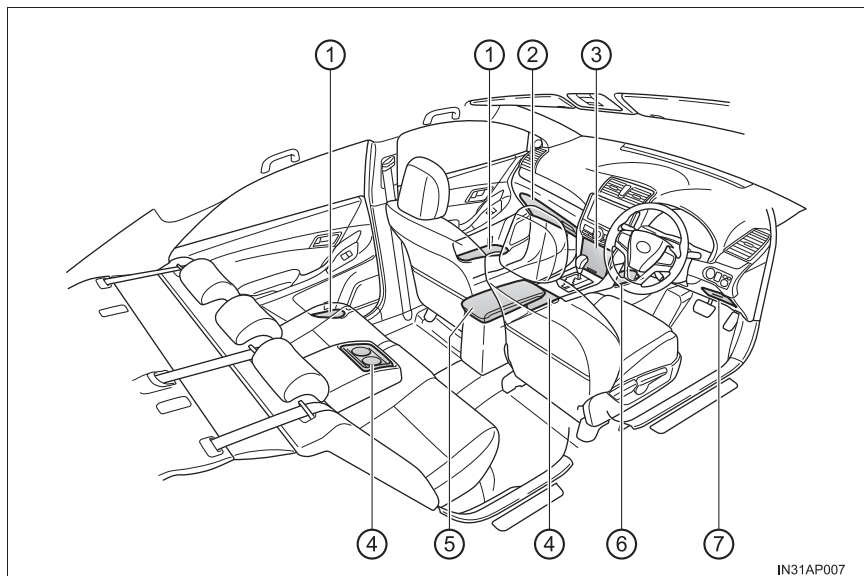
 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

- 独立スイッチによりフロントパーソナルランプ／リヤ読書灯★を点灯している場合、自動消灯機能は働きません。バッテリーあがりにご注意ください。
- エンジンが停止した状態で、長時間ランプ類を点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



- ① ボトルホルダー（ドアポケット）（→ P. 261）
 ② グローブボックス（→ P. 258）
 ③ 小物入れBタイプ★（→ P. 262）
 ④ カップホルダー（→ P. 260）
 ⑤ コンソールボックス（→ P. 259）
 ⑥ 小物入れCタイプ★（→ P. 262）
 ⑦ 小物入れAタイプ★（→ P. 262）

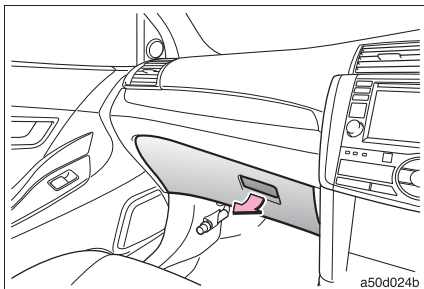
⚠ 警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

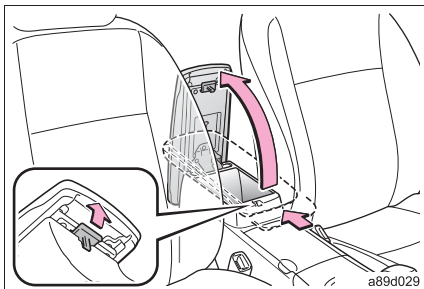


知識

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開くとランプが点灯します。

コンソールボックス

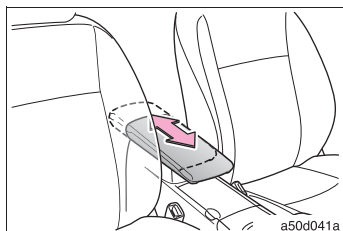
フタを後方にスライドし、レバーを引いてフタを持ち上げる



知識

■ コンソールボックスのフタをアームレストとして使うとき

フタを前方または後方にして位置を調整できます。



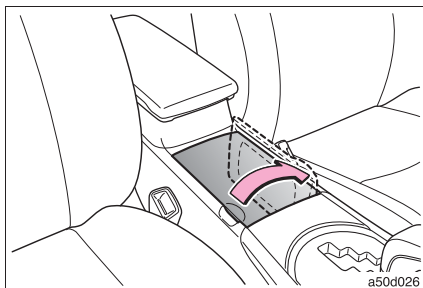
警告

■ コンソールボックスのフタをうしろにスライドさせたとき

フタの後端部分に手をついたりしないでください。不意にフタが開き、けがをするおそれがあります。

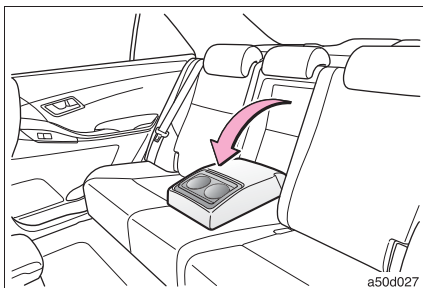
カップホルダー

▶ フロント



フタを開ける

▶ リヤ

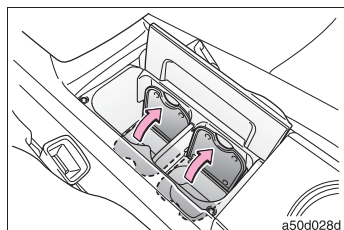


リヤセンターアームレストを引き出す

知識

■ フロントカップホルダーについて

背の高いボトルやカップなどを置くときは、中ブタを持ち上げます。



警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

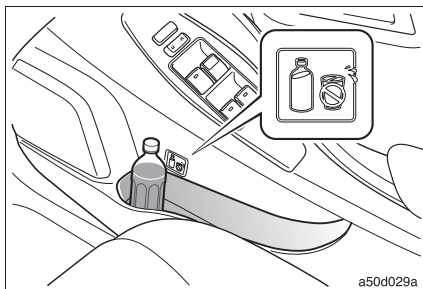
注意

■ フロントカップホルダーの破損を防ぐために

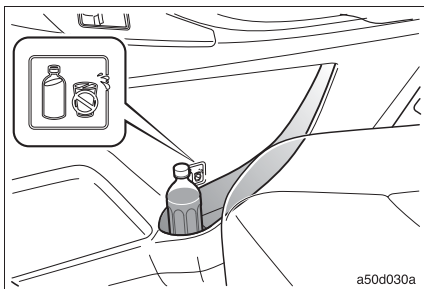
カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

ボトルホルダー（ドアポケット）

▶ フロント



▶ リヤ

 **知識**

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

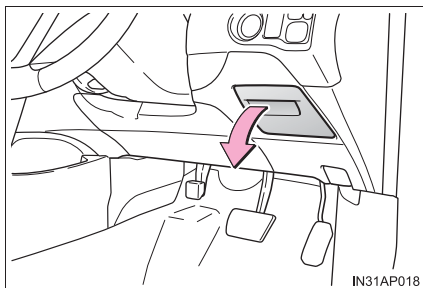
 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

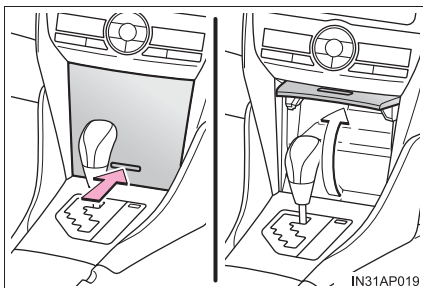
小物入れ

▶ A タイプ★



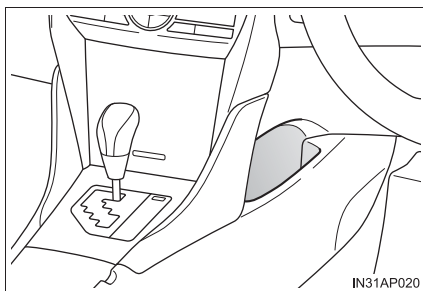
手前に引いて開ける

▶ B タイプ★



フタを押す

▶ C タイプ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

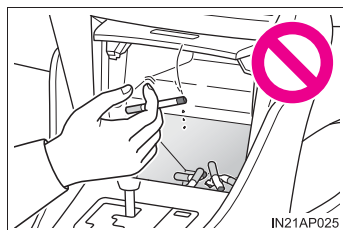
警告**■ 走行中の警告**

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

- 開閉が可能な小物入れを開けたままにしないでください。
- 小物入れ C タイプ★内には、転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。

■ 小物入れ B タイプ★について

小物入れ B タイプは灰皿ではありません。マッチやタバコの吸い殻などを入れないでください。

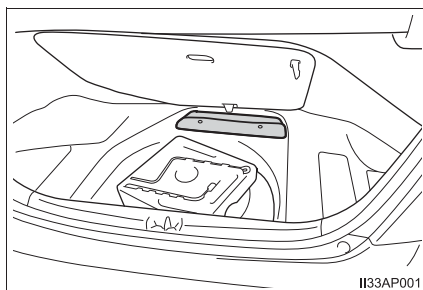


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランク内装備

三角表示板収納スペース

ラゲージマットの下に三角表示板を収納することができます。



知識

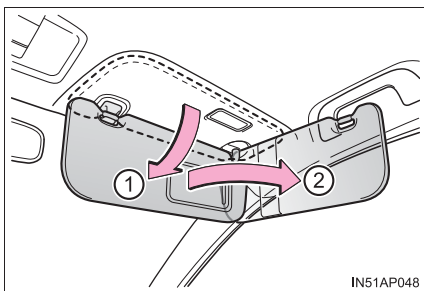
■三角表示板収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

その他の室内装備

サンバイザー

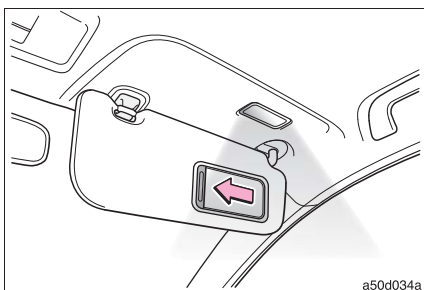
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けると、バニティミラー天井照明が点灯します。

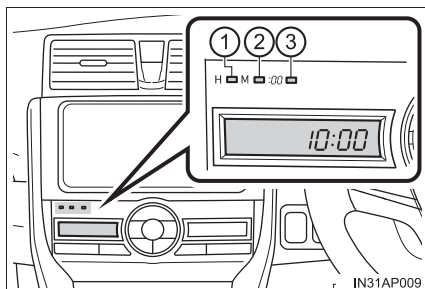


⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するためにエンジンが停止した状態で、長時間バニティミラー天井照明を点灯しないでください。

時計

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする※ (: 00)
※ (例) 1 : 00 ~ 1 : 29 → 1 : 00
1 : 30 ~ 1 : 59 → 2 : 00



知識

■時刻が表示されるとき

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ACC” または “ON” のとき

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッションONモードのとき

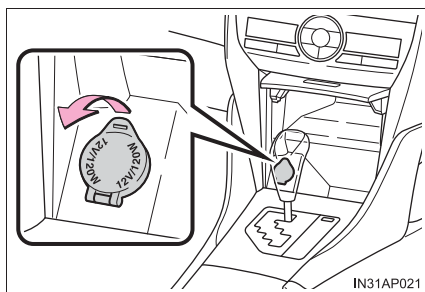
■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリースOCKET

DC12 V/10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC” または “ON” のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

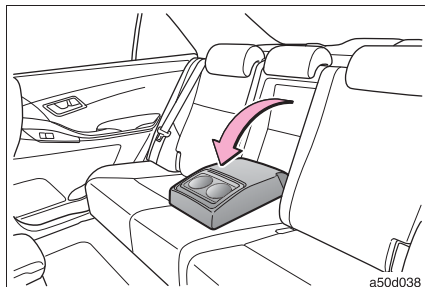
エンジン スイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

リヤセンターアームレスト

手前に倒して使用します。



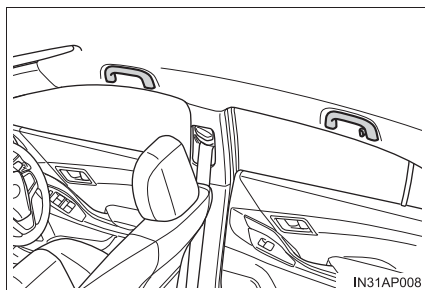
⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取りつけられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

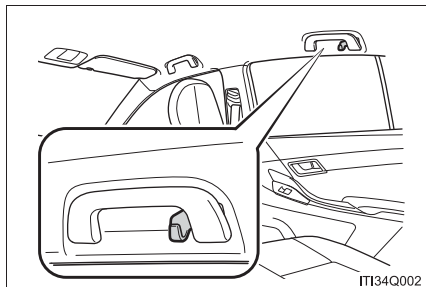
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐためにアシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

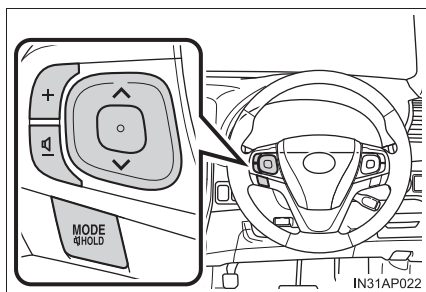
■ 破損を防ぐために

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ装着車)

オーディオスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取り扱い説明書を参照してください。



お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....272

内装の手入れ.....275

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット280

ガレージジャッキ282

ウォッシャー液の補充283

タイヤについて285

タイヤ空気圧について288

エアコンフィルターの交換 ...290

キーの電池交換292

ヒューズの点検・交換295

電球（バルブ）の交換298

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うとき

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール★

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について（寒冷地仕様車）

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 111）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。

洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。

シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするとき（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の注意をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオ（装着車のみ）やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは（Toyota Safety Sense C 装着車）

前方センサー（→ P. 160）にさわらないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、PCS・LDA・オートマチックハイビームの誤作動や故障につながるおそれがあります

 注意**■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき**

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラス★を清掃するとき

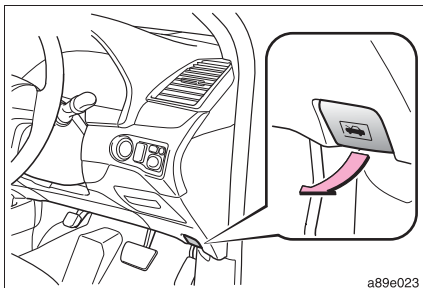
ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

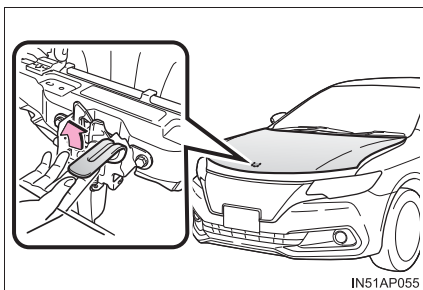
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

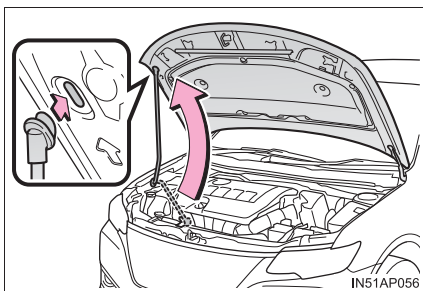
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすとき

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

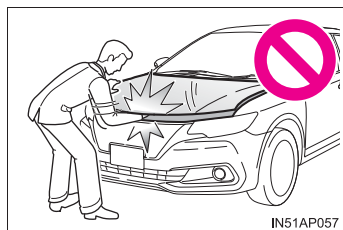
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあります。

**注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

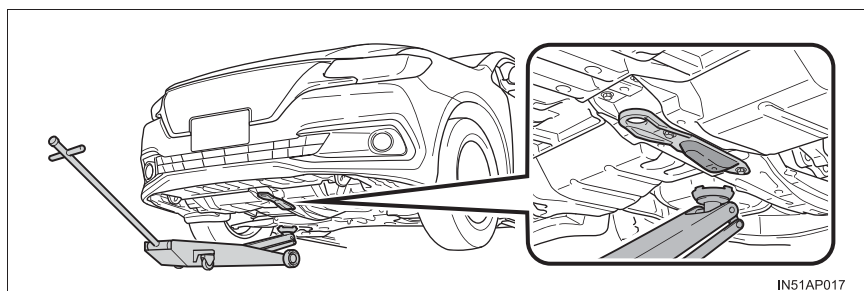
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

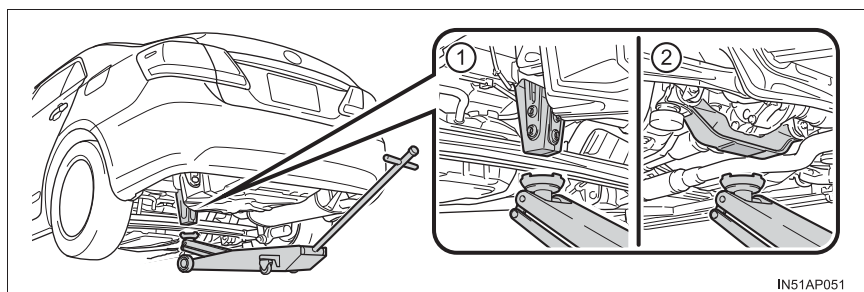
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



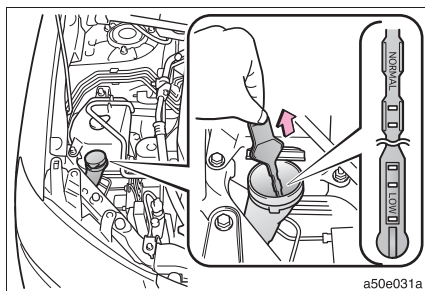
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたら
ウォッシャー液を補充する



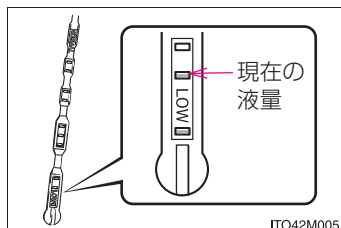
a50e031a

知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの
穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残
量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より
下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、
ウォッシャー液を補充してください。



ITO42M005

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充
しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかか
ると出火するおそれがあり危険です。

 注意**■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

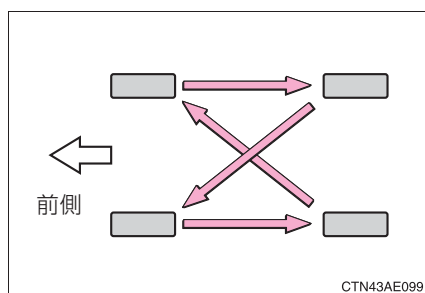
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



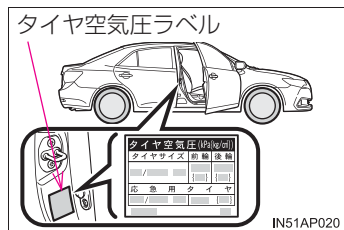
知識

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm ²)]	
	前輪	後輪
185/65R15 88S	230 (2.3)	230 (2.3)
195/65R15 91S	230 (2.3)	230 (2.3)
195/55R16 87V	220 (2.2)	200 (2.0)

応急用タイヤ：420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

⚠ 警告

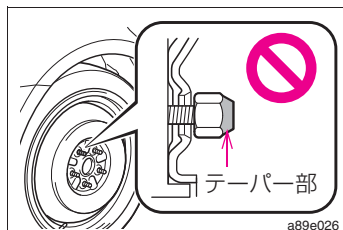
■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 364)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

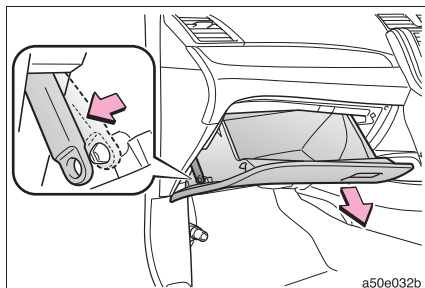
- 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジン スイッチを “ LOCK ” にする

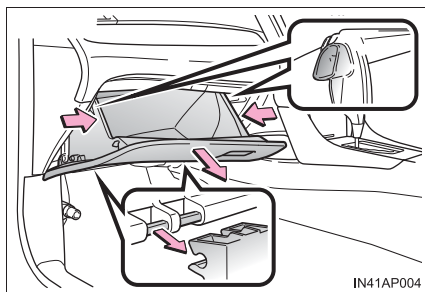
スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンスイッチを OFF にする

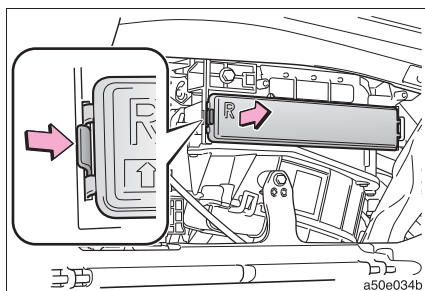
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーasteのピンをはずす



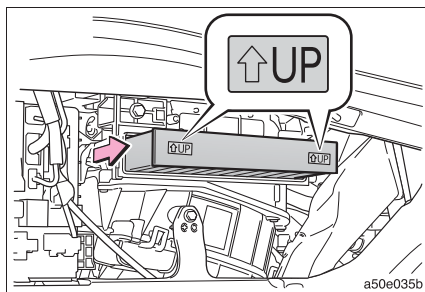
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



- 4 フィルターカバーを取りはずす



- 5** フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 6** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km[※]] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

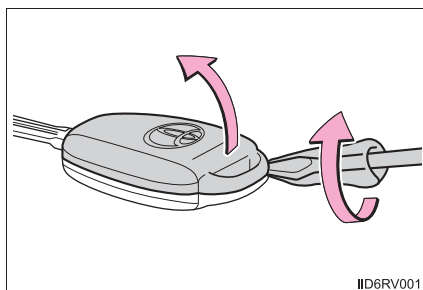
用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池
 - ・ CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
 - ・ CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

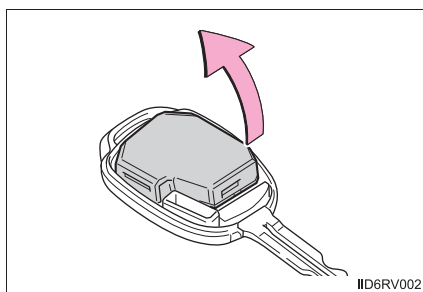
電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

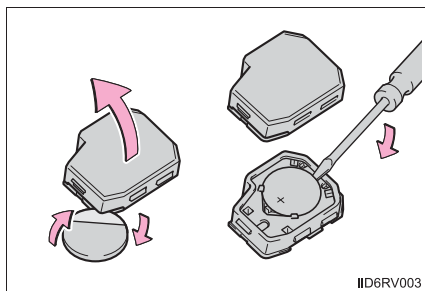


2 モジュールを取り出す



- 3 コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

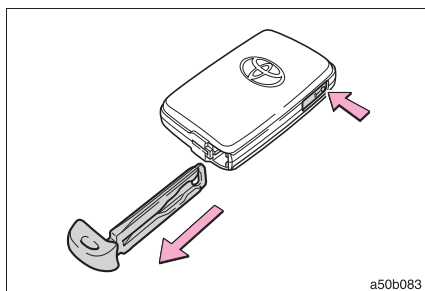
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

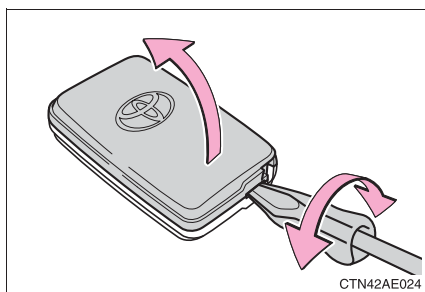
電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 1 メカニカルキーを抜く



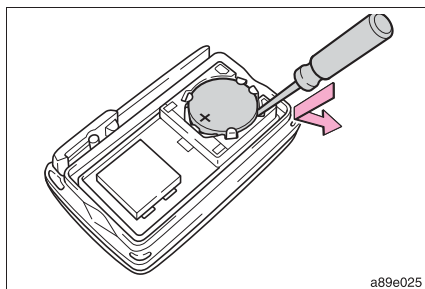
- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ リチウム電池 CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

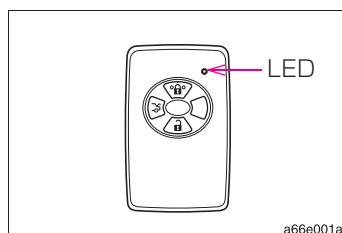
■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ キーの電池を交換したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体のLED が点灯することを確認します。



警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

① スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK”にする

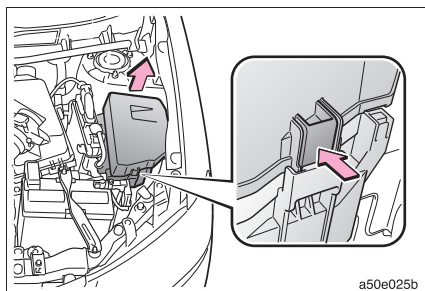
スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチを OFF にする

② ヒューズボックスを開ける

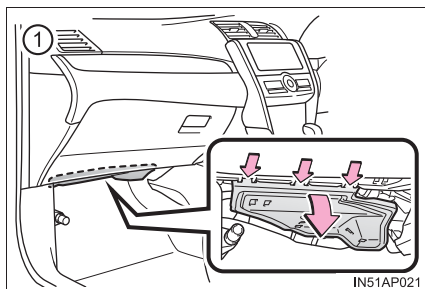
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

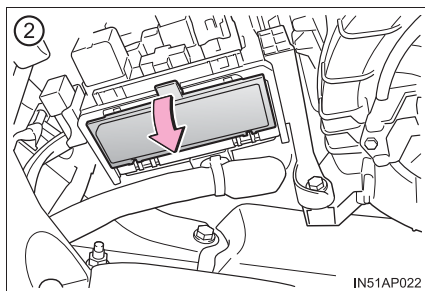


▶ 助手席足元

① 足元のカバーを取りはずす



- ② ヒューズボックスカバーを取りはずす



- ③ ヒューズを引き抜く

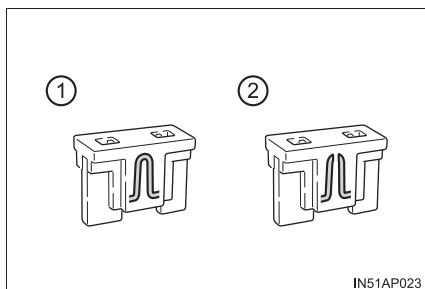
ヒューズはずしは、トヨタ販売店でお買い求めください。

- ④ ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常

- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 298)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

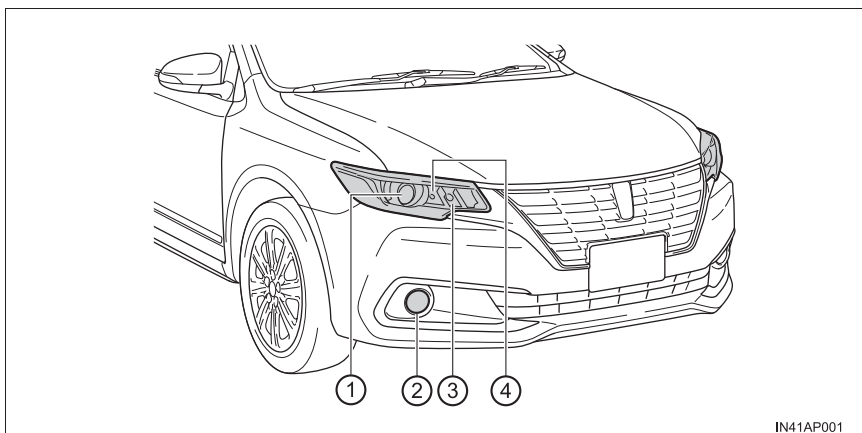
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店にご相談ください。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 365）

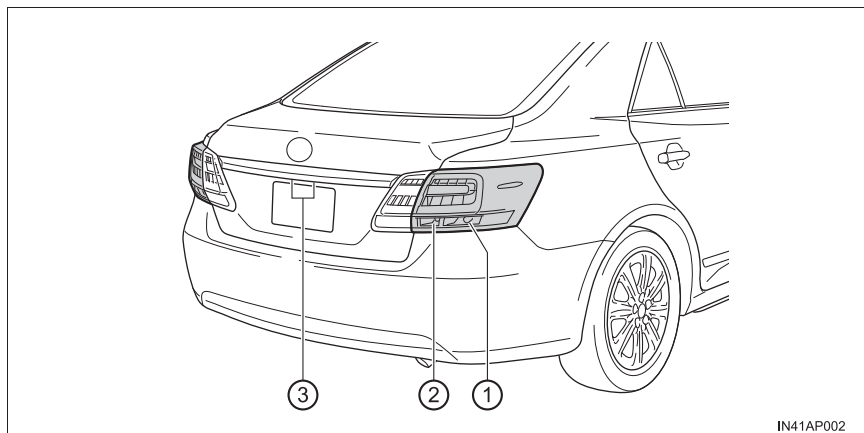
フロントのバルブ位置



- ① ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）
- ② フロントフォグランプ★
- ③ フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ④ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤのバルブ位置

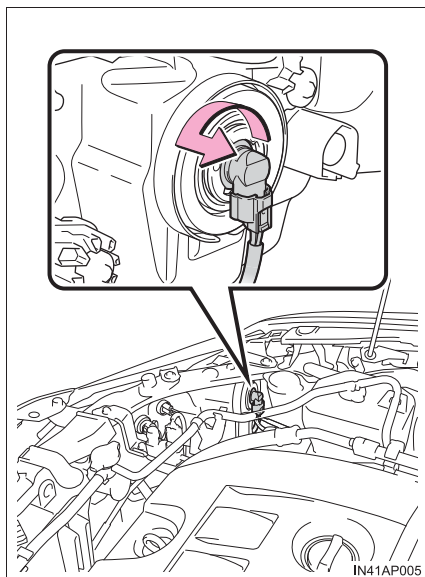


- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

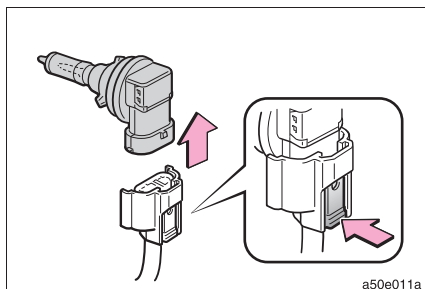
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ ロービーム/ハイビーム(ハロゲンヘッドランプ装着車)

- 1 ソケットを取りはずす



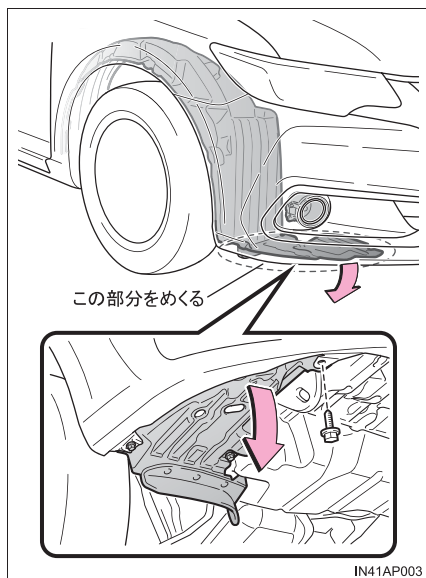
- 2 電球を取りはずす



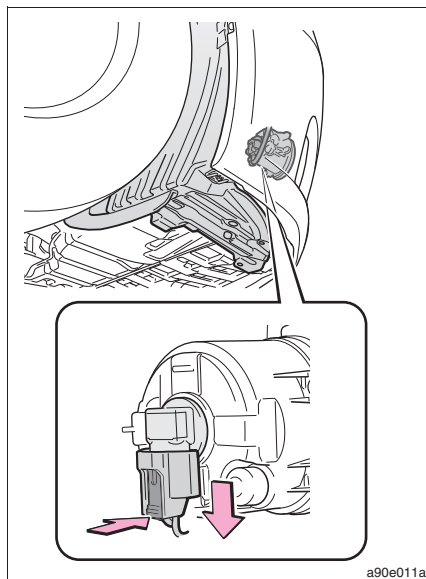
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグランプ★

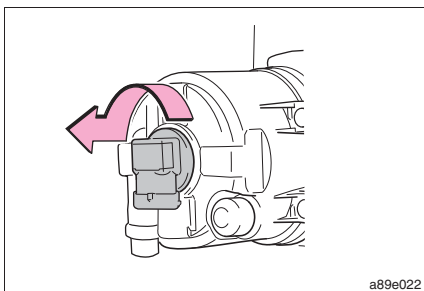
- 1 ネジ(1本)を取りはずし、フェンダーライナーをめくる



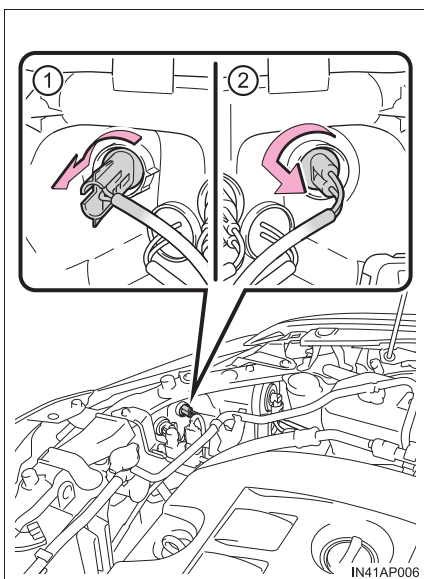
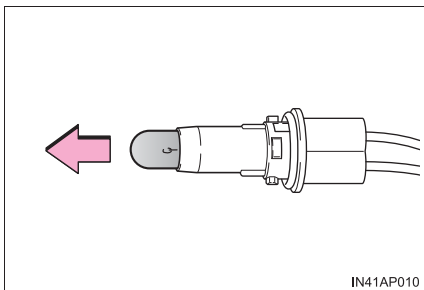
- 2 コネクターを取りはずす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

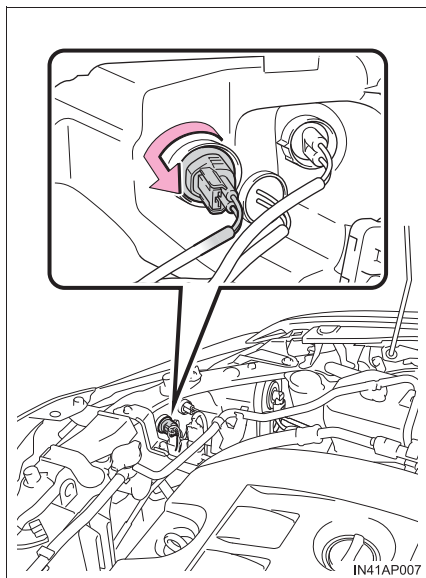
3 電球を取りはずす**4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける**■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）****1** ソケットを取りはずす

- ① 助手席側
- ② 運転席側

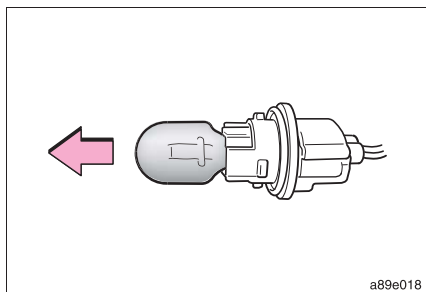
**2** 電球を取りはずす**3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす



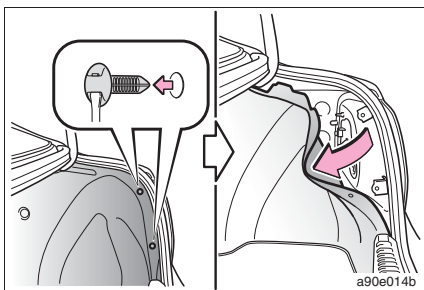
2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

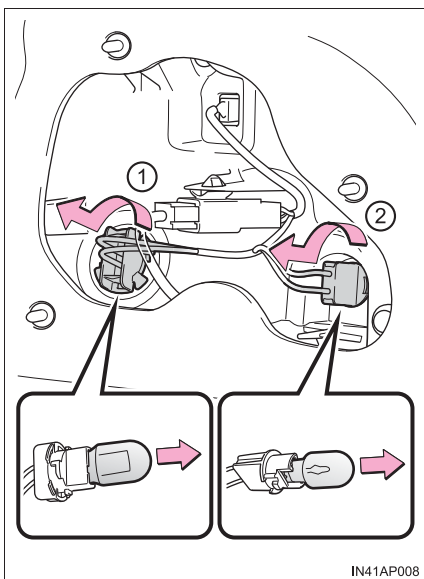
■ 後退灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯

- 1 トランクを開け、クリップ（2個）をはずしてカバーをめくる
クリップ頭部の穴にマイナスドライバーなどを挿し込み、手前に引くとクリップがはずれます。



- 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

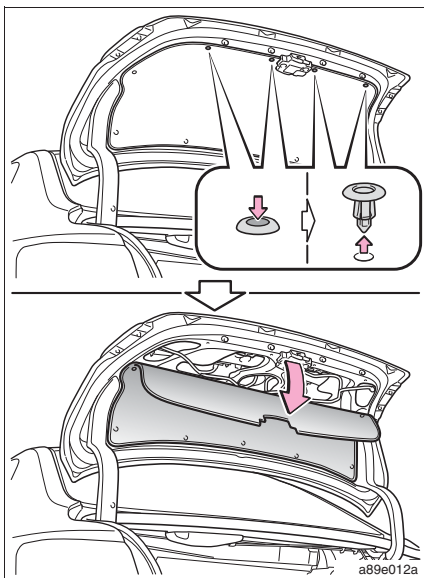
- ① リヤ方向指示兼非常点滅灯
- ② 後退灯



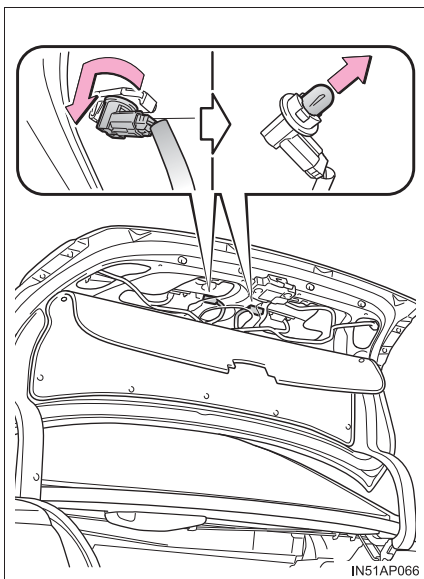
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

- 1 トランクを開け、クリップ（4個）をはずしてカバーをめくる
クリップ頭部の中心を押してから手前に引くと、クリップがはずれます。



- 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

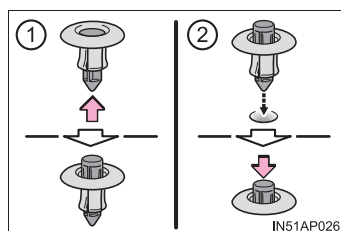
次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ (LED タイプ)
- 車幅灯 (LED タイプ)
- 制動灯 (LED タイプ)
- 尾灯 (LED タイプ)
- サイド方向指示兼非常点滅灯 (バルブ)
- ハイマウントストップランプ (LED タイプ)

■ 知識

■ トランクリッドのカバーのクリップを取り付けるとき

- ① 先端を押して、クリップの中心を出す
- ② クリップをセットしてから、クリップ頭部の中心を押す



■ LED ランプについて (LED ランプ装着車)

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・制動灯・ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■ 電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	310
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	311
発炎筒	312
車両を緊急停止するには	314

7-2. 緊急時の対処法

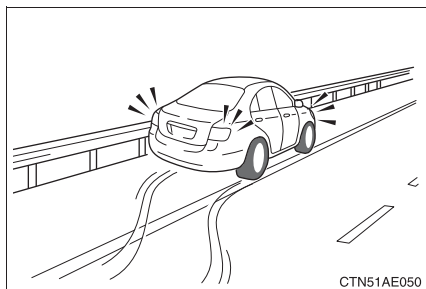
けん引について	316
フューエルポンプ シャットオフシステム	323
警告灯がついたときは	324
警告メッセージが 表示されたときは	328
パンクしたときは	332
エンジンが かからないときは	344
電子キーが正常に 働かないときは （スマートエントリー& スタートシステム装着車）...	346
バッテリーが あがったときは	348
オーバーヒートした ときは.....	354
スタックしたときは	357

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

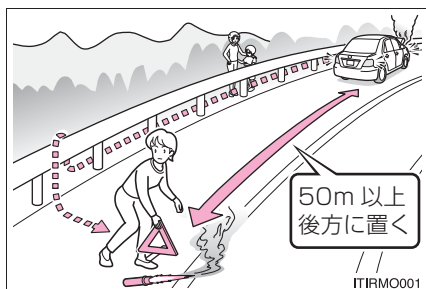
非常点滅灯（→ P. 311）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

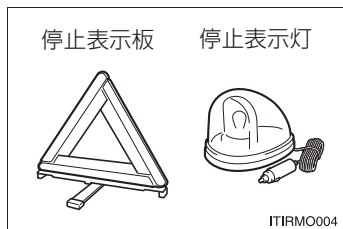
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 312）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

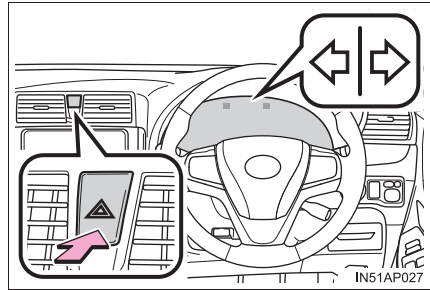


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。



知識

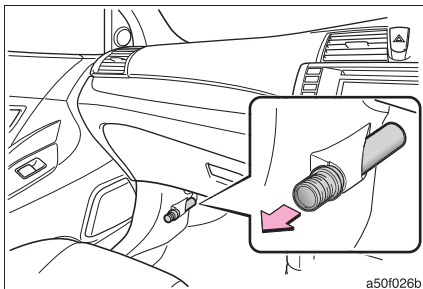
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

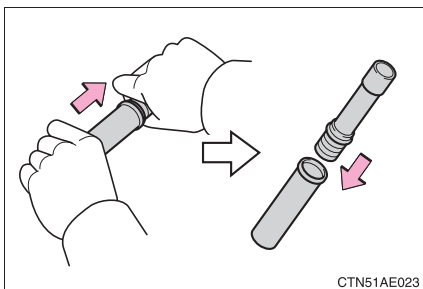
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

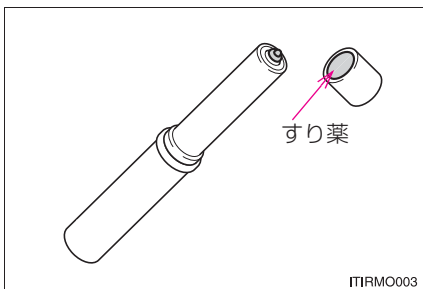
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。着火させる際は、筒先を顔や体に向けしないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

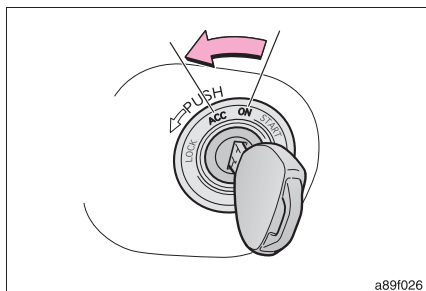
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

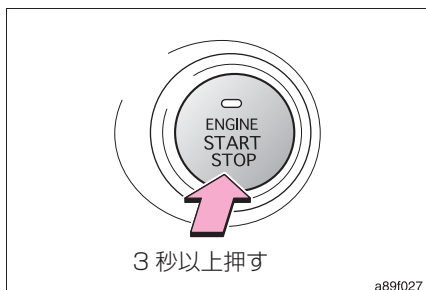
万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 スマートエントリー & スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



a89f026

スマートエントリー & スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する



3 秒以上押す

a89f027

- 5 車を安全な道路脇に停める

**警告****■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー & スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

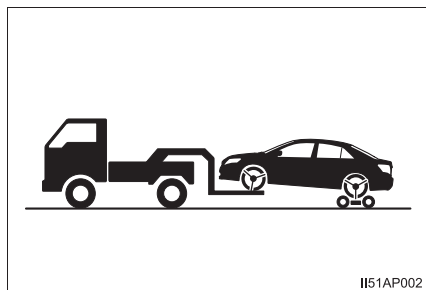
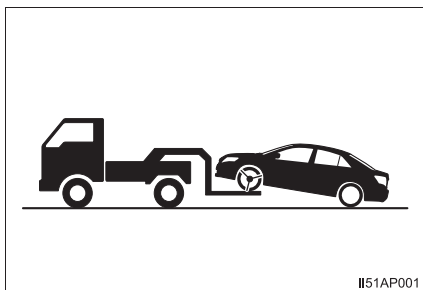
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

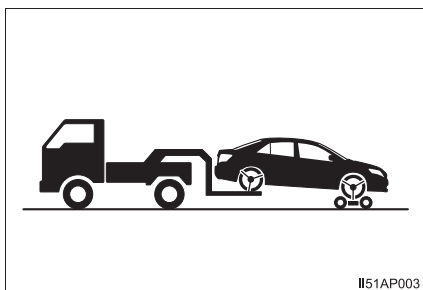
- ▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）
- ▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



パーキングブレーキを解除する

台車を使用して後輪を持ち上げる

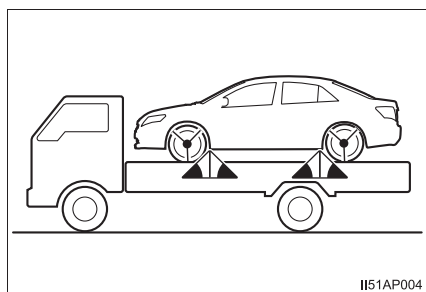
- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

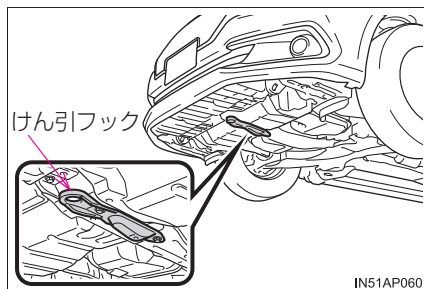
鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



他車にけん引してもらおうとき

- 1** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

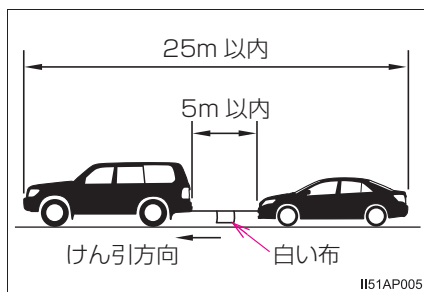
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



- 2** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上



- 3** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ON” にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを ON モードにしてください。

- 4** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは→ P. 140

 知識

■けん引フックの使用目的

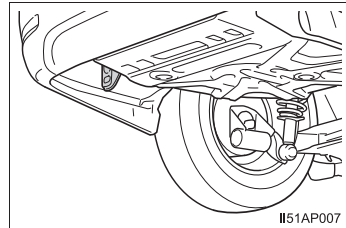
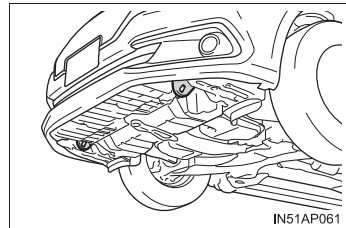
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

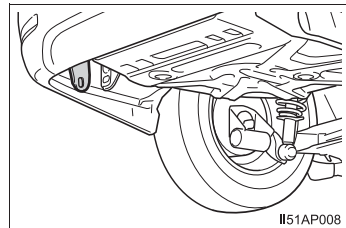
■輸送用フック

このフックは、船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



■緊急用フック（寒冷地仕様車）

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



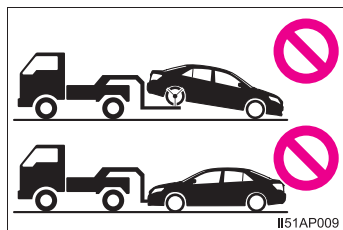
警告

次のことを必ずお守りください。

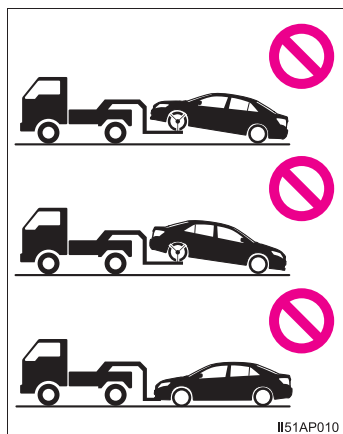
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき**▶ FF 車**

必ず前輪を持ち上げるか 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。

**▶ 4WD 車**

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

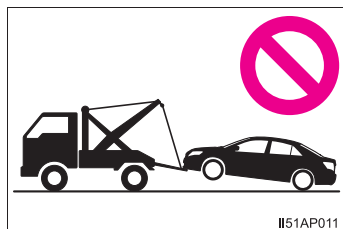


警告**■他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または、OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

注意**■レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動系部品の損傷を防ぐために**

- ロープでけん引される時は次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するとき**▶ FF 車**

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 4WD 車

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引して下さい。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 1 エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にする
- 2 エンジンを再始動する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモード、またはOFFにする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・ EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★ 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一 時停止している可能性があります。 ・ 前方センサー周辺のプロントウインドウガラスに汚れ（く もり、結露、凍結などを含む）や付着物がある → 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 162） ・ 前方センサー温度が作動範囲外 → センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたは プリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF に なっています。 → VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能に なります。（→ P. 167、227）
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9L 以下になった → 燃料を補給する
※ 4 	油圧警告灯（警告ブザー※ 2） エンジンオイルの圧力が異常に低い → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してくだ さい。走行を続けると危険です。
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ 3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーショ ンディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 328
※ 4 	充電警告灯 充電系の異常（エンジン始動中） → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してくだ さい。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキ表示灯 パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除してください。
	スリップ表示灯 (点灯したままのとき) 次のいずれかの機能の異常 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	Stop & Start キャンセル表示灯★ Stop & Start システムの異常 (Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 214) → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	ICS OFF 表示灯★ インテリジェントクリアランスソナーの異常 (警告ブザー) システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・ センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できないときに点滅します。(→ P. 331)
※ 4 	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／インテリジェントクリアランスソナー★警告灯 ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 ・ インテリジェントクリアランスソナー作動時 (→ P. 206) → 表示された画面の指示に従ってください。

※ 1 **ブレーキ警告ブザー：**

ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※ 2 **油圧警告ブザー：**

警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※ 3 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※ 4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ（販売店装着オプションのオーディオ装着車）の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ ブレーキ警告灯について（2ZR-FAE / 3ZR-FAE エンジン搭載車）

エンジン スイッチが“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）で、エンジンが停止しているとき、ブレーキペダルを数回踏むと点灯します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

 警告

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。
ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

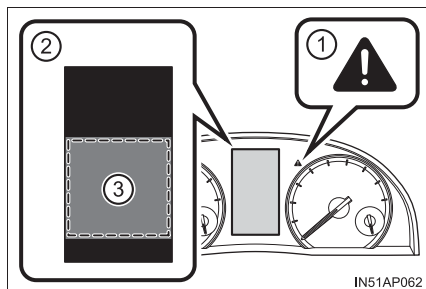
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

● アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★やクルーズコントロール★などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

● ドライブスタートコントロール・ブレーキオーバーライドシステム・インテリジェントクリアランスソナー★が作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 206）

画面の指示に従って対処してください。

● 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または指示された部位を確認し、開いているドア、トランクを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■ 「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ 「4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました」が表示されたとき（4WD 車）

負荷の高い走行状況が続いたときに、メッセージが表示される場合があります。
対処方法：→ P. 229

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 「前方カメラシステム一時使用不可しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき (Toyota Safety Sense C 装着車)

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

- PCS (プリクラッシュセーフティシステム)
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- オートマチックハイビーム
- 先行車発進告知機能

- クリアランスソナーに異常があるときは (クリアランスソナー装着車)

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ます。

- クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時はセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。



- センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。



- マルチインフォメーションディスプレイに「P レンジに入れてください」が表示されたとき (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

シフトレバーをPの位置にしてから、操作をしてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「キーがみつかりません」が表示されたとき (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

電子キーを携帯して、操作をしてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

ブレーキペダルをしっかりと踏んで、エンジンを始動してください。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 285 を参照してください)

警告

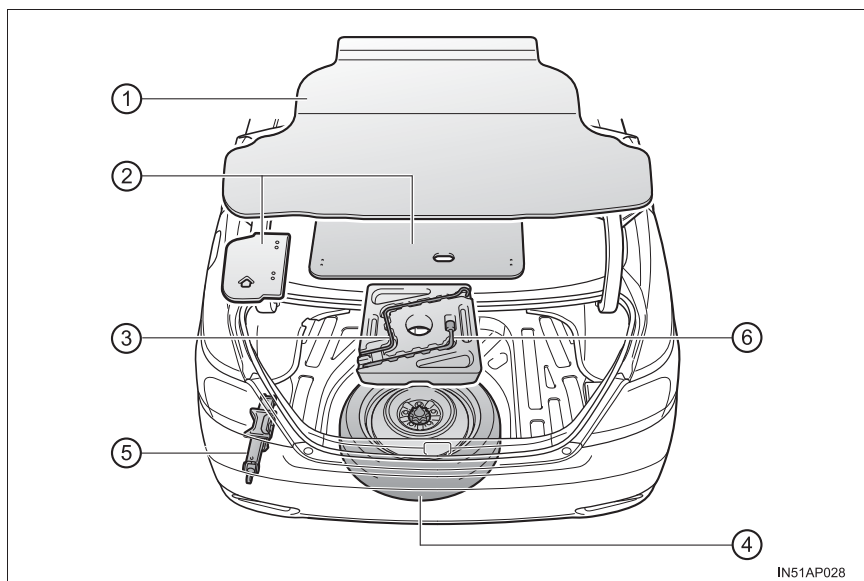
■ タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの搭載位置

 警告**■ ジャッキの使用について**

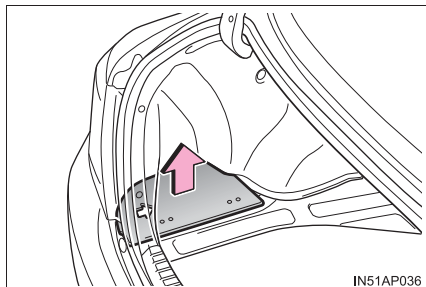
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

ジャッキの取り出し方

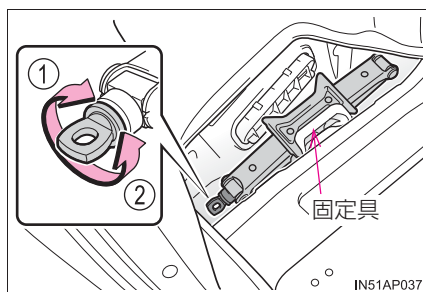
- 1 マットを取り出し、トランク内のカバーを取りはずす



- 2 ジャッキを取り出す

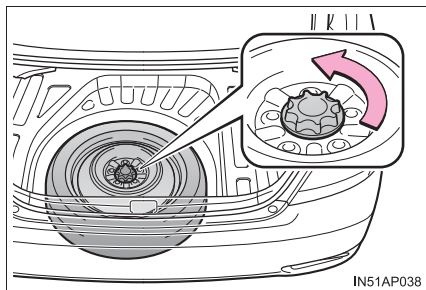
- ① 締まる
- ② ゆるむ

格納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう、確実に固定してください。



応急用タイヤの取り出し方

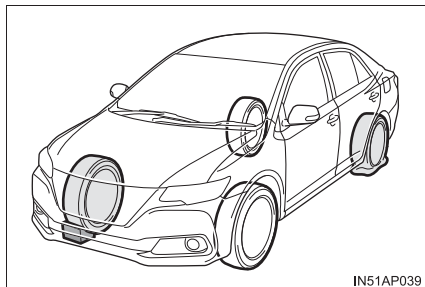
- 1 マットとカバーを取りはずす (→ P. 333)
- 2 留め具をはずし、タイヤを取り出す



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

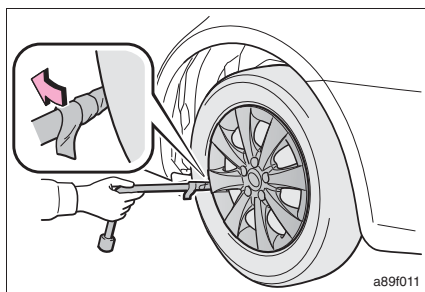
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



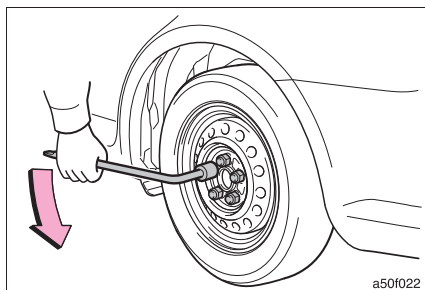
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップをはずす (スチールホイールのみ)

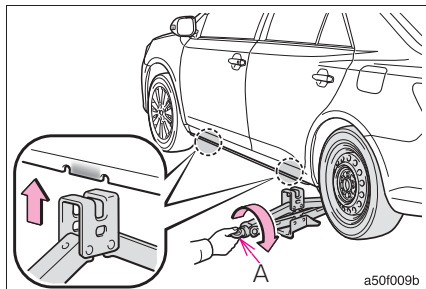
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。



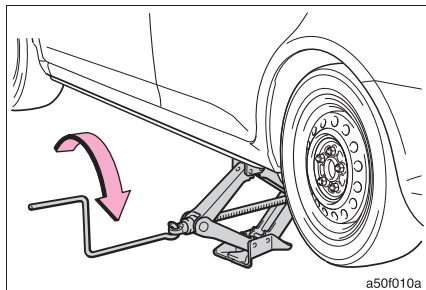
3 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



- 4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

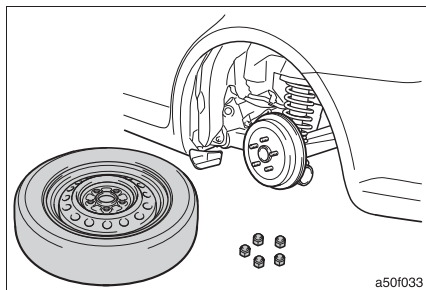


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



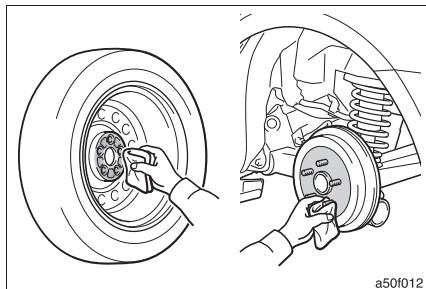
 警告**■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1050 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→ P. 339)

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

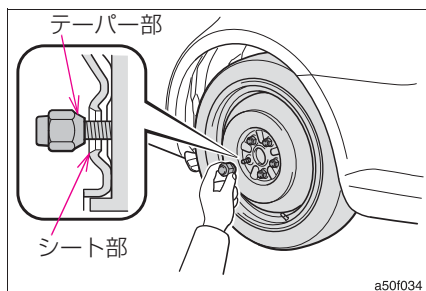


a50f012

- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

- ▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき
(応急用タイヤを含む)

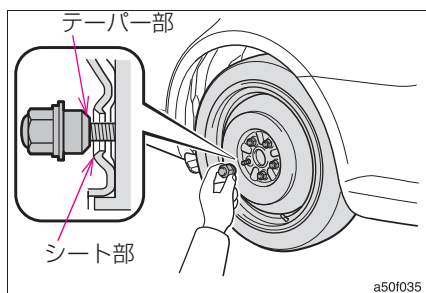
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



a50f034

- ▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

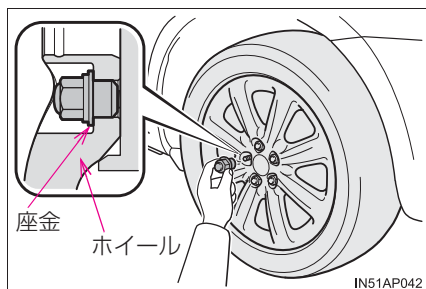
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



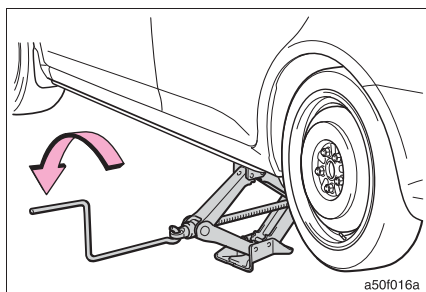
a50f035

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする



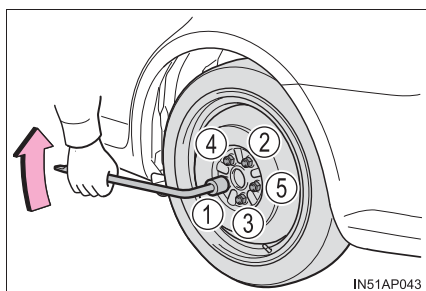
3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

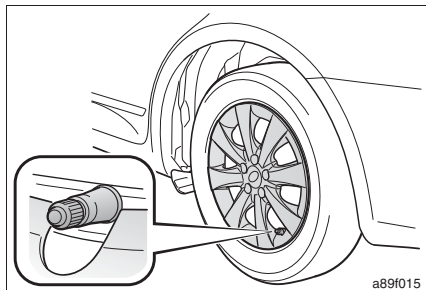
103 N・m (1050 kgf・cm)



5 ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

**6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する **知識****■ 応急用タイヤについて**

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 364）

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1** 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2** パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3** タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| ・ ABS | ・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★ |
| ・ ブレーキアシスト | ・ LDA (レーンディパーチャーアラート / 車線逸脱警報) ★ |
| ・ VSC | ・ 先行車発進告知機能 ★ |
| ・ TRC | ・ クリアランスソナー ★ |
| ・ EPS | ・ インテリジェントクリアランスソナー ★ |
| ・ クルーズコントロール ★ | |
| ・ オートマチックハイビーム ★ | |

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム ★

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗り越えるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 131, 134）に従ってもエンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 131, 134）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
（→ P. 60）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 348）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合 （スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 345）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 348)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります (スマートエントリー&スタートシステム装着車)。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

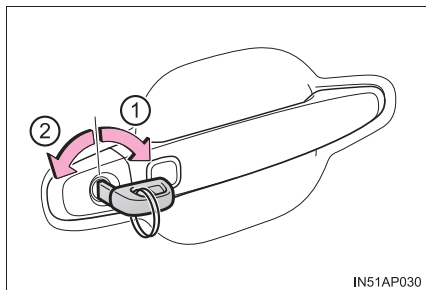
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 94）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 79）を使って次の操作ができます。

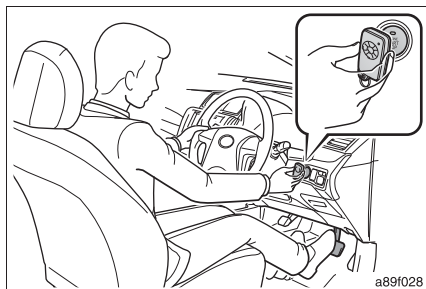
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがエンジンスイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。



- 3 エンジンスイッチのインジケーターが緑色に点灯したら、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は、一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 292)

■ モードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルを足から離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 135)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

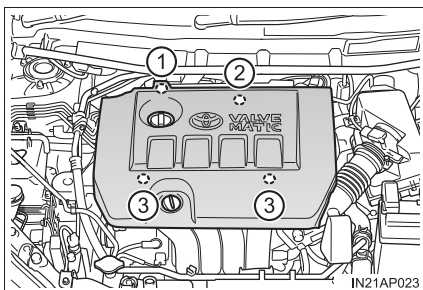
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 280)
- 2 エンジン上部のカバーをはずす (1NZ-FE エンジン搭載車を除く)

カバーの各部を次の順で上に引き、エンジン側の固定ピンからカバーをはずします。

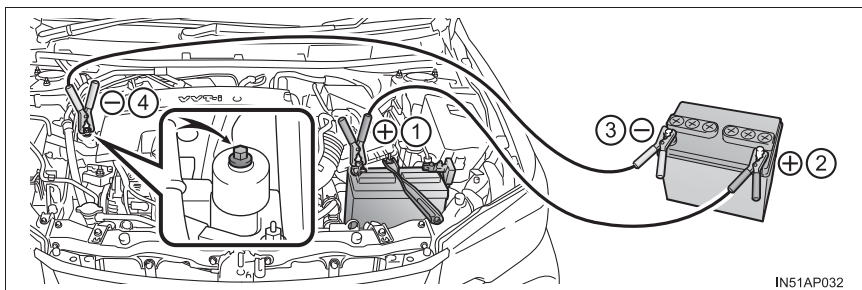
- ① 運転席側後方
- ② 助手席側後方
- ③ 車両前方 (2ヶ所)

図は 3ZR-FAE エンジンで説明しています。

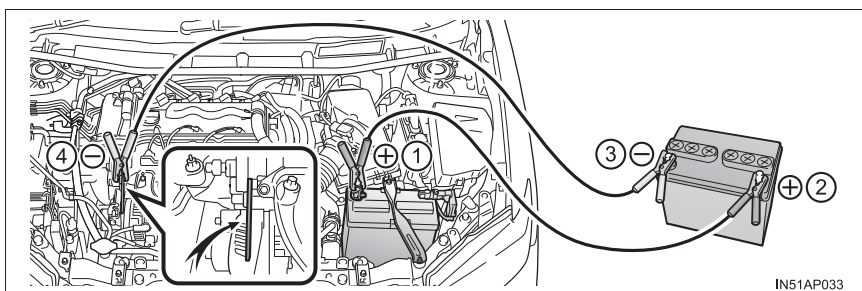


- 3 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (次ページの図に示すような固定された部分) につなぐ

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



▶ 2ZR-FAE / 3ZR-FAE エンジン搭載車



図は 3ZR-FAE エンジンで説明しています。

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 5 エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

6 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん“ON”にしてから、自車のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

7 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの + 端子のカバーをもとにもどしてください。

8 エンジン上部のカバーをもとどおりに取り付ける
(1NZ-FE エンジン搭載車を除く)

取りはずしたときと同じ順番で、エンジン側の固定ピンにはめ合わせます。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったとき

- コンピュータに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→ P. 371)

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など（Stop & Start システム装着車）

バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 分～60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーの交換について（Stop & Start システム装着車）

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。Q55 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ 1NZ-FE エンジン搭載車では

車両のアースポイント（P. 348 の③で、④の接続位置）にブースターケーブルを取り付ける際は、エンジンが始動したときに振動で脱落しないよう、しっかりと接続してください。V リブドベルトと近い位置にあるため、脱落してベルトに接触すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

**■ エンジン上部のカバーの損傷を防ぐために
(2ZR-FAE / 3ZR-FAE エンジン搭載車)**

次のことを必ずお守りください。

- カバーを取りはずすときは、前後同時に引き上げたり、前方からはずしたりしないでください。
- カバーを取り付けるときは、取り付け部上面を強い力で押さえたり、たたいたりしないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 67）がレッドゾーンに入ったりエンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

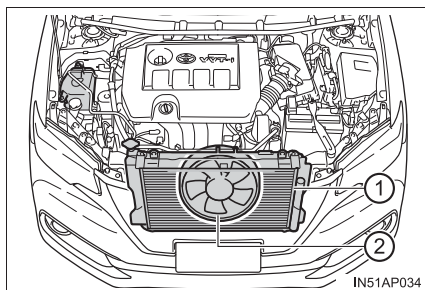
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

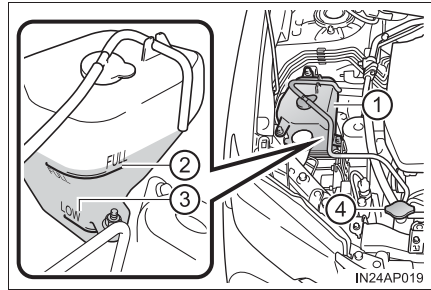
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



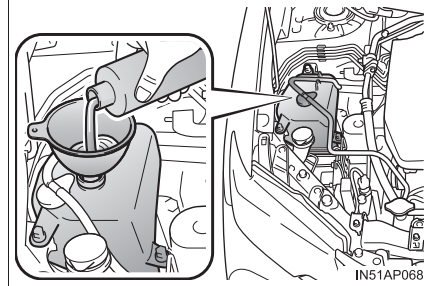
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを開始し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

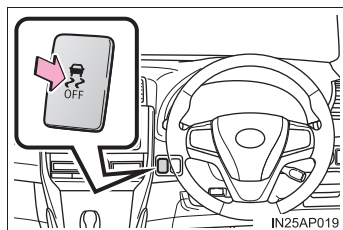
ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは

TRC を停止してください。(→ P. 226)



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)360

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....367

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目371

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	60

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20※ ² — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	1NZ-FE	3.4	3.7
	2ZR-FAE	3.9	4.2
	3ZR-FAE		

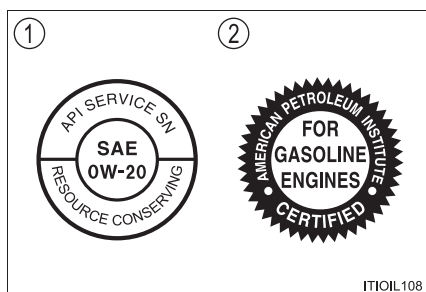
※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

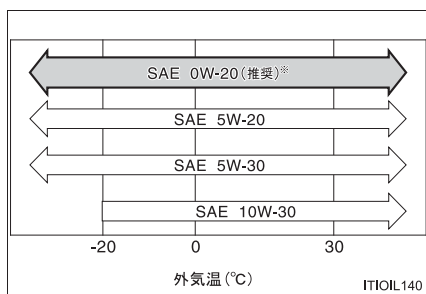
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。
W 前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い (数値が大きい) オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	1NZ-FE	5.3
	2ZR-FAE	5.4
	3ZR-FAE	

オートマチックトランスミッション

エンジン	駆動方式	指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
1NZ-FE	FF (前輪駆動)	トヨタ純正 CVT フルード FE	7.5
2ZR-FAE	FF (前輪駆動)		8.0
	4WD (4 輪駆動)		7.9
3ZR-FAE	FF (前輪駆動)		8.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

リヤディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ギヤオイルスーパー (API GL-5 SAE 75W-90)	0.9

ブレーキ**■ ブレーキペダル**

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	81 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 294 N (30 kgf) のときのノッチ※数	9 ~ 12

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)	2.5
--------------	-----

タイヤ・ホイール

▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
185/65R15 88S	15 × 6J	230 (2.3)	230 (2.3)
195/65R15 91S	15 × 6J	230 (2.3)	230 (2.3)
195/55R16 87V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)

▶ 応急用タイヤ

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)	
T135/80D16 101M			

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンタイプ） （バルブタイプ：HIR2）	55
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	リヤ読書灯★	5
	ラゲージルームランプ	3.8
	バニティミラー天井照明	8
	グローブボックスランプ	1.2

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NZT260	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
ZRT260	2ZR-FAE (1.8L ガソリン)	
ZRT265		4WD (4 輪駆動)
ZRT261	3ZR-FAE (2.0L ガソリン)	FF (前輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 74

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 82)

機能の内容		初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (ブザー) ※ ¹	施錠・解錠時	あり	なし	—	○
	トランク解錠時※ ²	あり	なし		
作動の合図 (非常点滅灯)		あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間		30 秒	60 秒	—	○
			120 秒		
半ドア警告ブザー※ ¹		あり	なし	—	○

※¹ スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ

※² ワイヤレスリモコンで解錠した場合のみ

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→ P. 91)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 82)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける (0.8 秒)	解錠しない	—	○
		2 回押し		
		1 回押し		

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 144)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 5	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション (→ P. 254)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○

■ メーター (→ P. 70)

機能の内容	初期設定		変更後	①	②
クリアランスソナー★	ON		OFF	○	—
インテリジェントクリアランスソナー★	ON		OFF	○	—
LDA（レーンディパーチャーアラート）★の警報感度	高い		普通	○	—
先行車発進告知機能★	設定	ON	OFF	○	—
	タイミ ング	普通	早い	○	—
			遅い	○	—
エアコンが ON のときの Stop & Start システム★のアイドル時間	NORMAL		LONG	○	—
エコドライブインジケータランプの表示	ON		OFF	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費バー表示		※	○	—
	平均車速（リセット間）			○	—
ドライブインフォ 2	航続可能距離		※	○	—
	平均車速（リセット間）			○	—
割込表示	ON		OFF	○	—

※ 瞬間燃費、平均燃費 (リセット間)、平均燃費 (給油後)、平均燃費 (始動後)、平均車速 (リセット間)、平均車速 (始動後)、距離 (航続可能)、距離 (始動後走行)、走行時間 (リセット間)、走行時間 (始動後)、ブランクから 2 項目を選択

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→ P. 242)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○

■ クリアランスソナー★ (→ P. 193)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
バックセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ~ 5	—	○

 警告

■ カスタマイズを行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ カスタマイズを行うとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P. 114
インテリジェントク リアランスソナー★	バッテリー脱着時	P. 210

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....374

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）378

アルファベット順さくいん.....380

五十音順さくいん381

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。
（→ P. 80）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）。（→ P. 81）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 292）
- エンジンスイッチがONモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）になっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチをOFFにしてください。
（→ P. 135）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 85）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 85）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 140）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 132）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 348）



エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 134）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 140）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 92）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 137）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 346）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 348）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチの位置が“ON”になっていますか？
エンジンスイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 140）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 140）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます（→ P. 132）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 137）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 113）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 136）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 378）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 324、328 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 332）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 357）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションが P 以外になっている	P. 328
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない★	P. 83
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 93

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランクが確実に閉まっていない	P. 330
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 326
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 325
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 124
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 164
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★の車線逸脱警報機能が作動した	P. 177

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 236

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 224, 324

AHB

(オートマチックハイビーム) 183

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 224, 324

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 366

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 361

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス) 47

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 177

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 164, 325

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークル
スタビリティコントロール) 224

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 33, 324

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 224, 326

TRC

(トラクションコントロール) 224, 326

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処置).....	348
アームレスト	
フロント.....	259
リヤ.....	268
アイドリングストップ	
アイドリングストップ時間....	220
Stop & Start キャンセル	
表示灯.....	214
Stop & Start システム	213
Stop & Start	
表示灯.....	213, 214
アウターミラー.....	109
アシストグリップ.....	268
アンチロックブレーキ	
システム (ABS).....	224

い

イグニッション	
スイッチ.....	131, 134
イベントデータ	
レコーダー (EDR).....	8
イモビライザーシステム.....	60
イルミネーテッドエントリー	
システム	
カスタマイズ機能.....	367
作動について.....	256
点灯する部位.....	254
インジケーター (表示灯).....	62
インタリジェントクリアランス	
ソナー.....	201
警告灯.....	326
警告メッセージ.....	210
操作.....	201
表示灯.....	64

インテリアランプ (室内灯)

スイッチ.....	255
ワット数.....	365
インナーミラー.....	108

う

ウインカー (方向指示灯)

電球の交換.....	303, 304
方向指示レバー.....	142
ワット数.....	365

ウインドウ

ウォッシャー.....	150, 153
パワーウインドウ.....	113
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	237, 244

ウインドウロックスイッチ..... 113

ウォーニングランプ (警告灯)..... 62

ウォッシャー

液の補給.....	283
スイッチ.....	150, 153
タンク容量.....	364
冬の前の準備・点検.....	232

運転

環境に配慮した運転.....	75
寒冷時の運転.....	232
正しい姿勢.....	24
手順.....	118

運転席シートベルト

非着用警告灯.....	325
-------------	-----

え

エアコン

オートエアコン	242
フィルターの交換	290
マニュアルエアコン	236

エアバッグ

一般的な警告	34
SRS エアバッグ	33
お子さまのための注意	34
カーテンシールド エアバッグに関する警告	35
カーテンシールド エアバッグの作動条件	38
改造・廃棄について	37
警告灯	324
サイドエアバッグに 関する警告	36
サイドエアバッグの 作動条件	38
正しい姿勢	24
配置	33
フロント SRS エアバッグの 作動条件	38

エコドライブ

インジケーターランプ	74
------------------	----

エレクトリックパワー

ステアリング (EPS)	224
--------------------	-----

エンジン

イグニッション

スイッチ	131, 134
エンジン回転計 (タコメーター)	66
エンジンがかからない	344
エンジン スイッチ	131, 134
オーバーヒート	354
かけ方	131, 134
警告灯	324
ボンネット	280

エンジンイモビライザー

システム	60
------------	----

エンジンオイル

冬の前の準備・点検	232
油圧警告灯	325
容量	360
エンジン スイッチ	131, 134

お

オイル

油脂類の容量と銘柄	360
応急用タイヤ (スペアタイヤ) 空気圧	364
収納場所	333
取り出し方	335
オートエアコン	242
オートマチックトランスミッション オートマチックトランス ミッション	139
シフトレバーが シフトできない	140
オートマチックハイビーム	183

オーバーヒート（エンジン）.....	354
オープナー	
給油口.....	155
トランク.....	87
ボンネット.....	280
お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ.....	113
エアバッグに関する警告.....	34
お子さまの	
シートベルト着用.....	29
お子さまを乗せる	
ときの警告.....	31, 86, 102
キーの電池に関する警告.....	294
子供専用シート.....	43
シートベルトに関する警告.....	31
チャイルドシートの	
固定.....	53, 54
チャイルドプロテクター.....	85
発炎筒の取り扱いに	
関する警告.....	313
バッテリーに関する警告.....	352
パワーウインドウに	
関する警告.....	115
オドメーター（積算距離計）.....	67

か

カーテンシールドエアバッグ.....	33
外気温表示.....	66
カスタマイズ機能.....	367
ガソリンスタンドでの情報.....	396
カップホルダー.....	260
ガレージジャッキ.....	282

き

キー

イグニッション	
スイッチ.....	131, 134
エンジンスイッチ.....	131, 134
キーナンバプレート.....	78
キーの構成.....	78
キーの電池が切れた.....	292
キーレスエントリー.....	78
キーをなくした.....	80
電子キー.....	78
電子キーが正常に動かない.....	346
電子キーの作動範囲.....	92
メカニカルキー.....	78
ワイヤレスドアロック.....	79
給油口.....	155
緊急時の対処	
イベントデータレコーダー.....	8
エンジンがかからない.....	344
オーバーヒートした.....	354
キーの電池が切れた.....	292
キーをなくした.....	80
緊急用フック.....	319
警告灯がついた.....	324
けん引.....	316
故障したときは.....	310
車両を緊急停止する.....	314
スタックした.....	357
電子キーが正常に動かない.....	346
発炎筒.....	312
バッテリーがあがった.....	348
パンクした.....	332
非常点滅灯.....	311
フューエルポンプ	
シャットオフシステム.....	323
緊急ブレーキシグナル.....	225

く

空気圧 (タイヤ)	364
空調 (エアコン)	
オートエアコン	242
フィルターの交換	290
マニュアルエアコン	236
区間距離計	
(トリップメーター)	67
曇り取り	
フロントガラス	237, 244
ミラーヒーター	111
リヤウインドウ	
デフォグガー	237, 244
クルーズコントロール	189
グローブボックス	258

け

警告器 (ホーン)	106
計器 (メーター)	
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70
メーター	62
メーター照度調整表示	67
警告灯	
インテリジェント	
クリアランスソナー	326
ABS & ブレーキアシスト	324
SRS エアバッグ	324
エンジン	324
シートベルト非着用	325
充電	325
スリップ表示灯	326
燃料残量	325
パワーステアリング	324
PCS	325

プリテンショナー	324
ブレーキ	324
ブレーキオーバーライド	
システム	326
油圧	325

警告ブザー

シートベルト非着用	325
スマートエントリー&	
スタートシステム	93, 329
パーキングブレーキ	
未解除走行時	326
半ドア	83
ランプ消し忘れ	148
リバース	140
化粧用 (バニティ) ミラー	265
けん引	316

こ

交換

エアコンフィルター	290
キーの電池	292
タイヤ	332
電球	298
ヒューズ	295
工具 (ツール)	333
航続可能距離	72
後退灯 (バックアップランプ)	
電球の交換	304
ワット数	365
コートフック	269
子供専用シート	43
小物入れ	262
コンソールボックス	259
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	144

さ

サイドエアバッグ	33
サイド方向指示灯（ウインカー）	
電球の交換	306
方向指示レバー	142
ワット数	365
サンバイザー	265
三角表示板収納スペース	264

し

シート

シートヒーター	251
正しい姿勢	24
チャイルドシートの	
固定	53, 54
手入れ	275
フラットシート	98
フロントシートの調整	97
フロントシートの調整に	
関する警告	99
ヘッドレスト	104
リヤシートの調整	100
リヤシートの調整に	
関する警告	102
シートヒーター	251

シートベルト

お子さまの着用	29
緊急時シートベルト	
固定機構	29
シートベルト	
プリテンショナー	29
疾患のある方の着用	31
清掃・手入れ	276
高さの調整	29
正しい着用	26
チャイルドシートの固定	53
妊娠中の方の着用	31
非着用警告灯	325
プリテンショナー警告灯	324
分離・格納のしかた	28

室内灯（ルームランプ）

スイッチ	255
ワット数	365

シフトレバー

オートマチックトランス	
ミッション	139
シフトレバーが	
シフトできない	140

シフトロックシステム..... 139

車速

スピードメーター	66
平均車速	72

ジャッキ

ガレージジャッキ	282
車載ジャッキ	332

ジャッキハンドル.....	333
車幅灯	
スイッチ.....	144
電球の交換.....	302
ワット数.....	365
車両型式.....	366
車両仕様（スペック）.....	360
収納装備.....	257
手動光軸調整ダイヤル.....	146
瞬間燃費.....	72
助手席シートベルト	
非着用警告灯.....	325

す

水温計.....	67
スイッチ	
イグニッション.....	131, 134
ウインドロック.....	113
エンジン.....	131, 134
オートマチック	
ハイビーム.....	183
クルーズコントロール.....	189
ドアミラー.....	109
ドアロック.....	84
パワーウインドウ.....	113
PCS OFF.....	167
非常点滅灯.....	311
VSC.....	227
フロントフォグランプ.....	149
フロントワイパー	
デアイサー.....	238, 245
ランプ.....	144
リヤウインドウ	
デフォグガー.....	237, 244
ワイパー&	
ウォッシャー.....	150, 153

スターター

エンジンの始動.....	131, 134
スターターがまわらない.....	344

スタック

緊急用フック.....	319
スタックした.....	357

ステアリングアシステッド

ビークルスタビリティ	
コントロール（S-VSC）.....	224

ステアリング

スイッチ.....	71, 269
-----------	---------

ステアリングホイール（ハンドル）

ステアリングロックを	
解除する.....	132, 137
調整.....	106
パワーステアリング警告灯.....	324

ストップランプ（制動灯）

電球の交換.....	306
------------	-----

スピードメーター（速度計）.....66

スペアタイヤ（応急用タイヤ）

空気圧.....	364
収納場所.....	333
取り出し方.....	335

スペック（車両仕様）.....360

スマートエントリー&

スタートシステム

エンジンの始動.....	134
カスタマイズ機能.....	367
作動範囲.....	92
正常に働かない.....	346
節電機能.....	92
ドアの解錠・施錠.....	82
トランクの解錠.....	87

せ

清掃	
外装	272
シートベルト	276
内装	275
制動灯（ストップランプ）	
電球の交換	306
積算距離計（オドメーター）	67
節電機能	92
先行車発進告知機能	187
洗車	272
前照灯（ヘッドランプ）	
手動光軸調整ダイヤル	146
スイッチ	144
電球の交換	300
ランプ消し忘れ警告ブザー	148
ランプ消し忘れ防止機能	147
ライトセンサー	147
ワット数	365
前方センサー	160

そ

速度計	
（スピードメーター）	66

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
電球の交換	303, 304
方向指示レバー	142
ワット数	365
タイヤ	
応急用タイヤ	332
空気圧	286, 364
交換	332
チェーン	233
点検	285
パンクした	332
冬用タイヤ	232
ローテーション	285
タコメーター	
（エンジン回転計）	66

ち

チェーン（タイヤチェーン）	233
チャイルドシート	
ISOFIX バーでの固定	54
子供専用シート	43
シートベルトでの固定	53
チャイルドプロテクター	85
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	143

つ

ツール（工具）	333
---------------	-----

て

ディスプレイ (マルチインフォメーション ディスプレイ)	70
手入れ	
外装	272
シートベルト	276
内装	275
テールランプ (尾灯)	
スイッチ	144
電球の交換	306
ワット数	365
デフォッガー	
フロントガラス	237, 244
ミラーヒーター	111
リヤウインドウ デフォッガー	237, 244
電球 (バルブ)	
交換	298
ワット数	365
点検整備基準 (メンテナンスデータ)	360
電子キー	
作動範囲	92
正常に働かないとき	346
節電機能	92
電池が切れた	292

と

ドア	
ドアガラス	113
ドアポケット	261
ドアミラー	109
ドアロック	79, 82

ドアガラス	113
ドアポケット	261
ドアミラー	
調整	109
ミラーヒーター	112
盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	60
読書灯	
スイッチ	255
ワット数	365
時計	266
トップデザアンカー	52
Toyota Safety Sense C	
オートマチック ハイビーム	183
前方センサー	160
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	164
LDA (レーンディパーチャー アラート)	177
トラクションコントロール (TRC)	224
トランク	
解錠	79, 87
トランクオープナー	87
ラゲージルームランプ	88
トランクランプ (ラゲージルームランプ)	
作動について	88
ワット数	365
トリップメーター (区間距離計)	67

な

「ナノイー」..... 245, 248

に

荷物

積むときの注意..... 129

トランク..... 87

ね

燃費

瞬間燃費..... 72

平均燃費..... 72

燃料

給油..... 155

残量警告灯..... 325

種類..... 360

燃料計..... 66

フューエルポンプ

シャットオフシステム..... 323

容量..... 360

は

パーキングブレーキ

(駐車ブレーキ)..... 143

パーソナルランプ

スイッチ..... 255

ワット数..... 365

ハイマウントストップランプ

電球の交換..... 306

ハザードランプ (非常点滅灯)

スイッチ..... 311

電球の交換..... 303, 304

ワット数..... 365

挟み込み防止機能..... 113

発炎筒..... 312

バックアップランプ (後退灯)

電球の交換..... 304

ワット数..... 365

バッテリー

バッテリーあがりを

防ぐために..... 256, 351

バッテリーがあがった..... 348

冬の前の準備・点検..... 232

バニティ (化粧用) ミラー..... 265

バニティミラー天井照明

作動について..... 265

ワット数..... 365

バルブ (電球)

交換..... 298

ワット数..... 365

パワーウィンドウ..... 113

パンク

パンクした..... 332

番号灯 (ライセンスプレートランプ)

スイッチ..... 144

電球の交換..... 305

ワット数..... 365

ハンドル (ステアリングホイール)

ステアリングロックを

解除する..... 132, 137

調整..... 106

パワーステアリング

警告灯..... 324

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	224
ヒーター	
オートエアコン	242
シートヒーター	251
マニュアルエアコン	236
ミラーヒーター	111
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	311
電球の交換	303, 304
ワット数	365
尾灯 (テールランプ)	
スイッチ	144
電球の交換	306
ワット数	365
ヒューズ	295
表示灯	62
ヒルスタートアシスト	
コントロール	224

ふ

フォグランプ	
(フロントフォグランプ)	
スイッチ	149
電球の交換	301
ワット数	365
フック	
緊急用フック	319
けん引フック	319
コートフック	269
フューエルポンプ	
シャットオフシステム	323

冬用タイヤ	232
フラットシート	98
ブリクラッシュセーフティ	
システム (PCS) 機能	164
PCS OFF	167
PCS 警告灯	325
ブレーキ	
緊急ブレーキシグナル	225
警告灯	324
パーキングブレーキ	143
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	124
メンテナンスデータ	363
ブレーキアシスト	224
フロアマット	22
フロントシート	
調整	97
フラットシート	98
フロントシートの調整に	
関する警告	99
フロントパーソナルランプ	
スイッチ	255
ワット数	365
フロントフォグランプ	
スイッチ	149
電球の交換	301
ワット数	365
フロント方向指示灯 (ウインカー)	
電球の交換	303
方向指示レバー	142
ワット数	365
フロントワイパーデアイサー	245

へ

平均車速	72
平均燃費	72
ヘッドランプ（前照灯）	
手動光軸調整ダイヤル	146
スイッチ	144
電球の交換	300
ランプ消し忘れ警告ブザー	148
ランプ消し忘れ防止機能	147
ライトセンサー	147
ワット数	365
ヘッドレスト	104

ほ

ホイール	285
方向指示灯（ウインカー）	
電球の交換	303, 304
方向指示レバー	142
ワット数	365
ホーン（警音器）	106
ボトルホルダー	261
ボンネット	280

ま

マニュアルエアコン	236
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70

み

ミラー	
インナーミラー	108
ドアミラー	109
パニティ（化粧用）ミラー	265
ミラーヒーター	237, 244

め

メーター（計器）	
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	70
メーター照度調整表示	67
メンテナンス	
メンテナンスデータ	360

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	367
油脂類	360

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
スイッチ	144
電球の交換	305
ワット数	365
ランプ	
グローブボックスランプ	258
室内灯	254
電球の交換	298
バニティミラー天井照明	265
非常点滅灯	311
フロントパーソナルランプ	255
フロントフォグランプ	149
ヘッドライト (前照灯)	144
方向指示灯 (ウインカー)	142
ラゲージルームランプ	
(トランクランプ)	88
リヤ読書灯	255
ワット数	365
ラゲージルームランプ	
(トランクランプ)	
作動について	88
ワット数	365

り

リヤウインドウ	
デフォグガー	237, 244
リヤシート	
折りたたみ	101
調整	100
前倒し	101
リヤシートの調整に	
関する警告	102
リヤセンターアームレスト	268
リヤ読書灯	
スイッチ	255
ワット数	365
リヤ方向指示灯 (ウインカー)	
電球の交換	304
方向指示レバー	142
ワット数	365

る

ルームミラー	108
ルームランプ (室内灯)	
スイッチ	255
ワット数	365

れ

冷却水	
冬の前の準備・点検	232
容量	362
冷却装置	
エンジンオーバーヒート	354

ろ

ロック

ウインドウロック	113
シフトロックシステム.....	140
チャイルドプロテクター.....	85
ドアロック	84

わ

ワイパー

フロント.....	150
リヤ	153
ワイパーデアイサー.....	238, 245
ワイヤレスリモコン	
電池交換.....	292
リモコン	79



ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック P. 280	給油口 P. 155
--------------------	---------------

INPAP035

ボンネット解除レバー P. 280	給油口オープナー P. 157	タイヤ空気圧 P. 364
----------------------	--------------------	------------------

燃料の容量（参考値）	60L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン P. 155, 360 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。 P. 360
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 364
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 1NZ-FE エンジン搭載車：3.4 L 2ZR-FAE / 3ZR-FAE エンジン搭載車：3.9 L オイルとフィルター交換時 1NZ-FE エンジン搭載車：3.7 L 2ZR-FAE / 3ZR-FAE エンジン搭載車：4.2 L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

